

# 町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅷ

上之国洲崎館跡分布調査  
史跡上之国花沢館跡分布調査  
ワシリ遺跡分布調査



2005.3  
上ノ国町教育委員会

# 町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅷ

2005.3  
上ノ国町教育委員会



# 序

例年になく降雪量が多く寒い冬でしたが、ようやく春の息吹が感じられてまいりました。

今年度は上之国洲崎館跡、ワシリ遺跡、上之国花沢館跡の分布調査を行いました。この間、関係諸機関の諸先生にご指導、ご助言をいただきました。心よりお礼申し上げます。また調査を進めるにあたり、北村地区、汐吹地区、上ノ国地区の土地所有者の皆様の多大なるご協力をいただきました。衷心より厚く感謝申し上げます。

さて上之国洲崎館跡では住宅建設予定地の分布調査を行いました。中世遺物は発見されませんでした。このことからこの地区ではかなり古い時代から人々の営みがあったことがわかりました。

ワシリ遺跡の調査は昨年度調査を行った箇所北側に隣接する台地を行いました。その結果、柱穴、土壇、竪穴等が確認され、この地区までワシリ遺跡の広がりがあることがわかりました。

上之国花沢館跡の調査では、中世遺物、遺構の包含層が薄く、遺構検出は非常に困難を極めました。遺物は15世紀中葉の珠洲すり鉢や青磁、白磁等が発見され、15世紀中葉の館であることが確認され、北海道最古の文献である「新羅之記録」の記述と符合することがわかりました。今年度の調査は面積が狭小であり、不明な点が多々ありましたが、来年度も引き続き調査を予定しており、今後館の内部構造等が判明してくるのではないかと考えられます。

来年度もこの事業を継続していく予定でございますので、関係各機関、諸先生方にはより一層のご指導を賜りますよう、お願い致しまして、刊行のご挨拶と致します。

平成17年3月

上ノ国町教育委員会

教育長 上野 秀勝

## 本文目次

序

本文目次／挿図目次／表目次／写真図版目次

例言／引用参考文献

### 上之国洲崎館跡分布調査

#### I 調査の概要

1. 調査の経緯…………… 2
2. 調査の方法…………… 2
3. 調査の経過…………… 2
4. 基本土層…………… 2

#### II 調査…………… 5

### 史跡上之国花沢館跡分布調査

#### I 調査の概要

1. 調査の経緯……………14
2. 調査の方法……………14
3. 調査の経過……………14
4. 基本土層……………14

#### II 調査

1. 頂上平坦部……………17
2. 館後方部空壕跡……………17
3. 第2平坦面A、B調査区……………18
4. 出土遺物……………18

#### III 小括……………27

### ワシリ遺跡分布調査

#### I 調査の概要

1. 調査の経緯……………28
2. 調査の方法……………28
3. 調査の経過……………28
4. 基本土層……………28

#### II 調査……………42

### III 遺構と遺物

1. 土器の分類……………43

#### IV 小括……………46

報告書抄録

## 挿図目次

第1図 遺跡位置図…………… 1

### 上之国洲崎館跡分布調査

第2図 調査区位置図…………… 3

第3図 調査範囲 調査区位置図 …… 4

第4図 テストピット土層堆積図他……………10

第5図 テストピット土層堆積図他……………11

第6図 テストピット出土遺物……………12

第7図 テストピット出土遺物……………13

### 史跡上之国花沢館跡分布調査

第8図 遺跡位置図……………15

第9図 遺構配置図……………16

第10図 第2平坦面 調査区平面図他 ……18

第11図 頂上平坦面A、空壕 平面図他 ……19

第12図 調査区出土遺物・過年度表採遺物……………24

第13図 調査区出土銭・過年度表採銭……………25

### ワシリ遺跡分布調査

第14図 調査区位置図……………29

第15図 遺構配置図……………30

第16図 第1調査区 遺構平面図他……………31

第17図 第1調査区 竪穴、土壌平面図他……………32

第18図 第2、3調査区 遺構平面図他……………33

第19図 第4、5調査区 遺構平面図他……………34

第20図 竪穴 遺物水平垂直分布図……………45

第21図 竪穴 遺物水平垂直分布図……………46

第22図 2002、2003年度出土遺物 竪穴 ……51

## 表目次

### 上之国洲崎館跡分布調査

表1	テストピット土層観察表	6
表2	テストピット土層観察表	7
表3	テストピット土層観察表	8
表4	テストピット土層観察表	9
表5	調査区出土遺物集計表	9

### 史跡上之国花沢館跡分布調査

表6	調査区土層観察表	21
表7	調査区土層観察表	22
表8	調査区土層観察表	23
表9	遺構土壌選別表	23
表10	出土遺物集計表(陶磁器等)	26
表11	出土遺物集計表(鉄製品)	26
表12	出土遺物観察表(陶磁器)	26
表13	花沢館跡表採銭一覧表	27
表14	花沢館跡出土銭一覧表	27

### ワシリ遺跡分布調査

表15	土壌データ表	35
表16	調査区土層観察表	36
表17	調査区土層観察表	37
表18	調査区土層観察表	38
表19	調査区土層観察表	39
表20	調査区土層観察表	40
表21	調査区土層観察表	41
表22	出土遺物観察表(石器)	41
表23	2002、2003年ワシリ遺跡出土土器観察表	47
表24	2002、2003年ワシリ遺跡出土土器観察表	49

## 写真図版目次

PL.1	史跡上之国花沢館跡分布調査
PL.2	ワシリ遺跡分布調査
PL.3	上之国洲崎館跡分布調査
PL.4	上之国洲崎館跡分布調査 出土遺物
PL.5	史跡上之国花沢館跡分布調査
PL.6	史跡上之国花沢館跡分布調査 出土遺物
PL.7	史跡上之国花沢館跡分布調査 調査区出土銭・過年度表採銭
PL.8	ワシリ遺跡分布調査 遺構、調査区出土遺物
PL.9	ワシリ遺跡 出土遺物
PL.10	ワシリ遺跡 出土遺物
PL.11	ワシリ遺跡 出土遺物
PL.12	ワシリ遺跡 出土遺物

附図 ワシリ遺跡 遺構配置・土器分布図

## 例 言

1. 本書は平成16年度に実施した町内遺跡発掘調査等事業の概要をまとめたものである。

2. 発掘調査の体制は次のとおりである。

調査主体者 上ノ国町教育委員会

教育長 上野秀勝

指導 史跡上之国勝山館跡調査研究専門員

東北芸術工科大学名誉教授 仲野浩

東北学院大学教授 榎森進

上ノ国町史跡整備検討委員会

東北芸術工科大学名誉教授 仲野浩

東北芸術工科大学教授 田中哲雄

東北芸術工科大学教授 宮本長二郎

東北学院大学教授 榎森進

東京大学名誉教授 渡辺定夫

鶴見大学講師 鈴木亘

主管 上ノ国町教育委員会文化財課

課長 渡部孝之

主任学芸員 松崎水穂

文化財係長・学芸員 斉藤邦典（発掘担当者）

博物館整備係 淵田俊一郎

嘱託発掘調査員 塚田直哉

嘱託発掘調査員 高橋昇（調査員）

文化財アドバイザー 久末久義

臨時事務補 京谷佳子

平成16年度上之国洲崎館跡分布調査、史跡上之国

花沢館跡分布調査、ワシリ遺跡分布調査

作業員 川口泰子、工藤吹子、鈴木千春、

八田綾子、森恵美子、森美奈子

3. 本書の編集、執筆は斉藤、高橋が協議の上次のとおり分担し、文末に担当者名を記載した。

上之国洲崎館跡分布調査

I 調査の概要、II 調査：高橋

II 調査：斉藤

史跡上之国花沢館跡分布調査

I 調査の概要：高橋

II 調査、III 小括：斉藤

ワシリ遺跡分布調査

I 調査の概要、II 調査：高橋

II 調査、III 遺構と遺物、IV 小括：斉藤

4. 挿図の作成は担当者、調査員、作業員が行った。

5. 土層の土色は「新版標準土色帳」（農林水技術会議事務局）を遺物の色調名は「標準色彩図表」（日本色彩社）を用い、目測で比定した。

5. 本書に掲載の調査時の写真は斉藤、高橋が、遺物写真は高橋が撮影を行った。

7. 本書に掲載の調査並びに本書の作成にあたり、次の関係機関並びに各位に御指導、御援助賜った。御芳名を記し、厚く感謝申し上げます。

文化庁記念物課 岡田康博、坂井秀弥、玉多芳英、

本中眞、北海道教育庁文化課 大沼忠春、長沼孝、

千葉英一、高橋和樹、田才雅彦、工藤研治、藤原

秀樹、宗像公司、中村一郎、熊谷毅、高橋優、中

央大学 前川要 福島大学 工藤雅樹、函館工業

高等専門学校 中村和之、北海道埋蔵文化財セン

ター 畑宏明、西田茂、三浦正人、田中哲郎、越

田賢一郎、佐藤和雄、熊谷仁志、立川トマス、坂

本尚史、青森県埋蔵文化財センター 三浦圭介、

秋田県埋蔵文化財センター 小島朋夏、高橋学、

山形県埋蔵文化財センター 山田博之、北海道開

拓記念館 右代啓視、鈴木琢也、小林幸雄、平川

善祥、山田悟郎、檜山教育局 鈴木徳光、八戸市

博物館 佐々木浩一、大野亨、市浦村教育委員会

榊原滋高、浪岡町教育委員会 工藤清泰、旭川市

博物館 瀬川拓郎、乙部町教育委員会 森広樹、

藤田巧、松前町教育委員会 久保泰、前田正憲、

上磯町教育委員会 森靖弘、平取町教育委員会

森岡賢治、長田佳宏、八雲町教育委員会 三浦孝

一、柴田信一、森町教育委員会 藤田登、高杉博

章、函館市教育委員会南茅部教育事務所 福田裕

二、余市町教育委員会 乾芳宏、田中コンサル

豊原熙司、北海道文化財研究所 横山英介

8. 上之国洲崎館跡分布調査、史跡上之国花沢館跡

分布調査、ワシリ遺跡分布調査の実施にあたり、住

吉常雄氏、上ノ国八幡宮 宮司松崎辰彦氏、市山才

治氏他多くの土地所有者の皆様方に多大の御理解と

御協力を頂戴致しました。ご迷惑をおかけしたこと

をお詫び申し上げ、深く感謝致します。

## 引用参考文献

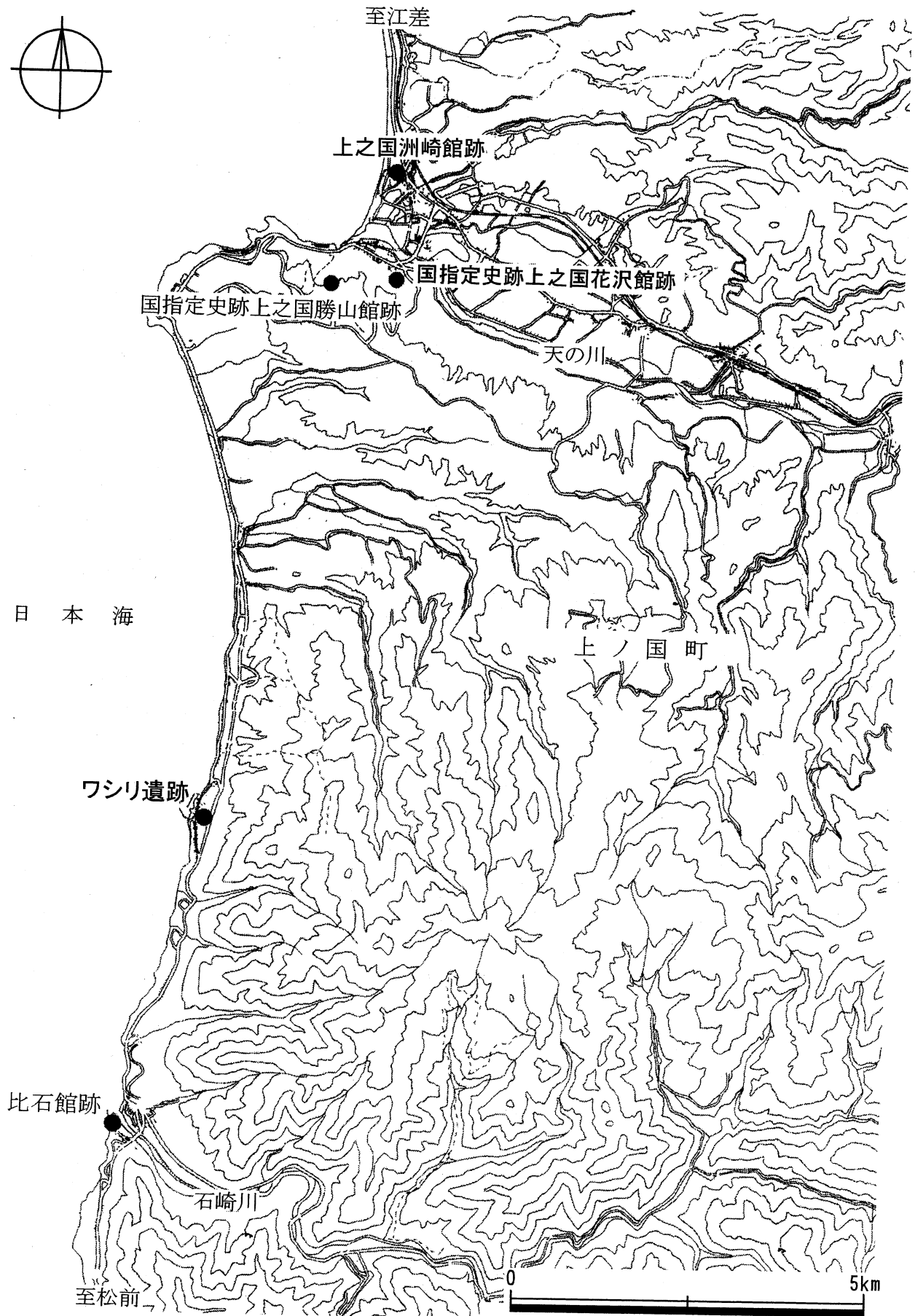
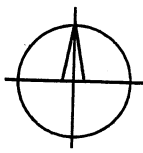
- 『檜山南部の遺跡』1955年 上ノ国町教育委員会・江差町教育委員会
- 『上ノ国村史』1956年 松崎岩穂
- 『上ノ国遺跡』1961年 上ノ国町教育委員会
- 『続上ノ国村史』1962年 松崎岩穂
- 『松前町立石遺跡・松前町大尽内遺跡発掘報告』1975年 松前町教育委員会
- 『元和』1976年 乙部町教育委員会
- 『奥尻島米岡第2遺跡』1978年 奥尻町教育委員会
- 『奥尻島青苗遺跡 図版編』1979年 函館土木現業所 奥尻町教育委員会
- 『アヨロ 恵山文化の墓』1980年 北海道先史学協会
- 「擦文文化」『北海道考古学講座』1980年 宇田川洋
- 『ホロナイポ遺跡』1980年 枝幸町教育委員会
- 『ホロナイポ遺跡II』1981年 枝幸町教育委員会
- 『奥尻島青苗遺跡』1981年 奥尻町教育委員会
- 『尾白内ー続縄文遺跡の調査報告ー』1981年 森町教育委員会
- 『北海道開拓記念館研究報告 第7号 ニツ岩』1982年 北海道開拓記念館
- 「14~16世紀の青磁碗の分類」『貿易陶磁研究 No.2』1982年 上田秀夫
- 『瀬棚南川』1983年 瀬棚町教育委員会
- 『恵山貝塚 続縄文時代の墳墓群の調査』1984年 尻岸内町教育委員会
- 「続縄文文化前半期の研究成果と今後の課題ーとくに、石狩低地帯の調査成果を中心にしてー」『北海道考古学 第20輯』1984年 石橋孝夫
- 「擦文式土器の編年的研究」『北海道の研究2 考古編II』1984年 石附喜三男
- 『南川2遺跡』1985年 瀬棚町教育委員会
- 『小樽忍路土場遺跡・忍路5遺跡』1985~1988年 (財)北海道埋蔵文化財センター
- 「火山灰を視点とする擦文土器編年の一試案」『北海道考古学 第21輯』1985年 根本直樹
- 『札幌』1985年 松前町教育委員会
- 『サクシュコトニ川遺跡 本文編・図版編』1986年 北海道大学
- 『新訂古陶磁の科学』1986年 内藤匡
- 『札幌II』1989年 松前町教育委員会
- 『考古学ライブラリー 59擦文文化』1990年 横山英介
- 『札幌III』1989年 松前町教育委員会
- 『新版古代の日本⑨東北・北海道』1992年
- 『五所川原市史資料編1』1993年 五所川原市
- 『K四三五遺跡 札幌市文化財調査報告書 XL II』1993年 札幌市教育委員会
- 『珠洲大畠窯 富山大学考古学研究報告第6冊』1993年 富山大学人文学部考古学研究室・石川考古学研究会
- 「擦文時代」『北海道考古学第30輯』1994年 工藤義衛
- 『中国の陶磁, 日本出土の中国陶磁』1995年 平凡社版
- 「特集シンポジウム渡島半島の擦文文化」『南北海道考古学情報第6号』1995年 南北海道考古学情報交換会
- 『大船C遺跡』1996年 南茅部町教育委員会
- 『長浜2遺跡』1996年 奥尻町教育委員会
- 「擦文文化の終焉ー日本海沿岸集団の形成と日本海交易の展開ー」『物質文化 考古学民俗学研究61』1996年 瀬川拓郎
- 「道南地方の擦文文化に関する調査・研究史(2)」『北海道考古学第32輯』1996年 中田裕香
- 『第45回特別展 北の古代史をさぐるー擦文文化ー』1997年 北海道開拓記念館
- 『研究紀要第5輯』1997年 財団法人瀬戸市埋蔵文化財センター
- 『古代蝦夷の考古学』1998年 工藤雅樹
- 「恵山式土器群の成立とその背景」『北海道考古学第34輯』1998年 高瀬克範
- 『青苗B遺跡』1998年 奥尻町教育委員会
- 「東西蝦夷地の原型 近世アイヌ社会における地域体制の起源を考えるための覚書」『北海道考古学第35輯』1999年 瀬川拓郎
- 『アイヌ文化の成立 常設展示解説書2』1999年 北海道開拓記念館
- 『渡島半島の考古学』2001年 南北海道考古学情報交換会
- 『奥尻町青苗砂丘遺跡2 重要遺跡確認調査報告書第3集』2003年 北海道立埋蔵文化財センター
- 『余市町大川遺跡』2003年 余市町教育委員会



「道内の擦文集団と東北北部地域との朝貢・交易を  
巡る関係」『シンポジウム 蝦夷からアイヌへ』  
2004年 瀬川拓郎

「特集：北海道古学・現状と課題 擦文文化」『北海  
道考古学第40輯』2004年 塚本浩司

『町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅲ～Ⅶ』2000～2004  
年 上ノ国町教育委員会



第1図 遺跡位置図

# 上之国洲崎館跡分布調査

## I 調査の概要

### 1. 調査の経緯

上之国洲崎館跡は上ノ国町を東西に流れる天の川の河口から北に約1.0km、日本海に面した砂丘帯の一画、標高5m前後の支流目名川の旧河川敷地上に位置する。南側を流れる天ノ川の対岸にある丘陵地帯には国指定史跡花沢館跡が、南西側には国指定史跡勝山館跡を望むことが出来る。北海道最古の書とされる「新羅之記録」によると長祿元年(1457)、道南一帯を巻き込んで起こったコシャマインの戦いで、多くの和人の館が陥落するが、花沢館の客将武田信広は大将として、コシャマイン父子を射殺し、これを敗北させた。戦いの後、花沢館の館主、上之国守護蛸崎季繁の養女を娶り、天の川の北に洲崎館を築いたと記述されている。現在史跡指定範囲内には武田信広が毘沙門天像を祀ったと云わる毘沙門天社(安永7年焼失、翌々年新たに建立)から改称した、砂館神社が建つ。現在、目名川は河川改修によって直線化されているが、戦後、米軍が撮影した航空写真を見ると洲崎館跡側に大きく蛇行し支流を作りながら流れていた。中世には天の川と河口付近で合流し大きな入り江を形成していたと考えられる。

洲崎館については館の中心の位置や、館内の様子、終末年代等、不明な点が多い。平成11～13年度に史跡範囲内外の分布調査では掘立柱建物跡2軒、竪穴建物跡2軒、土壇、柱穴を検出。遺物は陶磁器、銅鏡、鉄釘等約8,300点が出土した。平成13年には今回の調査区北側(史跡範囲外)を調査した際は遺構、遺物は検出されなかった。

今年度の調査は土地所有者住吉常雄氏から住宅新築を予定しているとの連絡を受けた。新築予定地が史跡指定範囲に含まれる為、教育委員会文化財課では道庁、文化庁と協議の上、予定地全体の分布調査を行うことにした。

### 2. 調査の方法

今回の調査箇所は史跡指定範囲北側、海浜の保安林と国道228号線に挟まれた耕作地の平坦部を調査した。最初に調査予定範囲内に10m×10mグリットの調査区を設定し、長軸の北西-南東ラインにローマ数字を、短軸の北東-南西ラインにアルファベットの割り当てた。グリットの交点を基準に一辺が

1.5mのテストピットを設定した。遺構、遺物に応じて拡張した地点もある。耕作土を除去後、トレンチを設定し、土層堆積を確認、土層図を作成した。その後、層ごとに精査を行い遺構検出後、平面図等を作成し、必要に応じて写真撮影を行い記録した。遺物はI層のものはグリット一括で取上げ、II層以下のものは平板測量によって記録し取上げた。

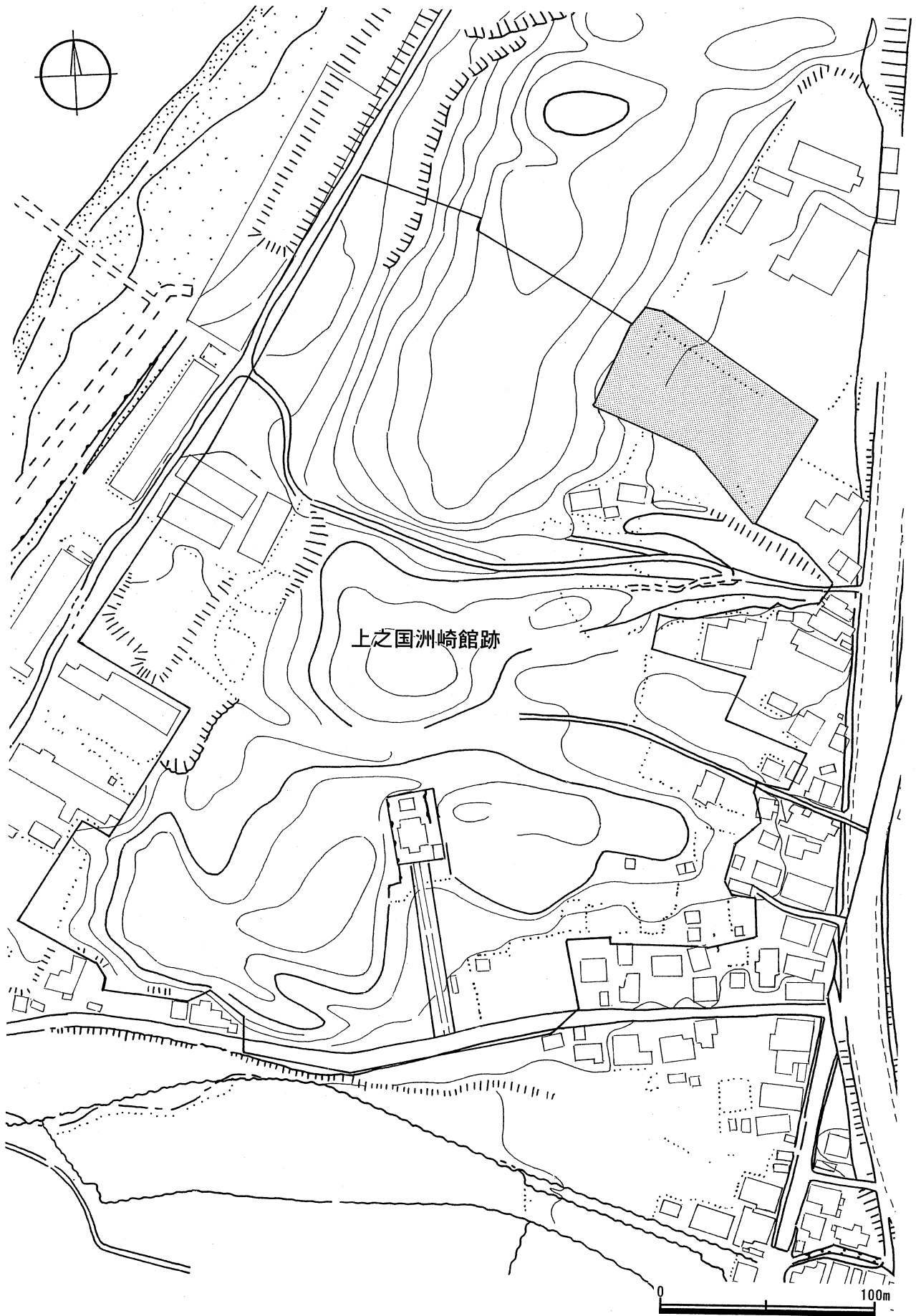
### 3. 調査の経過

5月18日 調査開始。調査区設定  
5月27日 3Bテストピット 縄文土器出土  
5月28日 1Bテストピット 遺構検出  
6月3日 1Aテストピット 遺構検出  
6月4日 2Bテストピット 遺構検出  
6月7日 2Cテストピット 遺構検出  
3Cテストピット 遺構検出  
6月9日 2Dテストピット 続縄文土器出土  
4Aテストピット 縄文土器出土  
6月17日 埋め戻し、調査終了。

### 4. 基本層序

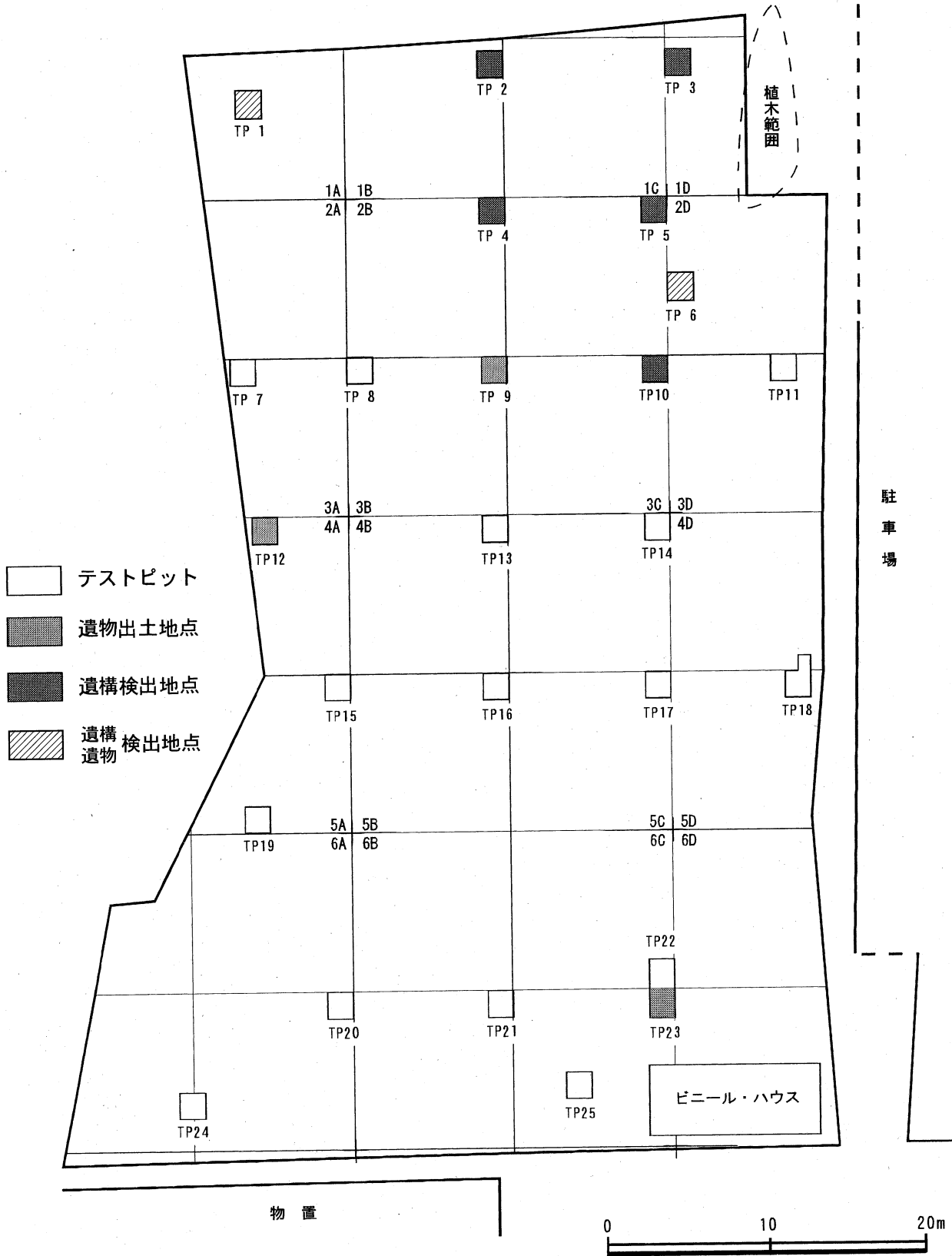
I層 耕作土層、シルト層 細分される。シルト層 上面にKo-d、下面にB-Tmを若干含む。  
II層 10YR1.7/1~2/1 黒色 シルト~細砂 自然堆積。細分される。  
III-1層 10YR1.7/1~2/1 黒色 シルト~細砂 自然堆積。細分される。縄文層。  
III-2層 10YR1.7/1~2/2 黒~黒褐色 シルト~細砂 自然堆積 細分される。縄文層。  
IV層 10YR2/1~2/3 黒~黒褐色 シルト~細砂 自然堆積 細分される。  
砂層 10YR2/1~2/3 黒~黒褐色 砂 自然堆積 細分される。  
V層 10YR2/1~2/2 黒~黒褐色 シルト~砂  
VI層 10YR2/3~3/4 ソフトローム層  
VII層 10YR3/4~4/6 ハードローム層

(高橋 昇)



第2図 調査区位置図

# 防 風 林



第 3 図 調査範囲 調査区位置図

## II 調査

調査区は指定範囲予定地内北西端の畑地である。周辺には宅地、スーパーが建ち並び、ここ数年の間に市街地化が著しい地区である。昨年度土地所有者から住宅建設の予定ありとのことで今年度分布調査を行った。過年度においては指定範囲外の北側の隣接地においてスーパー駐車場拡張に伴いB調査を行ったが遺物、遺構が皆無、また調査区南西側の墓地敷地拡張工事に伴うB調査の際にも、遺物、遺構は皆無であった箇所の中間地区にあたる。調査対象範囲は約3,200㎡であった。調査は10m方眼のメッシュを設定し、およそ各地区毎に1.5m×1.5mのテストピットの調査とした。

調査の結果、縄文土器、続縄文土器等が検出された。中世遺物は検出されなかった。過年度スーパー駐車場拡張に伴うB調査とも合わせ、土層堆積状況を見ると、海側の海岸に隣接した保安林が密生している砂丘近くでは砂丘の影響を受け、IV層下の砂の堆積が発達しており、国道側では砂の堆積は殆ど見られなかった。調査区テストピット全体の土層堆積状況を見ると、I層はシルト+細砂の耕作土とシルト層であり、非常にソフトである。シルト層にはKo-d、B-Tmが微量ながら堆積しており、Ko-dは上部、B-Tmは下部に堆積している。しかしテストピットの殆どがB-TmのみかB-TmもKo-dも堆積していない箇所が非常に多く、わずかに1箇所のみで両方の火山灰が確認できた。このことから調査区内の畑地の殆どがB-Tm以後の土層が削平された可能性が高い。遺物、遺構は主に調査区内海側の北西部に集中している。各テストピットの壁面観察によると、TP1～5では柱穴、土壌等の遺構はⅢ-1、IV層からの掘り込みとなっている。TP1ではⅢ-1層の柱穴、敲石、TP9では縄文期の土器が検出されており、縄文期包含層と考えられる。TP2、3、4、5ではIV層からの柱穴が確認されているが、遺物は出土していない。TP6ではI層下部から続縄文期恵山式土器が一括して検出された。30%ほどしか残存していないが、口唇部には6つの小突起、中央部には刻みが入る。ミガキ処理、内側に削り、斜めに傾斜する。口縁部は3条の人の字状沈線が3列、沈線間には縄文が入るが、ミガキによりほぼ消失状態。頸部には6条の横走沈線。上部にはRLの斜行縄文が入るが、中間部から下部にかけてはミガキが入り、消失状態。下部は無文。ヨコのヘラミガ

キ、その上に波状工字文。胴部は上部には6条の横走沈線、その直下には波状工字文。波状工字文は6cm 3山1単位で左から右に施文される。瀬棚南川遺跡Ⅲa群に該当する。続縄文期恵山式前半に属する。TP6付近までくると砂の発達はなくなり、下部ローム層までの深さが1.5m程になってくる。TP7、8、9付近ではあまり大きな攪乱は見られないが、TP13以降のテストピット土層断面では、近現代の攪乱がかなり見られる。もうこの付近では砂の堆積は皆無であり、遺物、遺構は皆無となってくる。全体としてみるとⅢ層、IV層は縄文期包含層であり、I層B-Tm下部が続縄文期包含層である。以後の時代、中世遺物は確認されていない。その他表採で近現代陶磁器多数。  
(齊藤邦典)

TP1 (第3図、第4図) 調査区の北西側、保安林との境界沿いに位置する。Ⅲ-1層面から柱穴が2基、壁面からはIV層面掘り込みの柱穴が1基検出された。遺物は敲石(第7図5)がⅢ-1層から出土した。輝石安山岩質で一端に敲打痕が残る。

TP9 (第3図、第5図) 調査区の中央部のやや砂丘側に位置する。Ⅲ-1層の黒色土から縄文中期中葉、大安在B式に類する一括土器(第6図2～4)が出土した。2は口縁部で地文はRL縄文の斜行を基調とし、一部に横走が見られる。口縁はやや直線的に立ち上がり、指頭による成形痕が残る。平縁の口唇に半截竹管による斜め方向からの連続する押し引きが巡る。器内面はヘラ状工具等による縦方向のミガキ調整を施す。3は胴部で上部がやや膨らむ形状となる。4は底部で、底面は剥離により欠損している。

TP12 (第3図、第5図) 調査区のほぼ中央部南西側に位置する。I-1層下面の黒色土層から縄文後期手稲式に類する注口土器片?(第7図1～4)が出土している。器厚は薄く、焼成は良好である。胎土に砂利を多く含む。1は底部で器面は磨き調整されやや光沢があり、底面は平底、小径で、上部に横走りする沈線が認められる。器内面には指頭による調整痕が残る。3は穿孔の周囲に注口部?が剥離したと思われる痕跡がある。4はツマミ状の突起が付く。TP23 (第3図) 調査区南東側の国道よりに位置する。I層から緑色岩製のRフレイクと陶錘が出土した。遺構は検出されなかった。  
(高橋 昇)

表1 テストピット土層観察表

洲崎館跡 T P 1 東西北壁 セクション (SPA ~ SPA') 第4図

I	10YR1.7/1 黒	砂：シルト7：3	やや粗 ややソフト
I-1	10YR1.7/1 黒	砂：シルト7：3 微細な木根多し	粗 ソフト
I-2	10YR4/4 褐：10YR2/1 黒	砂：シルト9：1	粗 ソフト
II	10YR1.7/1 黒	砂：シルト2：8	やや密 ややソフト
II-1	10YR2/1 黒	砂：シルト2：8	やや密 ややハード
III-1	10YR2/2 黒褐	砂：シルト7：3	やや密 ややハード
III-2	10YR2/1 黒	砂：シルト8：2	やや密 ややソフト
IV	10YR2/2 黒褐	砂：シルト9：1	やや密 ややソフト
砂1	10YR2/2 黒褐	砂	粗 ソフト
砂2	10YR2/3 黒褐	砂	粗 ソフト
砂3	10YR3/3 暗褐	砂	粗 ソフト
砂4	10YR2/1 黒	砂：シルト8：2	やや密 ややソフト
砂5	10YR2/2 黒褐	砂：シルト8：2	やや密 ややハード
P1ア	10YR2/3 黒褐	砂：シルト95：5	やや密 ややソフト
P1イ	10YR2/2 黒褐	砂：シルト85：15	やや密 ややソフト
P1ウ	10YR2/1 黒	砂：シルト8：2 IVより色調暗く、シルト質やや多い	やや密 ややソフト

洲崎館跡 T P 2 東西南壁 セクション (SPA ~ SPA') 第4図

I	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト7：3 木根まじり	粗 ややソフト
I-1	10YR2/1 黒：10YR2/3 黒褐	細砂：シルト9：1 下部に縞状の細砂 堆積(8cm位の厚さ)	粗 ソフト
I-2	10YR2/1 黒	細砂：シルト7：3	やや密 ややハード
I-3	10YR2/1 黒：10YR2/2 黒褐	細砂：シルト6：4	やや密 ややソフト
III-2	10YR2/1 黒：10YR2/3 黒褐	砂：シルト7：3 全体に微細な木根多い 砂質土1%	密 ハード
IV	10YR2/1 黒：10YR2/3 黒褐	細砂：シルト8：2 ブロック状に、1%含有	密 ソフト
IV-1	10YR2/2 黒褐+10YR3/3 暗褐	ブロック状に、砂質土1%含有	やや密 ややハード
砂	10YR3/4 暗褐	砂	やや粗 ややハード
ア	10YR2/1 黒	砂 10YR2/3 黒褐砂ブロック状に30%含有 微細な木根あり	やや粗 ややハード
イ	10YR2/2 黒褐	砂 微細な木根多い	やや粗 ハード
ウ	10YR2/3 黒褐	砂 微細な木根混じり	やや粗 ハード
エ	10YR3/3 暗褐	砂 10YR2/2 黒褐砂、層状の下部に含む	やや粗 ハード

洲崎館跡 T P 3 東西南壁セクション (SPA ~ SPA') 第4図

I	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト7：3 木根混じり	やや密 ややハード
I-1	10YR2/3 黒褐	細砂：シルト9：1 耕作土	粗 ソフト
I-2	10YR2/1 黒	細砂：シルト7：3 Iよりやや砂粒多い	やや密 ややハード
I-3	10YR4/4 褐	砂 10YR2/2 黒褐の砂、全体的に、15%含有	粗 ソフト
II	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト4：6 木根痕に、10YR4/4 褐が混入	密 ややハード
III-1	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト4：6 木根混入	IIより密 ややハード
III-1-1	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト6：4 アよりやや締まりあり	密 ややハード
III-1-2	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト4：6	密 ややソフト
III-1-3	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト5：5 III-1-2に対し粗で、シルト質多し	やや粗 ややソフト
III-2	10YR1.7/1 黒	砂 木根混入 ややシルト混入	やや密 ややハード
III-2-1	10YR1.7/1 黒	砂 ややシルト混入	やや密 ややハード
III-2-2	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト8：2	やや密 ややハード
III-2-3	10YR2/1 黒	砂 ややシルト質 草根含む	やや密 ややハード
ア	10YR2/2 黒褐	砂 ウよりやや明るい	やや粗 ややハード
イ	10YR2/2 黒褐	砂	密 ややソフト
ウ	10YR2/2 黒褐	砂 アよりやや暗い	密 ややハード
エ	10YR2/1 黒	砂 10YR4/3 にぶい黄褐、ブロックが中央に30~40%混入	密 ハード
砂	10YR2/3 黒褐	砂：シルト9：1	やや密 ややソフト

洲崎館跡 T P 4 東西北壁セクション (SPA ~ SPA') 第4図

I	10YR1.7/1 黒：10YR3/3 暗褐	砂：シルト60：40 砂100%下部にB-Tm純層10%	粗 ソフト
I-1	10YR2/1 黒	砂：シルト80：20 木根少量あり	粗 ソフト
II	10YR1.7/1 黒	砂：シルト70：30	やや密 ややソフト
III-1	10YR1.7/1 黒	砂：シルト60：40	やや密 ややハード
III-2	10YR2/1 黒	砂：シルト70：30	やや密 ハード
IV-1	10YR2/2 黒褐	砂：シルト80：20	密 ハード
IV-2	10YR2/2 黒褐	砂：シルト80：20	やや密 ややハード
IV-3	10YR2/1 黒	砂：シルト70：30	やや密 ややハード
砂1	10YR2/2 黒褐	砂：シルト80：20	やや密 ややハード
砂2	10YR2/3 黒褐	砂	粗 ソフト
砂3	10YR2/2 黒褐	砂	粗 ソフト

洲崎館跡 T P 5 東西南壁セクション (SPA ~ SPA') 第4図

I	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト20：80 B-Tm5%含有	やや粗 ややソフト
I-1	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト60：40	粗 ソフト
I-2	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト80：20	粗 ソフト
I-3	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト90：10	粗 ソフト
I-4	10YR3/2 黒褐：10YR3/3 暗褐	砂80：20	粗 ソフト

表2 テストピット土層観察表

II	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 50：50	やや粗 ややソフト
III-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 60：40	やや密 ややハード
III-2-1	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 70：30	やや密 ややハード
III-2-2	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 75：25	やや密 ややハード
III-2-3	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 70：30	やや粗 ややソフト
III-2-4	10YR2/1 黒	細砂：シルト 80：20	やや粗 ややソフト
IV	10YR2/1 黒	細砂：シルト 70：30	やや密 ややハード
V	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 50：50	やや密 ややハード
VI	10YR2/3 黒褐	シルト	密 ハード
VII	10YR4/4 褐	粘質あり	密 ハード
砂	10YR2/3 黒褐		やや粗 ややソフト
土壌1ア	10YR2/1 黒	細砂：シルト 80：20	やや密 ややソフト
土壌1イ	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 80：20	密 ハード
土壌1ウ	10YR2/1 黒	細砂：シルト 60：40	やや密 ややハード
土壌1エ	10YR2/1 黒	細砂：シルト 60：40	やや粗 ウよりややソフト
土壌1オ	10YR2/1 黒	細砂：シルト 70：30	やや粗 ややソフト
土壌1カ	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 90：10	やや粗 ややソフト
土壌1キ	10YR2/1 黒	細砂：シルト 90：10	やや密 ややハード
P1ア	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 60：40	やや密 ややハード
P2ア	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 70：30	やや粗 ややソフト
P2イ	10YR2/1 黒	細砂：シルト 70：30	密 ハード
P2ウ	10YR2/1 黒	細砂：シルト 80：20	やや密 ややハード
P2エ	10YR2/1 黒	細砂：シルト 80：20	やや密 ウよりソフト
P2オ	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 80：20	やや密 ややハード

洲崎館跡 T P 6 東西北壁セクション (SPA ~ SPA') 第4図

I	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 10：90 B-Tm3%	やや粗 ややソフト
I-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 90：10 1cm 大の玉砂利少量有り	粗 ソフト
I-2	10YR2/1 黒	細砂：シルト 80：20	粗 ソフト
II	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 50：50	やや密 ややソフト
III-1	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 60：40	やや密 ややソフト
III-1-1	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 65：35	やや密 ややソフト
III-1-2	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 65：35	III-1-1 よりややハード
III-1-3	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 70：30	やや密 ややハード
III-2	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 70：30	III-1-3 より やや密 ややハード
III-2-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 75：25	やや密 ややハード
IV	10YR2/1 黒	細砂：シルト 80：20	IV-2 より やや密 ややハード
IV-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 80：20	やや密 ややハード
IV-2	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 80：20	IV-1 より やや密 ややソフト
IV-3	10YR2/1 黒	細砂：シルト 85：15	やや密 ややハード
IV-4	10YR2/1 黒	細砂：シルト 85：15	IV-4 より やや密 ややソフト
V	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 85：15	IV-5 より やや密 ややハード
VI	10YR3/3 暗褐 + 10YR2/1 黒	ソフトローム	密 ハード
VII	10YR3/4 暗褐	ハードローム	密 ハード

洲崎館跡 T P 7 東西北壁セクション (SPA ~ SPA') 第5図

I	10YR2/1 黒	砂：シルト 8：2	粗 ソフト
I-1	10YR2/1 黒	耕作土	
II	10YR2/1 黒	砂：シルト 3：7	やや密 ややソフト
III-1	10YR2/1 黒	砂：シルト 2：8	やや密 ややソフト
III-2	10YR2/1 黒	砂：シルト 3：7	やや密 ややソフト
IV	10YR2/2 黒褐	砂	密 ややハード
V	10YR2/2 黒褐	砂：シルト 2：8	密 ハード
VI	10YR2/2 黒褐	砂：粘土 2：8 ソフトローム	密 ハード
VII	10YR4/6 褐	粘土 ハードローム	密 ハード
ア	10YR2/1 黒	砂：シルト 1：9	やや密 ややハード
イ	10YR1.7/1 黒	シルト	やや密 ややソフト
ウ	10YR2/1 黒	砂：シルト 3：7	やや密 ややソフト
エ	10YR2/1 黒	砂：シルト 1：9	やや密 ややハード 1より砂が、やや多い
オ	10YR2/1 黒	砂：シルト 1：9	やや密 ややハード
カ	10YR2/2 黒褐	砂	やや粗 ややハード IVより暗くやや締る
キ	10YR2/2 黒褐	砂	やや密 ややハード
ク	10YR2/1 黒	砂：シルト 9：1	粗 ソフト
ケ	10YR2/2 黒褐	砂	7より締りが有り、ハード ややシルト質が、強い

洲崎館跡 T P 8 南北東壁セクション (SPA ~ SPA') 第5図

I	10YR1.7/1 黒	砂：シルト 9：1	やや粗 ややソフト
I-1	10YR2/2 黒褐 + 10YR2/1 黒	砂 + 砂：シルト (9：1) C 微量 微細な木根多し	やや粗 ややソフト



表3 テストピット土層観察表

I-2	10YR1.7/1 黒	砂：シルト 8：2 B-Tm30%含有	密 ややソフト
II	10YR2/1 黒	砂：シルト 3：7	やや密 ややソフト
III-1	10YR2/1 黒	砂：シルト 7：3	やや粗 ややソフト
III-2	10YR2/2 黒褐	砂：シルト 8：2	やや密 ややソフト
A	10YR2/1 黒	砂：シルト 4：6	やや密 ややソフト
IV	10YR2/2 黒褐	砂：シルト 1：9	やや密 ややソフト
IV-1	10YR2/2 黒褐	砂：シルト 2：8	密 ややハード
V	10YR2/2 黒褐	シルト	密 ハード
VI	10YR2/3 黒褐	シルト ソフトローム	密 ハード
VII	10YR4/4 褐	粘質有り ハードローム	密 ハード

洲崎館跡 T P 9 東西北壁セクション (SPA ~ SPA') 第5 図

I	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 3：7 斑点状に、B-Tm2% Ko-d3%含有、B-Tm は、自然堆積	粗 ややソフト
I-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 9：1 耕作土	粗 ソフト
I-2	10YR2/1 黒	細砂：シルト 3：7	やや密 ややハード
II	10YR2/1 黒	細砂：シルト 4：6 草根微量	やや密 ややハード
III-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 3：7 (遺物包含層)	やや密 ややソフト
III-2	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 3：7 (遺物包含層)	やや密 ややソフト
IV	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 7：3	やや密 ややソフト
V	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 6：4	密 ハード
VI	10YR3/3 暗褐：10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 5：5 ソフトローム	密 ハード
VII	10YR3/4 暗褐：10YR4/6 褐	土粒 ハードローム	密 ハード

洲崎館跡 T P 10 東西南壁セクション (SPA ~ SPA') 第5 図

I	10YR1.7/1 黒	シルト 10YR2/3 黒褐 砂 10%混入	やや粗 上面ソフト 下面 ややソフト
I-1	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 6：4 10YR3/4 暗褐砂が、上面筋状に、混入 1mm 粒の B-Tm が、極微量混入	粗 ソフト
II	10YR2/1 黒	シルト	やや密 ややソフト
III-1	10YR2/1 黒：10YR2/2 黒褐	50：50 細砂：シルト 3：7	やや密 ややソフト
III-2	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 7：3	やや密 ややソフト
IV	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 7：3	密 ややソフト
V	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 7：3 10YR3/4 暗褐 2 ~ 3cm 大のロームが混入	
		ロームが混入	密 ややハード
VI	10YR3/4 暗褐：10YR2/3 黒褐	50：50 ソフトローム	密 ハード
VII	10YR4/6 褐	ハードローム	極密 ハード
土壌1ア	10YR2/2 黒褐：10YR2/1 黒	50：50 細砂：シルト 7：3	やや密 III-2 よりソフト
P1ア	10YR2/1 黒	細砂：シルト 3：7	密 ハード
P1イ	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 7：3	IVより密 ややハード
P2ア	10YR2/1 黒	細砂：シルト 3：7 III-1 より少し明るい 10YR2/3 黒褐 1mm 粒が、微量混入	やや密 ややソフト

洲崎館跡 T P 12 東西北壁セクション (SPA ~ SPA') 第5 図

I-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 3：7 草根・ロームブロック有り 10YR1.7/1 黒 ブロック状に、20%含有	粗 ソフト
III-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 4：6	やや密 ソフト
III-2	10YR2/1 黒	細砂：シルト 3：7	やや密 ソフト
IV	10YR2/1 黒	砂：シルト 9：1 10YR4/4 褐シルトを 2mm のブロック状に、1%含む	密 ハード
V	10YR2/1 黒	砂：シルト 9：1 10YR4/4 褐シルトをブロック状に 1%弱含む	密 ハード
VI	10YR3/2 褐	細砂：シルト 1：9 10YR2/2 暗褐シルト + 細砂 (6：4) ブロック状に、30%含む	密 ハード
VII	10YR4/4 褐	粘土 ソフトロームブロック、層上部に 10%含有	密 ハード

洲崎館跡 T P 14 東西南壁セクション (SPA ~ SPA') 第5 図

I	10YR2/1 黒	シルト 10YR2/2 黒褐シルト 10 ~ 20%混入	やや粗 ややソフト
I-1	10YR2/2 黒褐 10YR2/1 黒	細砂：シルト 1：9 Ko-d 粒状に 2 ~ 3%混入 シルト 20 ~ 30%混入	上部 粗 ソフト 下部 やや粗 ソフト
II	10YR2/1 黒	シルト 10YR2/3 黒褐シルト粒状に、微量混入	やや密 ややソフト
III-1	10YR2/1 黒	シルト	やや密 ややハード
III-1-1	10YR1.7/1 黒	シルト Ko-d 粒状に、微量混入	やや密 III-1 よりハード
III-2	10YR1.7/1 黒	シルト 10YR3/4 暗褐シルト粒状に、微量混入	やや密 ややソフト
V	10YR2/2 黒褐+10YR2/3 黒褐	シルト 50：50	密 ややハード
VI	10YR3/4 暗褐	ソフトローム 上部に、10YR2/3 黒褐シルト 30%混入	密 ハード
VII	10YR4/6 褐	ハードローム 10YR3/4 暗褐 30%、10YR2/3 黒褐 10%混入	極密 ハード

洲崎館跡 T P 16 東西南壁セクション (SPA ~ SPA') 第5 図

I	10YR2/1 黒	細砂：シルト 10：90 全体的に、I-1 のブロック状の混じりが、15%有り	粗 ソフト
I-1	10YR3/3 暗褐	シルト 耕作土	粗 極ソフト

表4 テストピット土層観察表

II	10YR2/1 黒	細砂：シルト 40：60 10YR4/4 褐の土粒 (2～3mm) 微量に含む	やや密 ややソフト
III-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 70：30	やや密 ややソフト
IV	10YR2/2 黒褐	砂：シルト 30：70 10YR4/4 褐の、ロームブロック (3～5mm) 2%含む	密 ハード
IV-2	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 40：60 ソフトロームブロックを 50%含む	密 ハード
VI	10YR3/3 暗褐	10YR2/2 黒褐 1cm 大のブロックが、まだら状に 10%含有 10YR5/6 黄褐ブロック状に、15%含む	密 ハード
VII	10YR5/6 黄褐		密 ハード

洲崎館跡 T P 18東西北壁セクション (SPA～SPA') 第5図

I	10YR2/1 黒	シルト 上部に、B-Tm 1%含有 草根少量	粗 ソフト
I-1	10YR2/2 黒褐	シルト	粗 ソフト
II	10YR2/1 黒	細砂：シルト 30：70	やや粗 ややソフト
II-1	10YR2/1 黒	細砂：シルト 40：60	やや密 ややハード
III-1A	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 80：20	やや密 ややハード
III-2A	10YR2/2 黒褐	細砂：シルト 70：30	やや密 ややハード
IV	10YR3/3 暗褐	シルト	密 ハード
V	10YR2/2 黒褐	シルト主体 80% ソフトローム	密 ハード
VI	10YR3/4 暗褐	シルト ハードローム	密 ハード

洲崎館跡 T P 19東西南壁セクション (SPA～SPA') 第5図

I	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 10：90 B-Tm1%含有	やや密 ややハード
I-1	10YR2/2 黒褐	シルト 1.5～2cm の玉砂利 5%含有 B-Tm2% (上部) Ko-d 1%含有	密 ハード
II	10YR1.7/1 黒	細砂：シルト 20：80	やや密 ややハード
III-1A	10YR2/1 黒	細砂：シルト 30：70	やや密 ややハード
V	10YR2/1 黒	シルト	密 ハード
VI	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR2/1 黒、ブロック状に 25%混じりソフトローム	密 ハード
VII	10YR4/6 褐	シルト ハードローム	密 ハード

洲崎館跡 T P 24東西南壁セクション (SPA～SPA') 第5図

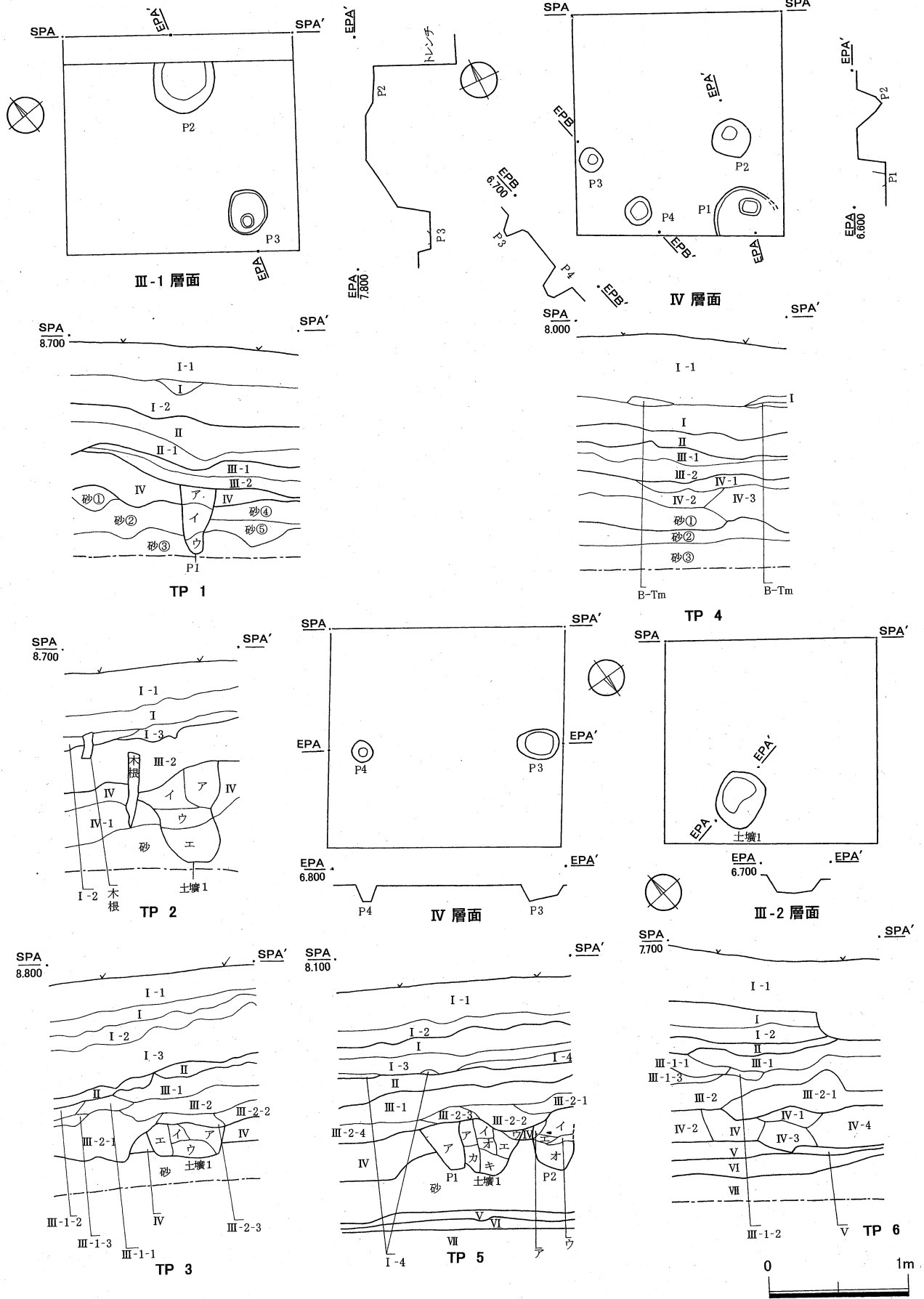
I	10YR2/1 黒	細砂：シルト 4：6 10YR2/3 黒褐シルト 5%混入 上部に Ko-d、下部に B-Tm5%混入	やや粗 ソフト
I-1	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR3/4 暗褐 10%混入 下部に Ko-d 3%筋状 に混入	上部 粗 下部 密 ややソフト
II	10YR1.7/1 黒	シルト 10YR2/3 黒褐 2%混入 ロームブロック微量混入	やや密 ソフト
III-1	10YR1.7/1 黒	シルト 10YR2/3 黒褐 微量混入	やや密 ソフト
III-2	10YR2/2 黒褐	シルト 10YR2/3 黒褐 微量混入	やや密 ややソフト
IV	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR3/4 暗褐：ソフトローム (5：5)	密 ハード
VI	10YR3/4 暗褐	ソフトローム	密 ハード
VII	10YR4/6 褐	ハードローム	密 ハード

洲崎館跡 T P 25東西北壁セクション (SPA～SPA') 第5図

I	10YR2/1 黒	シルト 微量のハードローム含有 微細な木根有り	やや密 ややハード
I-1	10YR2/1 黒	耕作土	粗 ソフト
IV	10YR2/2 黒褐	シルト	やや密 ややハード
VI	10YR2/3 黒褐	シルト ソフトローム	密 ややハード
VII	10YR4/6 褐	シルト ハードローム	密 ハード

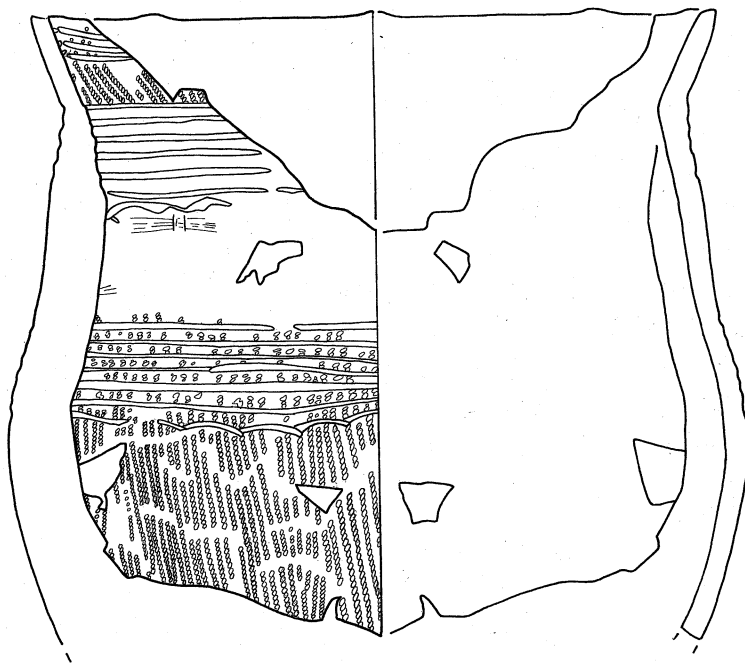
表5 調査区出土遺物集計表

	陶磁器	土器	石器	層位別
I	58	114	1	173
II		3		3
III-1		16	1	17
III-2		55		55
IV		3		3
表採	308	2		310
排土	5	3		8
攪乱	1			1
集計	372	196	2	570

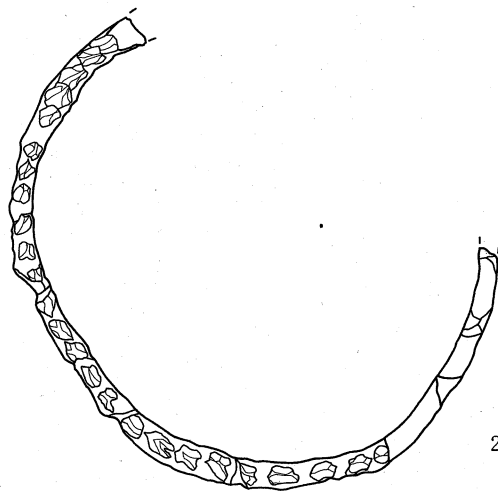
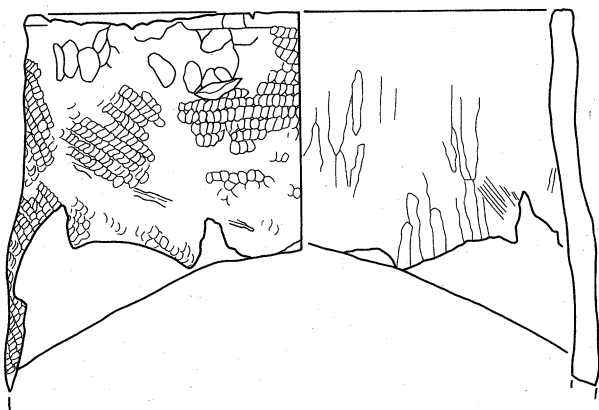


第4図 テストピット土層堆積図他

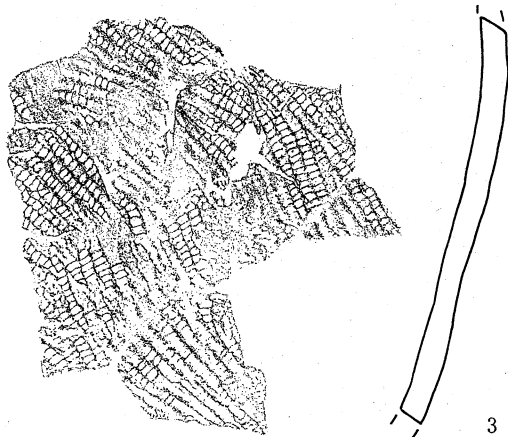




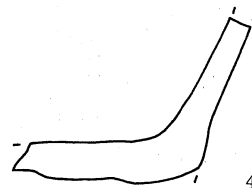
1



2



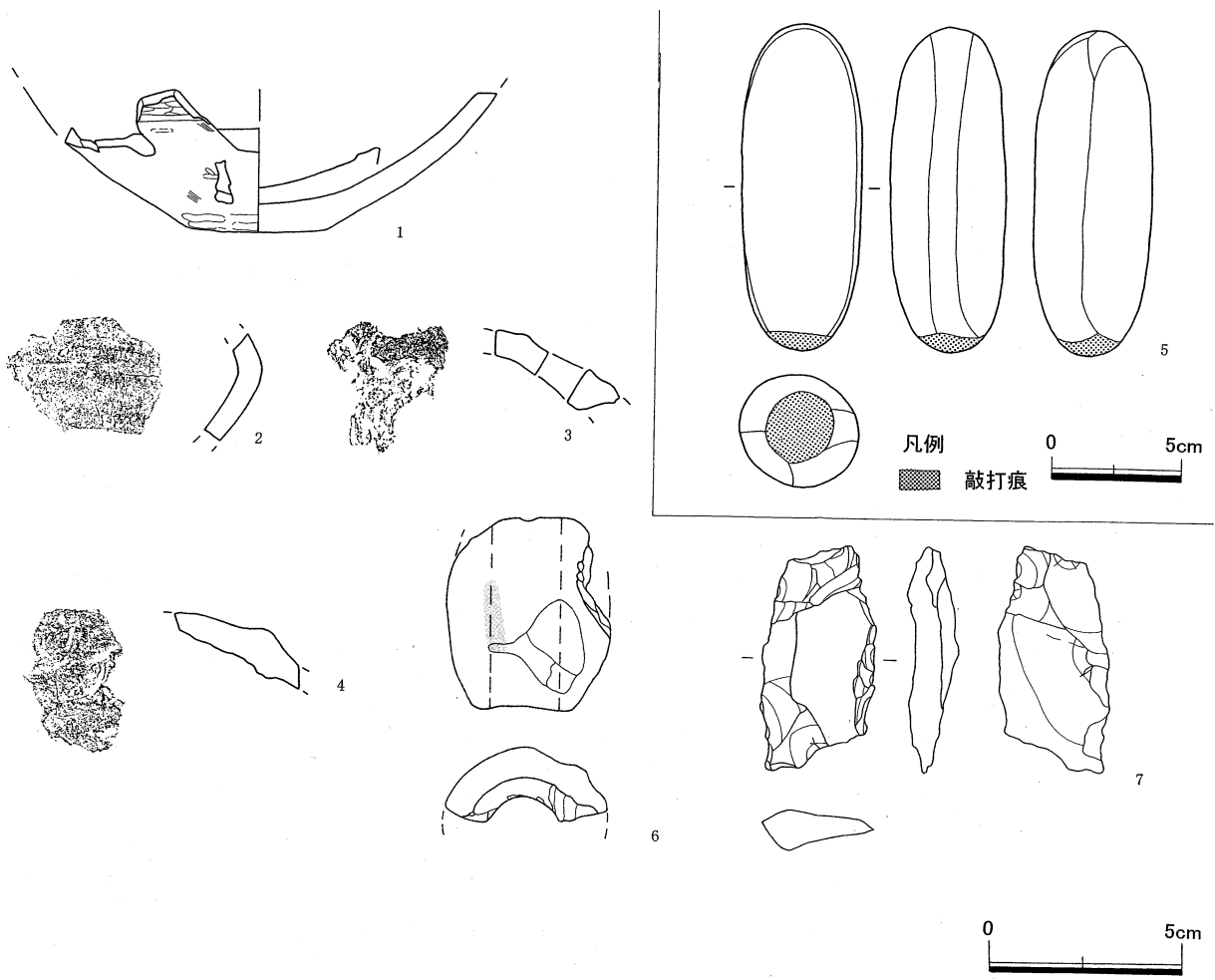
3



4



第6図 テストピット出土遺物



第7図 テストピット出土遺物

# 史跡上之国花沢館跡分布調査

## I 調査の概要

### 1. 調査の経緯

上之国花沢館跡は上ノ国町を東西に流れる天の川左岸の河岸段丘上に位置し、標高60mの頂上部からは北東方向に上ノ国町市街地を北方向には上之国洲崎館跡や天の川河口を一望できる。函館から上ノ国町に至る海岸線に点在した通称道南12館と呼ばれる館跡の一つである。北海道最古の記録とされる「新羅之記録」では長祿元年(1457)、コシャマインの戦いの際、多くの和人の館が陥落する中、館主上之国守護蛸崎季繁は城を固く守り、客将武田信広が大將として、コシャマイン父子を射殺し退けた。信広は戦いの後、季繁の養女を娶り天の川の北に洲崎館を築いたとされている。花沢館については成立年代や終末年代、館の構造等、不明な点が多い。昭和20年代初頭ころ、頂上部が耕作された際、約2,000枚の銅銭が出土している。昭和35年に道指定史跡、昭和52年には国指定史跡となる。

平成11年に指定範囲周辺を調査した際に東側の沢を挟んだ細長い台地で小柱穴が確認された。今回の調査は史跡指定範囲内の保存管理計画策定の為の内容確認調査であり、史跡指定範囲内の調査は今回が初めてである。近年調査された道南12館のうち、「新羅之記録」の記述にあるコシャマインの戦いで陥落したとされる町内の比石館跡や他の館跡はその遺構、遺物が時代的に符合しない事が判明してきた。そのため花沢館が「新羅之記録」に記述されている年代と一致するかどうか確認するため、頂上平坦部2ヶ所、中段の平坦面、頂上後方の空壕が想定される場所にトレンチを設定し調査した。

### 2. 調査の方法

史跡指定範囲に20m×20mの大グリッドを設定し、長軸南北方向にローマ数字を、短軸東西方向にアルファベットを割り当てた。さらに25分割し4m×4mの小グリッドを設定し、ローマ数字を割り当てた。調査は表土を除去後、グリッドライン上にトレンチを設定した。土層を確認後、グリッド全体を層ごとに掘り下げ、平面精査し遺構を検出後、平面図等を作成、写真撮影し記録した。必要なものに関しては土壌サンプルを採取し、後日フローテーションを行って目視により選別した。遺物はI層の物はグリッ

ト一括で、II層以下はグリット内に水系で1mメッシュを作り、計測、記録して取上げた。

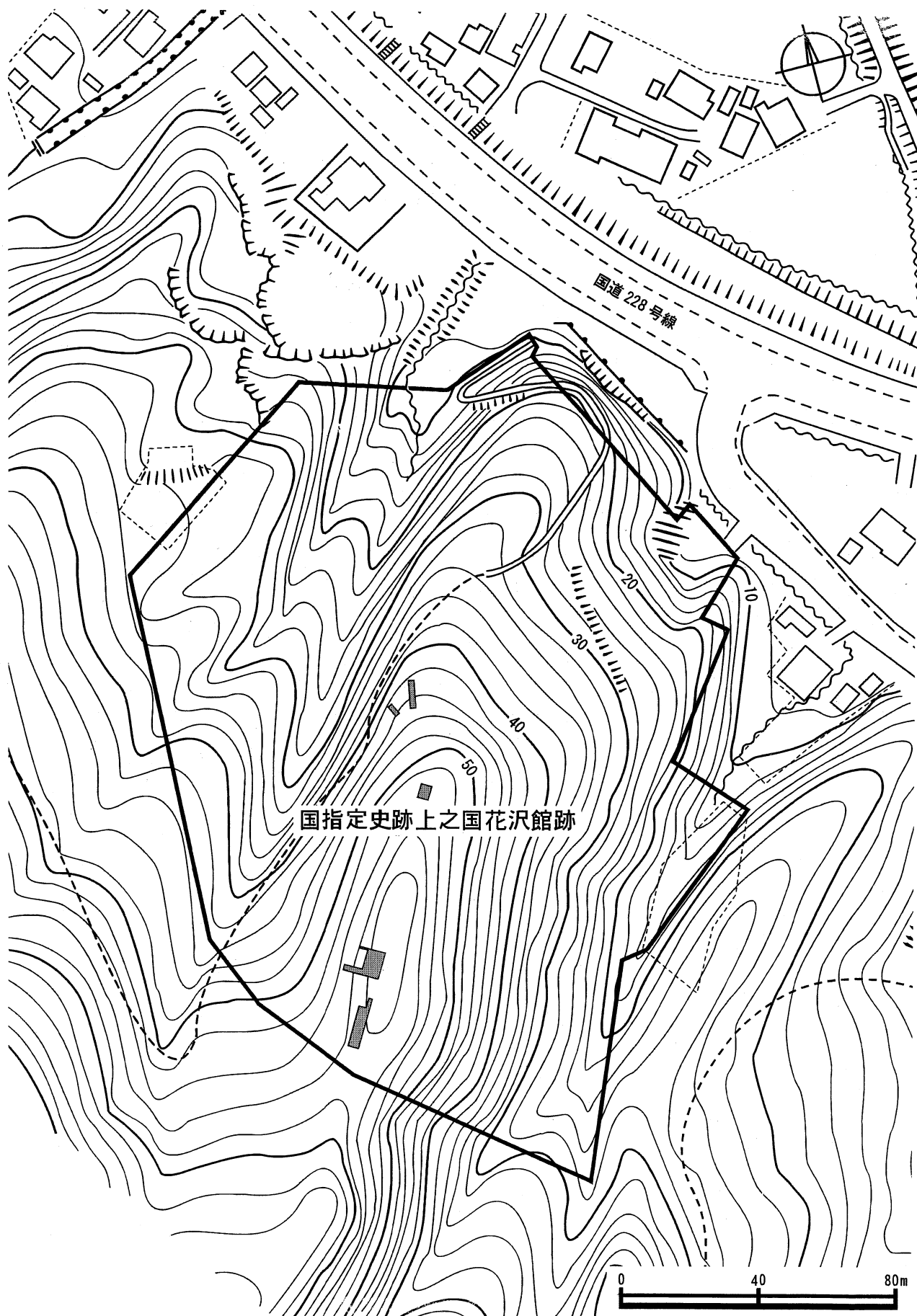
### 3. 調査の経過

- 9月14日 調査開始。笹刈り、機材搬入、調査区グリット設定。
- 9月15日 空壕トレンチ設定、調査開始。  
頂上平坦面A トレンチ設定、調査開始。
- 10月4日 頂上平坦面B 8Iグリット、調査開始。  
青磁、白磁、珠洲播鉢出土。
- 10月5日 空壕完掘。
- 10月6日 頂上平坦面A 11Iグリット、溝検出。
- 10月13日 二段目平坦面調査開始。
- 10月18日 二段目平坦面、溝検出。
- 10月23日 現地説明会。
- 11月5日 埋め戻し作業、調査終了。

### 4. 基本層序

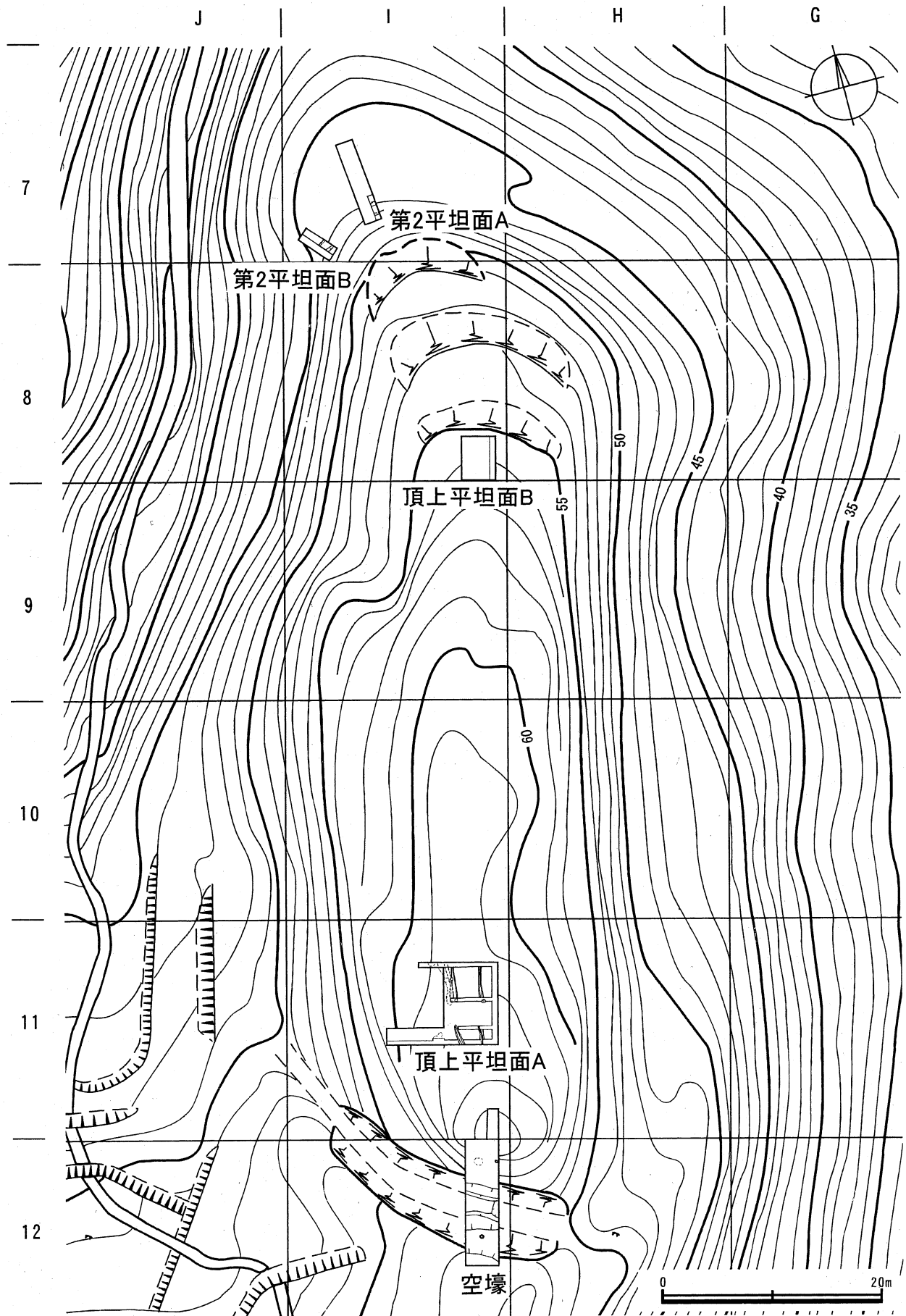
- I層 10YR2/3~3/3 暗褐色 シルト 玉砂利を多く含む。細分される。
- II層 10YR2/2~3/3 黒褐~暗褐色 シルト Ko-d、砂利を含む。
- III層 10YR1.7/1~2/3 黒~黒褐色 砂：シルト 玉砂利を5~30%含む。細分される。
- IV層 10YR4/6~7.YR5/8 褐~赤褐色 シルト 玉砂利を2~20%含む。
- V層 10YR4/4~10YR4/6 褐色 シルト 荒砂、玉砂利を含む。
- VI層 10YR4/6~7.5YR5/8 褐~明褐色 シルト 玉砂利を5~20%含む。
- VII層 10YR3/4~7.5YR5/8 明褐~褐色 砂 玉砂利を多く含む。
- VIII層 5YR5/8~7.5Y5/6 明赤褐~明褐色 極めて固く締まった砂層。基盤層。細分される。全体的に玉砂利を多く含む。

(高橋 昇)



第 8 図 遺跡位置図





第9図 遺構配置図

## II 調 査

指定範囲内は5段の大小の平坦面からなっており、後方部に空壕状の大きな凹部を持つ。頂上平坦部は約1,000㎡の広がりを持つ。下部の30mから40mの標高部分の東西に伸びる平坦部は650㎡程の広がりを持つ。また南北に張り出す緩斜面部は950㎡程ある。他の平坦部は南北幅10m以内、東西方向20m程であり、狭小である。

今年度の調査は頂上平坦部、空壕と想定される館後方部凹部分を中心として、この場所が花沢館であるか、さらにそうであるとしたら、新羅の記録等の文献と時代が符合するかの目的を持って調査を行った。

### 1. 頂上平坦部 (第9図、第11図)

標高60m前後、面積950㎡の南北に長軸を取る細長いほぼ平坦な頂上部となっている。

#### A地区

##### (1) 土層堆積

基本的な層位としては上ノ国町内の基本的な層位のⅡ層下部のKo-d含有。その直下Ⅲ層が中世の包含層、遺構確認面となる。約97㎡の調査を行った。基本的に土層確認面にはトレンチを入れ土層観察、遺構掘り込み面の確認を行った。Ⅱ層以下Ⅷ層の基盤面以下まで多量の玉砂利が含有されており、更新世の海成堆積物であることが、地質専門家より示唆があった。また中世面の層厚が10cmと極めて薄く、遺構確認には困難を極めた。

そのため頂上部B地区ではⅢ層からの遺構確認はせず、遺物取り上げに留めた。

基本的にはⅡ層が10YR3/3シルト、Ko-d含有、Ⅲ層はⅡ層より更に土色が暗く、1.7/1黒を基調とする。いずれも粗でソフトである。Ⅲ層から非常に玉砂利が多くなる。Ⅳ層からⅦ層までは砂+玉砂利層であり、Ⅳ層にはB-Tmブロックあり。Ⅷ層が基盤である。全体的には土の堆積は薄く、Ⅰ層から20~30cm程で基盤Ⅷ層に達する。なおSPA~A'、SPD~D'に見られるように、中央部にてⅣ層以下、主にⅧ層の隆起が見られる。更新世の時期の所産と考えられる。頂上平坦部地区においてこの隆起部分は幅2m、長さ70mに亘って頂上平坦部長軸方向B調査区手前まで伸びている。

##### (2) SPA~SPA'土層堆積

調査区内北端土層断面。調査区内中央部からこの隆起帯に平行するように左右に溝4基が伸びている。

溝2は幅15cm、深さ15cm程と極めて小型である。溝1、3、4は重複関係となっており、溝1→溝3→溝4の順に新しくなる。浅い土壌も確認されており、いずれもⅢ層面掘り込み。

##### SPD~D'土層堆積

調査当初南北に伸びる隆起帯が人工的な堆積の可能性があるためトレンチを設定した。土層観察の結果、自然堆積であることが判明した。

##### SPC~SPC'土層堆積

隆起帯の一部がSPC付近に伸びているのがⅧ層の斜め堆積に見える。これらの隆起帯はSPD~D'でも見られるように、上面頂上部は平坦に削平されている。

##### SPB~SPB'土層堆積

この面では溝7、土壌2が確認されている。平面図にあるように、前述の南北に伸びる隆起帯が11I10、15の調査区東側部分ではほぼ直角に東側部分へ広がっている。この箇所に溝7がある。溝7は溝2の延長部分と考えられ、この段差を作っていると考えられる。11I10区側との比高差は基盤面で50cm程有り、その分削平している。遺物、遺構は主にこの隆起帯の東西で検出されている。

##### (3) 平面概要

この調査区全体で見ると中央部隆起帯の東西に溝が走る。土壌、柱穴等も確認されている。柱穴は3基確認されている。このうちEPB~B'に見られるようにP1、P2は溝1を切っており、柱間が2m程であることから、建物を構成する柱と考えられる。確認された柱穴はいずれも溝より新しい。

### 2. 館後方部空壕跡 (第9図、第11図)

空壕は幅11m、深さ3.9m、壕底部幅2mの箱薬研堀である。東側は掘り切りの状態で沢へそのまま落ちているが、西側は頂上平坦部を圍繞するように約30m程伸びていると考えられる。

土層堆積(SPE~SPE')では当初調査前は頂上平坦部側11I24、12I4付近の高まりは壕堀上土による土塁の可能性が高いと考えていたが、調査の結果、高まり北側ア~カでは若干の自然堆積でない部分も見られたが、他の頂部等ではⅠ層直下がⅧ層であり、盛土痕跡は見られなかった。覆土土層堆積は自然堆積のKo-dを含むⅡ層以下は砂、シルト、玉砂利の混合層であり、下位では壕壁面を作っている基盤の砂礫

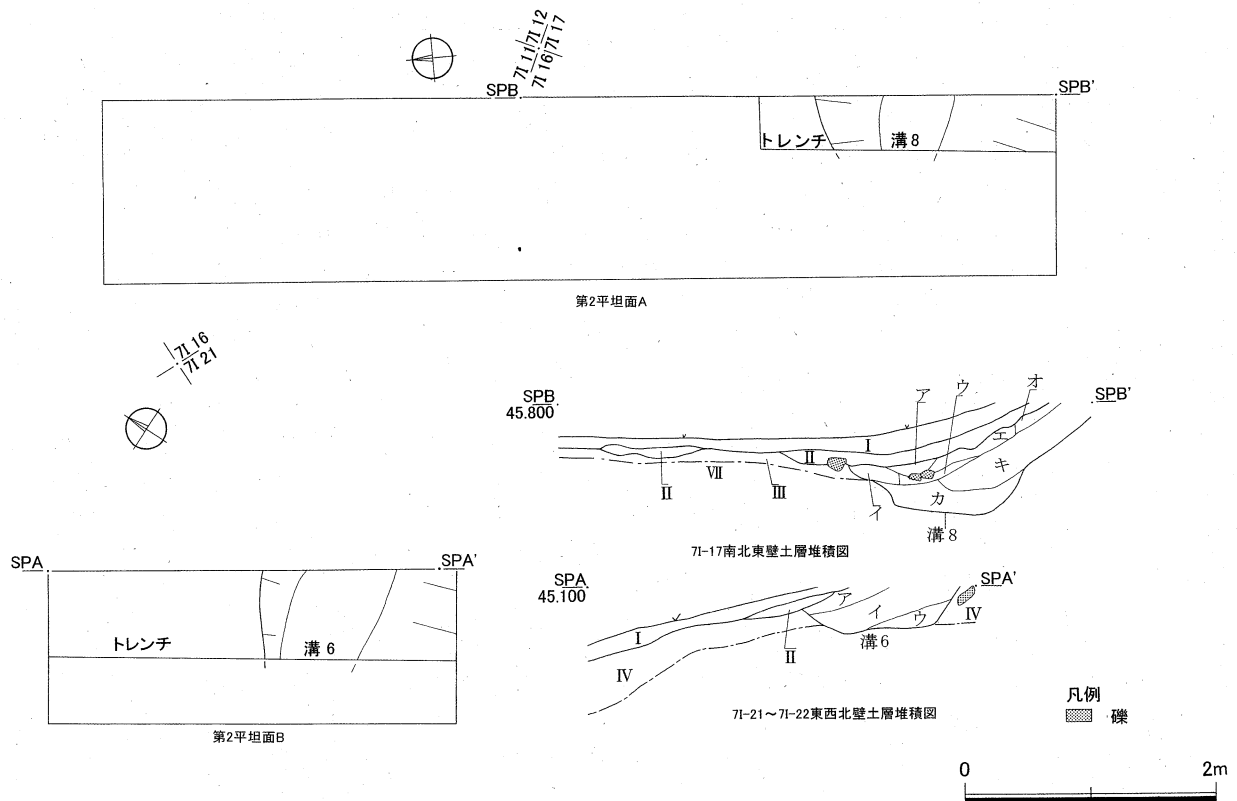
を主体とした極めてソフトな砂礫層であり、堆積状況が左右からの斜面に沿った堆積であり、自然埋没の様相を呈する。さらに壕に付随する施設の存在の有無を確認するべく、南北斜面部を精査した結果、南側斜面では、浅い柱穴様遺構1基、北側斜面では、幅80cm、縦30cm、深さ35cmの半月様の掘り込み、更に隣接して直径25cm、深さ15cmの柱穴、50cm程の礫2ヶが掘り方を持ち確認された。これらから考えると、東側はすぐ沢へ落ちるが、西側に隣接する未調査区において、壕を渡る施設の存在が想定出来る。

### 3. 第2平坦面A、B調査区(第9、10図)

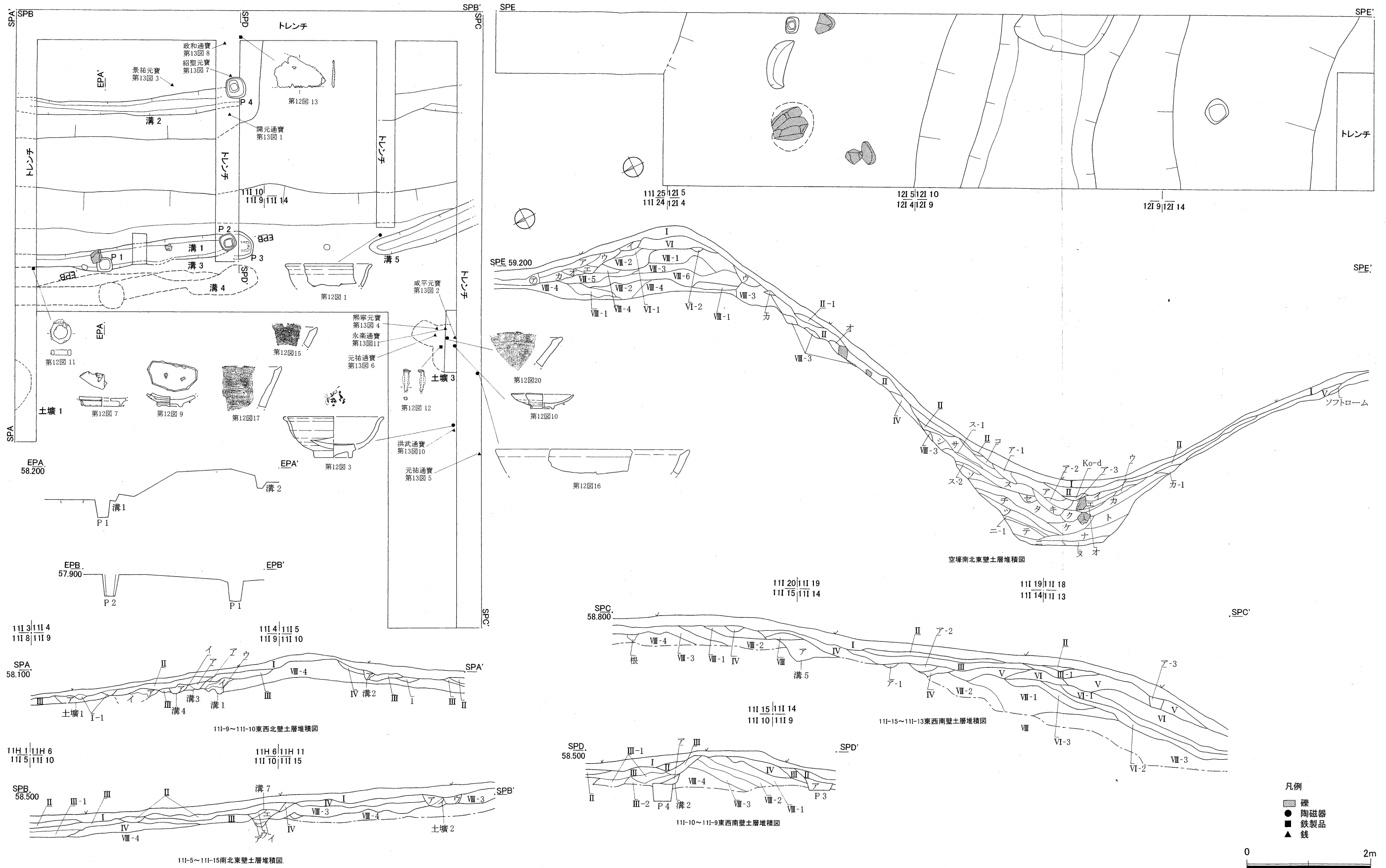
深さ40cmの溝が南側、頂上平坦部に続く斜面直下から確認された。この斜面は、A地区ではⅢ層からの掘り込み、B地区ではⅣ層からの掘り込みであり、中世の時期の遺構であることが確認された。土層堆積から見るといずれも北側平坦部側には掘り込みを持つが、南側斜面部では覆土が斜面に沿って上がっているようである。北側の掘り込みは斜面中間部にあるか、とも考えられたが、その痕跡も見られないことから、頂上平坦部とこの平坦部の間の斜面を作る際に、同時に作られた可能性が強い。

### 4. 出土遺物(第12図、PL6、7)

1は青磁碗。端反りの碗。口唇部は丸みを持つ。2は青磁碗の底部である。見込み、中央部、外底は露胎。3の青磁はやや腰の張った端反りの碗となる。口唇部は丸みを持ち、外底の釉は拭き取られている。畳付の釉も一部拭き取られる箇所あり。見込みには印花あり。4も青磁の碗底部である。見込みには印花あり。外底の釉は拭き取られている。外底部は釉剥ぎ。5は青磁皿、6は青磁盤8、9は切り高台白磁皿、10は胴部中央からやや内湾して立ち上がり気味で胴部以下露胎。11~13、21は鉄製品である。11は縮金具、12は和釘(頭巻釘)、13は鋸である。先端部のみであるが、全体的な形状は木葉形を呈すると考えられる。21は直径16cm程の容器の蓋である。釜用か?以下14~20は珠洲すり鉢である。14は幅広の端面が鋭い長三角形をなす。内端面には櫛歯波状文帯を巡らす。7条施され、下4条は磨り消す。卸目は1単位2.7~2.8cm。反時計回りに施す。更に1~1.5mm幅の6条1単位の卸目をやや長めに付ける。吉岡編年V期に相当する。口径45cm前後。16は幅広の端面が鋭い長三角形をなす。櫛歯波状文帯なし。口径31.5cm前後。吉岡編年V期に相当する。



第10図 第2平坦面調査区平面図他



第11図 頂上平坦面A、空壕平面図他

表6 調査区土層観察表

## 花沢館跡 7 I -21~7 I -22東西北壁セクション (SPA~SPA') 第10図

I	10YR2/2 黒褐	シルト 玉砂利 3~5cm 大 10%含有、草根多量	粗 ソフト
II	10YR2/2 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
IV	10YR3/4 暗褐	シルト	粗 ソフト
溝6ア	10YR2/3 黒褐	砂:シルト 3:7 玉砂利 3~7cm 大 30%含有	粗 ソフト
溝6イ	10YR3/4 暗褐:10YR4/6 褐	砂:シルト:玉砂利 (3~5cm 大) 1:3:6	粗 ソフト
溝6ウ	10YR4/6 褐	砂 玉砂利 3~5cm 大 20%含有	粗 ソフト

## 花沢館跡 7 I -17南北東壁セクション (SPB~SPB') 第10図

I	10YR2/3 黒褐	シルト 玉砂利 3~5cm 大 10%含有、草根多量	粗 ソフト
II	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 30~40%含有	やや密 ややソフト
III	10YR2/3 黒褐	砂:シルト 2:8 玉砂利 1cm 大 10%含有	やや粗 ややソフト
VII	10YR3/4 暗褐:10YR4/6 褐	砂:シルト:玉砂利 (3~5cm 大) 3:1:6	やや粗 ややソフト
溝8ア	10YR2/2 黒褐	シルト 玉砂利 3~5cm 大 5%含有	やや密 ややソフト
溝8イ	10YR1.7/1 黒	シルト	やや密 ややソフト
溝8ウ	10YR2/3 黒褐	シルト 玉砂利 1cm 大 5%含有	やや密 ややソフト
溝8エ	10YR1.7/1 黒	シルト	やや密 イよりソフト
溝8オ	7.5YR2/3 極暗褐	シルト 玉砂利 1cm 大 5%含有	やや密 ややソフト
溝8カ	10YR4/6 褐	砂 玉砂利 1~3cm 大 20%含有	粗 ソフト
溝8キ	10YR4/6 褐	砂:玉砂利 (1cm 大) 5:5	粗 ソフト

## 花沢館跡 11 I - 9~11 I -10東西北壁セクション (SPA~SPA') 第11図

I	10YR3/2 黒褐	シルト 玉砂利 5~10%含有 草根多量	粗 ソフト
I-1	10YR2/3 黒褐	シルト	粗 ソフト
II	10YR2/2 黒褐	シルト	粗 ソフト
III	10YR1.7/1 黒	シルト 玉砂利 3~5%含有 C 1%含有 草根多量	粗 ソフト
IV	7.5YR5/8 明褐	シルト 玉砂利 1~2%含有	粗 ややソフト
VIII-4	5YR4/8 赤褐:10YR7/6 明黄褐 :10YR4/6 褐	砂:砂:シルト 2:7:1	粗 ややソフト
I	10YR3/4 暗褐	砂	粗 ソフト
土壌1ア	10YR2/1 黒	砂:シルト:玉砂利 1:7:2 草根多量	粗 ソフト
溝1ア	10YR2/2 黒褐	砂:シルト:玉砂利 1:1:8 草根多量	粗 ソフト
溝1イ	10YR2/1 黒	砂:シルト 9:1	粗 ソフト
溝1ウ	10YR2/1 黒	砂:シルト:玉砂利 7:2:1	粗 ややソフト
溝2ア	10YR2/3 黒褐	砂:シルト 9:1	粗 ソフト
溝3ア	10YR3/3 暗褐	砂:シルト:玉砂利 1:1:8	粗 ソフト
溝3イ	10YR4/4 褐	砂:玉砂利 1:9	粗 ソフト
溝4ア	10YR3/4 暗褐	砂:玉砂利 1:9	粗 ソフト

## 花沢館跡 11I-5~11I-15 南北東壁セクション (SPB~SPB') 第11図

I	10YR3/3 暗褐	シルト 玉砂利 5~20mm 大 10%含有、草根多数	粗 ソフト
II	10YR3/3 暗褐 (よりやや暗い)	シルト Ko-d 5%含有	やや粗 ソフト
III	10YR1.7/1 黒	砂:シルト 4:6 玉砂利 5~10mm 大 15%含有 木根、草根少量	やや粗 ややソフト
III-1	10YR2/2 黒褐	砂:シルト 7:3 玉砂利 5~10mm 大含有	粗 ソフト
IV	10YR4/6 褐 (よりやや暗い オレンジ砂)	玉砂利 5~10mm 大含有	粗 ソフト
VIII-3	10YR4/6 褐 (よりオレンジ砂): 10YR2/3 黒褐 (シルト)	8:2 玉砂利 5~10mm 大含有	粗 ソフト
VIII-4	5YR5/8 明赤褐: 7.5YR2/3 極暗褐	錆入り、締まった砂 7:3 玉砂利 5~10mm 大が、密に詰ま っている 10YR1.7/1 黒 砂少量含有	極密 極ハード
溝7ア	10YR3/4 暗褐	粗砂:シルト 90:10 玉砂利 5mm 大含有	粗 ソフト
溝7イ	10YR4/6 褐	粗砂	粗 ソフト
溝7ウ	10YR1.7/1 黒	砂:シルト 4:6 木根、草根微量	やや粗 ややソフト
溝7エ	10YR4/6 褐	砂	粗 ソフト
土壌2ア	7.5YR2/3 極暗褐 (砂)	5YR4/8 赤褐密に締まった砂 (錆びた) が、下部に 20%混入 玉砂利 5mm 大 10%含有	やや粗 ややソフト
土壌2イ	10YR2/3 黒褐 (シルト): 7.5YR2/3 極暗褐 (砂)	9:1 5YR4/8 赤褐密に締まった砂 (錆びた) 少量混入	やや粗 ソフト
土壌2ウ	10YR2/3 黒褐	砂:シルト 3:7 玉砂利 5~10mm 大 10%含有	やや粗 ややソフト

## 花沢館跡 11 I -15~11 I -13東西南壁セクション (SPC~SPC') 第11図

I	10YR3/3 暗褐	シルト 玉砂利 10%含む 草根多量	粗 ソフト
II	10YR3/3 暗褐	シルト Ko-d 5%含む	やや粗 ソフト
III	10YR1.7/1 黒	砂:シルト 4:6 玉砂利 5~10mm 大 30%含む	やや粗 ややソフト
III-1	10YR1.7/1 黒	砂:シルト 8:2 玉砂利 1~2cm 大 10%含有	やや粗 ややソフト
IV	10YR4/6 褐 (よりやや暗い オレンジ砂)	玉砂利 5~20mm 大 20%含有	粗 ソフト
V	10YR4/6 褐	砂:シルト 6:4 玉砂利 5~10mm 大 20%含有	やや密 ややハード
V-1	10YR4/4 褐	砂:シルト 5:5 玉砂利 5~10mm 大 80%含有	やや密 ややハード
VI	7.5YR5/8 明褐 (よりやや暗い オレンジ砂)	玉砂利 5~20mm 大 20%含有、B-Tm 縦層に含む	粗 ソフト

表7 調査区土層観察表

VI-1	10YR4/6 褐～10YR4/4 褐	B-Tm 100%	やや粗 ややソフト
VI-2	10YR4/6 褐	シルト 3cm 大の玉砂利 5～8 個有り 砂 3%	やや粗 ややソフト
VI-3	10YR4/4 褐	シルト 玉砂利 3～5mm 大 20%含有 砂 3%	やや粗 ややソフト
VII-1	7.5YR5/8 明褐	砂 5% 玉砂利 5～10mm 大 50%含有	やや密 ややハード
VII-2	7.5YR5/8 明褐	砂 玉砂利 5～10mm 大 70%含有	密 ハード
VII-3	7.5YR5/8 明褐	砂 40% 玉砂利 5～10mm 大 30%含有	やや粗 ややソフト
VIII	2.5Y4/6 オリーブ褐	固い縮まった砂 玉砂利 5～7mm 大 20%含有	極密 ハード
VIII-1	2.5Y4/3 オリーブ褐： 10YR3/4 暗褐 (縮まった砂)	8：2 玉砂利 5～7mm 大が、密に 90%詰まっている	極密 ハード
VIII-2	7.5YR5/6 明褐 (縮まった砂)： 7.5YR3/4 暗褐 (砂)	8：2 玉砂利 5～10mm 大が、密に 60%詰まっている	極密 ハード
VIII-3	10YR4/6 褐 (縮まった砂)： 10YR3/4 暗褐	7：3 玉砂利 5～10mm 大が、密に 50%詰まっている	極密 ハード
VIII-4	7.5YR5/6 明褐 + 5YR5/8 明赤褐	固い縮まった砂利 60%含有	密 極ハード
ア-1	10YR3/4 暗褐	砂：シルト 5：5 玉砂利 3～5mm 大 10%含有	粗 ソフト
ア-2	10YR1.7/1 黒	砂：シルト 2：8 玉砂利 3～5mm 大 20%含有	粗 ソフト
ア-3	10YR4/4 褐	砂 3% 玉砂利 3～5mm 大 70%含有	やや粗 ややソフト
溝 5 ア	10YR2/3 黒褐	砂：シルト 8：2 玉砂利 5～10mm 大 20%含有	密 ハード

花沢館跡 11I-10～11I-9 東西南壁セクション (SPD～SPD') 第11図

I	10YR2/3 黒褐	シルト 玉砂利 5～30mm 大 10%含有、草根多量	粗 ソフト
II	10YR2/3 黒褐 (よりやや暗い)	シルト Ko-d 5%含有	やや粗 ソフト
III	10YR1.7/1 黒	砂：シルト 4：6 玉砂利 5～10mm 大 30%含有、草根少量	やや粗 ややソフト
III-1	10YR1.7/1 黒	砂：シルト 8：2 玉砂利 10～20mm 大 10%含有	やや粗 ややソフト
III-2	10YR2/3 黒褐	砂：シルト 8：2 玉砂利 5～10mm 大 10%含有	
IV	10YR4/6 褐 (よりやや暗いオレンジ砂)	玉砂利 5～20mm 大 20%含有	粗 ややソフト 粗 ソフト
VIII-1	2.5Y4/3 オリーブ褐：10YR3/4 暗褐	共に縮まった砂 8：2 玉砂利 5～7mm 大が、密に 20%含有	極密 ハード
VIII-2	7.5YR5/6 明褐：7.5YR3/4 暗褐	縮まった砂 (錆び入り)：砂 8：2 玉砂利 5～10mm 大が、密に 10%含有	極密 ハード
VIII-3	5YR5/8 明赤褐：10YR2/3 黒褐	縮まった砂 (錆び入り)：砂 7：3 玉砂利 7～10mm 大が、密に 50%含有	極密 ハード
VIII-4	7.5YR5/6 明褐 (錆び入り)： 5YR5/8 明赤褐	共に固く、縮まった層 6：4	極密 極ハード
溝 2 ア	10YR3/4 暗褐	砂：シルト 9：1 玉砂利 5mm 大 5%含有	粗 ややソフト
P3 ア	10YR1.7/1 黒	砂：シルト 3：7 草根少量	やや粗 ややソフト
P4			

花沢館跡 空壕南北東壁セクション (SPE～SPE') 第11図

I	10YR2/3 黒褐	シルト 玉砂利 3～5%含有 草根多し	粗 ソフト
II	10YR3/3 暗褐	砂：シルト 20：80	やや粗 ややソフト
II-1	10YR3/3 暗褐	砂利を多く含む、II層より色調が濃い	やや粗 ややソフト
IV	7.5YR3/4 暗褐	砂：シルト：荒砂 4：4：2 壕北側斜面中	粗 ソフト
V	7.5YR4/4 褐	砂：シルト：荒砂 6：1：3 壕南側斜面	粗 ソフト
VI	10YR3/4 暗褐	シルト 玉砂利 3～5%含有 草根多し	粗 ややソフト
VI-1	7.5YR3/4 暗褐	シルト	やや粗 ややソフト
VI-2	10YR4/4 褐	砂：シルト 3：7 砂粒多く色調が濃い	粗 ソフト
VII-1	10YR5/6 黄褐：7.5YR4/6 褐	砂 60：40 玉砂利 3～5%含有	やや粗 ややソフト
VII-2	7.5YR5/8 明褐	砂 玉砂利 1～3%含有	粗 ソフト
VII-3	7.5YR5/8 明褐：7.5YR4/6 褐	砂 70：30 玉砂利 1～3%含有	粗 ソフト
VII-4	7.5YR4/6 褐	玉砂利 1～2%含有	粗 ソフト
VII-5	10YR5/6 黄褐	砂 玉砂利 3～5%含有	粗 ソフト
VII-6	10YR6/8 明黄褐	砂 玉砂利 5～7%含有	粗 ソフト
VIII-1	10YR6/8 明黄褐	砂の塊 玉砂利 3～5%含有	やや粗 ややハード
VIII-2	2.5Y6/6 明黄褐	砂 10YR1.7/1 黒の炭化物? 2cm 弱の厚みで、20～30cm の長さあり	粗 ソフト
VIII-3	10YR3/4 暗褐：10YR6/8 明黄褐	60：40 (砂の塊) 玉砂利 3～5%含有	やや密 ややハード
VIII-4	10YR5/8 黄褐	砂の塊 玉砂利 3～5%含有	やや密 ややハード
溝ア	10YR2/2 黒褐	シルト 玉砂利 5%含有	粗 ややソフト
土塁ア	10YR3/4 暗褐	砂：シルト 3：7 玉砂利 20%含有 草根多し	粗 ソフト
土塁イ	10YR5/6 黄褐	砂 玉砂利 70%、10YR4/4 褐砂 含有	粗 ややソフト
土塁ウ	10YR5/6 黄褐	砂 玉砂利 5～7%含有 草根多し	粗 ソフト
土塁エ	7.5YR4/6 褐	砂：シルト 4：6 小さい玉砂利 10%含む	粗 ソフト
土塁オ	10YR4/6 褐	砂 玉砂利 1～3%含有	粗 ソフト
土塁カ	10YR4/4 褐	砂 玉砂利 20%含有	粗 ソフト
壕ア	10YR2/3 黒褐	砂：シルト：玉砂利 1：2：7	粗 ソフト
壕ア-1	10YR2/2 黒褐	砂：シルト：玉砂利 2：4：4	粗 ソフト
壕ア-2	10YR2/1 黒	砂：シルト：玉砂利 1：1：8 草根多量	粗 ソフト
壕ア-3	10YR1.7/1 黒	砂：シルト：玉砂利 2：5：3	粗 ソフト
壕イ	10YR2/2 黒褐	荒砂：シルト 9：1	粗 ソフト

表8 調査区土層観察表

壕ウ	主体 10YR2/3 黒褐：10YR3/4 暗褐	荒砂：シルト 9：1	粗 ソフト
壕エ	10YR3/3 暗褐	荒砂	粗 ソフト
壕オ	10YR2/1 黒：10YR2/3 黒褐	砂：シルト 4：6	粗 ソフト
壕カ	10YR4/4 褐	荒砂：砂 9：1 小礫 15mm 大 1～2%含有	粗 ソフト
壕カ-1	10YR4/4 褐	荒砂：シルト 8：2	粗 ソフト
壕キ	10YR3/4 暗褐	砂：シルト 3：7 6cm 大の礫 20%含有、草根多量	粗 ソフト
壕ク	10YR3/3 暗褐	砂：シルト 5：5	粗 ソフト
壕ケ	7.5YR4/4 褐	砂：シルト 9：1 10cm 大の礫 30%含有	粗 ソフト
壕コ	10YR4/4 褐	砂：シルト：玉砂利 1：4：5	粗 ソフト
壕サ	10YR4/4 褐	荒砂：砂：シルト 5：2：3 10cm 大の礫 10%含有	粗 ソフト
壕シ	10YR4/6 褐	砂：シルト 3：7	粗 ソフト
壕ス	7.5YR4/4 褐	荒砂：砂：シルト 7：2：1	粗 ソフト
壕ス-1	7.5YR4/4 褐	砂：シルト 9：1	粗 ソフト
壕ス-2	7.5YR4/4 褐	砂：シルト 9：1 6cm 大の礫 30%含有	粗 ソフト
壕セ	7.5YR4/6 褐	砂：シルト 8：2 2～5cm の礫 50%含有	粗 ソフト
壕ソ	7.5YR4/6 褐	砂：シルト 9：1 草根多量	粗 ソフト
壕タ	7.5YR4/6 褐	荒砂：砂：玉砂利 2：7：1	粗 ソフト
壕チ	7.5YR4/6 褐	砂：シルト 9：1	粗 ソフト
壕ツ	7.5YR4/6 褐	荒砂：砂：シルト 1：8：1	粗 ソフト
壕テ	7.5YR5/6 明褐	荒砂：砂 7：3	粗 ソフト
壕ト	7.5YR4/4 褐	荒砂と 10Y4/2 オリーブ灰砂が、1cm の層状に交互に堆積 1～2cm 大の礫 10%含有	粗 ソフト
壕ナ	7.5YR4/4 褐	荒砂と 10Y4/2 オリーブ灰砂が、1cm の層状に交互に堆積 層上部にオリーブ灰の礫片を含む	粗 ソフト
壕ニ	7.5YR5/6 明褐	荒砂：玉砂利 2：8	粗 ソフト
壕ニ-1	7.5YR4/6 褐：10Y4/2 オリーブ灰	5：5 オリーブ灰の小礫片 1～2cm 有り	粗 ソフト
壕ヌ	7.5YR4/6 褐：10Y4/2 オリーブ灰	荒砂 5：5 4cm 大の礫 10%含有	粗 ソフト

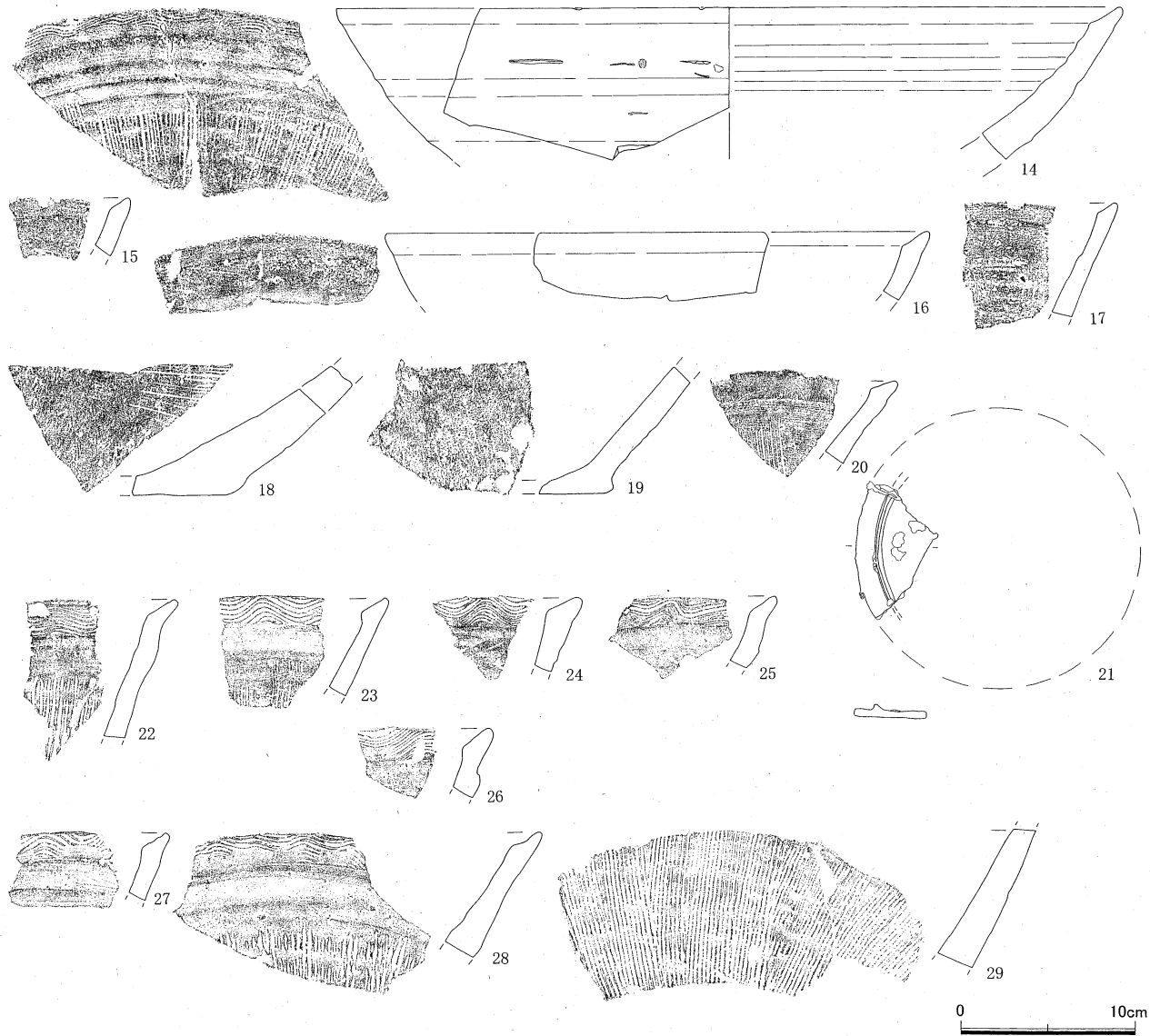
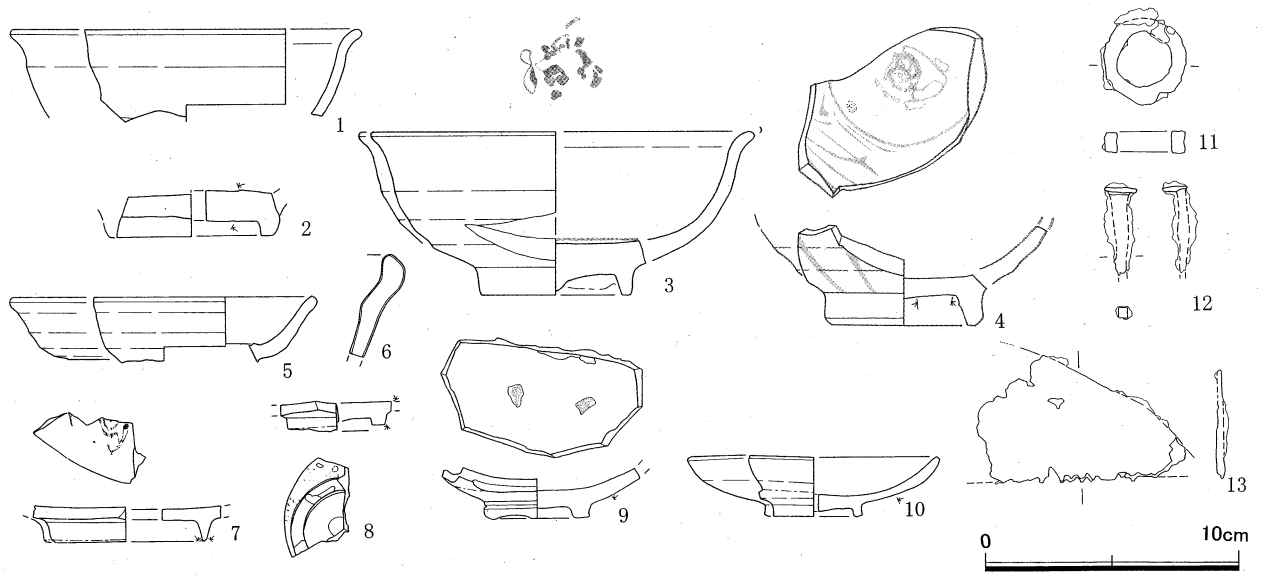
表9 遺構土壌選別表

※抽出物の 0g は 0.1g 以下 点数のみは 0.1g 以下 種別毎総量は 0.1g 以下カット(単位：g)

調査区		11I-9	11I-10	11I-14	11I-10	11I-10	
遺構		溝1	溝2	炭化物 1	火山灰 下 黒色土	炭化物 範囲2	残量
採取土量(kg)		10.20	14.65	4.70	7.40	22.40	59.35
動植物遺物	炭化遺物	0.9	0.1	0.3	0.1	0.3	1.7
	炭化遺物 (浮大)	1.4	0.1	0.1		0.1	1.7
	炭化遺物 (浮小)	0.2	0.1	0.1		0.1	0.5
	不明種子 (点)						
	浮大					1	1
	浮小	1	3			10	14
	不明種皮 (点)	3	1	4	4	3	15
	浮大		1		3	5	9
	浮小	1	4	2	3		10
	不明種子(そば?) (点)						
鍛冶関係	不明炭化物 (点)						
	不明炭化物 (浮大)			0.7	0.8		1.5
	不明炭化物 (浮小)			0.8	0.2		1.0
	不明炭化物 (浮小)			0.1	0.1		0.2
	磁着石 (g)			0.1			0.1
	スラッグ(非磁着)	0.6		0.1			0.7
	鍛造片 剥片						
	鍛造片 変形板状						
	鍛造物片 粒状						
	鍛造片 変形粒状						
鍛造片 球状							

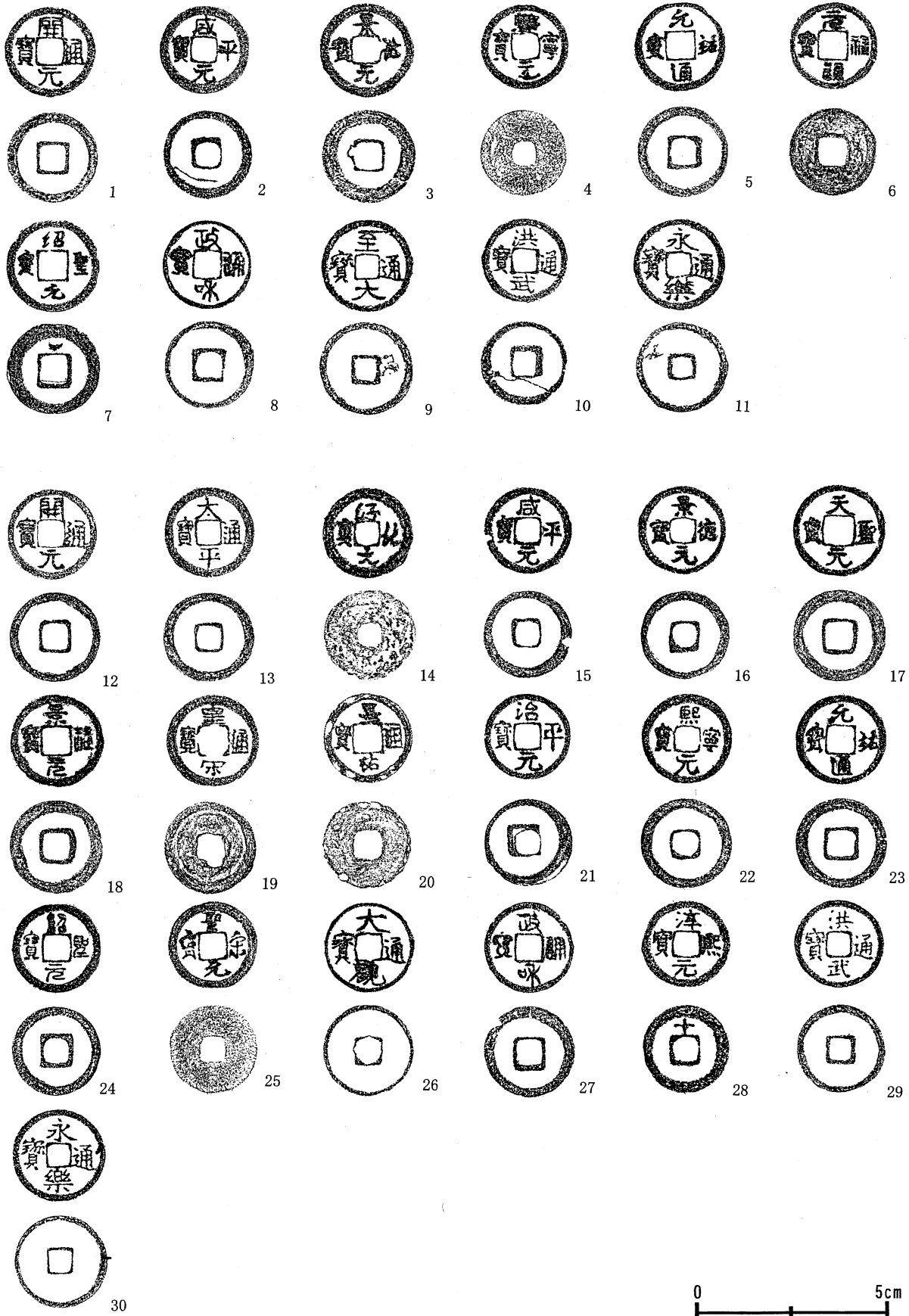
  

調査区		11I-9	11I-10	11I-14	11I-10	11I-10	
遺構		溝1	溝2	炭化物 1	火山灰 下 黒色土	炭化物 範囲2	残量
遺物	鉄製品(?) (点) (g)			2点 0.1			2 0.1
	擦文土器 (点) (g)						
	擦文土器(微小破片)						
その他	被熱礫(磁着)						
	被熱礫(非磁着)						
	焼土ブロック(黒)						
	焼土ブロック(赤)						
	焼土ブロック(黄色)						
	焼土ブロック(ローム)						
	ロームブロック						
	不明溶解物		0.2	0.1	0.5	0.1	0.9
	不明溶解物 (浮大)	0.1	0.4		0.4	0.1	1.0
	不明溶解物 (浮小)	0.1			0.1		0.2
貝(?) (点)					2	2	
不明骨(?) (点)					2	2	
玉石 (g)	26.4		17.8	28.4	88.9	161.5	
玉砂利	5.5	8.8		7.8	15.4	37.5	
玉砂利 (浮大)		0.4	3.8			4.2	
玉砂利 (浮小)			0.4			0.4	
残量 (g)	4.500	2.500	7.000	3.500	9.000	26.50	



第12図 調査区出土遺物・過年度出土遺物





第13圖 調査区出土銭・過年度表採銭

表10 出土遺物集計表（陶磁器等）

地区	層位	青磁	白磁	青花	瀬戸	珠洲	銭	鉄	炭化物	石製品	自然遺物	炭	不明	合計
8I-25-1	I					1								1
8I-25-2	I	1												1
8I-25-4	I	2												2
8I-25	トレンチ	2												2
8I-25	Ⅲ	7	2		1	4	2							16
8I-25	排土		1											1
9I-25	I								1					1
9I-25	トレンチ							1						1
11I-9	Ⅱ							1						1
11I-9	Ⅲ	2						1						3
11I-9	溝3											1		1
11I-10-2	I										1			1
11I-10-4	I	2												2
11I-10	Ⅲ	2	2				1		2		1			8
11I-10	Ⅳ						1							1
11I-10	Ⅶ						2	1						3
11I-13-2	I	1		2					1					4
11I-13-4	I	1				3				1	1	1		7
11I-13	Ⅲ					1	1					1		3
11I-14	Ⅲ	2	2	1		3	4	2	1		2		1	18
11I-14	Ⅶ						2							2
11I-14	土壌1						4	1						5
11I-15-3	I		1	1										2
11I-15-4	I		4											4
11I-15	Ⅳ					1								1
11I-25	Ⅶ-6										1			1
11I	排土	1	1			1								3
	表採					1							1	2
12I-10	壕								1					1
	合計	23	13	4	1	15	17	7	6	1	6	3	2	98

表11 出土遺物集計表（鉄製品）

単位：cm

種別	地区	層位	長さ	幅	厚さ	重さ	備考
蓋	9I-25	トレンチ	8.1	4.8	0.7	47.9	
縮金具	11I-9	Ⅱ（トレンチ）	3.9	3.4	0.9	19.1	
蓋？	11I-9	Ⅲ			0.5	109.4	
鋸	11I-10	Ⅶ（トレンチ）	8.2	5.2	0.3	35.0	破片2個
不明	11I-14	Ⅲ				17.1	破片3個
不明	11I-14	Ⅲ				15.8	破片7個
釘	11I-14	土壌1	3.7	1.3	0.5	3.2	

表12 出土遺物観察表（陶磁器）

図版番号	種類	器種	釉調	胎土色調	備考	出土地点（層位-グリット-遺構の順）	口径 (mm)	底径 (mm)	器高 (mm)
第12図2	青磁	碗	明るい緑味灰	灰白		I 8I-25-4		64	18.5
第12図5	青磁	皿	うす黄茶	明るい灰	腰折皿	トレンチ 8I-25	124		26
第12図18	珠洲	すり鉢		明るい茶	全面無釉	Ⅲ 8I-25			
第12図8	白磁	皿	明るい灰白	茶白	切高台底面部釉の拭き取りあり後は、無釉	Ⅲ 8I-25		39	12.5
第12図6	青磁	盤	明るいオリーブ灰	茶白		Ⅲ 8I-25			
第12図4	青磁	碗	明るい緑味灰	灰白		Ⅲ 8I-25		58	40
第12図14	珠洲	すり鉢		うす黄茶	全面無釉	Ⅲ 8I-25	454		71
第12図1	青磁	碗	うすオリーブ	明るい茶灰		Ⅲ 11I-9	140		37
第12図3	青磁	碗	オリーブ灰	青味灰		I 11I-13-2 Ⅲ 11I-14	162	60	67
第12図7	青花	皿	白	白		I 11I-13-2		62	15
第12図15	珠洲	すり鉢		明るい茶	全面無釉	I 11I-13-4			
第12図17	珠洲	すり鉢		明るい灰	全面無釉	I 11I-13-4			
第12図16	珠洲	すり鉢		うす黄茶	全面無釉	Ⅲ 11I-14	314		34
第12図20	珠洲	すり鉢		明るい茶灰	全面無釉	Ⅲ 11I-14			
第12図10	白磁	皿	白	白	腰折皿	Ⅲ 11I-14		37	50
第12図9	白磁	皿	茶白	明るい茶灰		I 11I-15		40	16
第12図19	珠洲	すり鉢		うす茶		排土 11I			

表13 花沢館跡過年度表採銭一覧表

単位：cm

図版番号	PLNO	銭名	国名	初鑄年	地区	層位	外径	内径	厚さ	重さ(g)	備考
第13図12	PL.7-12	開元通寶	唐	621			2.44	1.99	0.1	2.9	
第13図13	PL.7-13	太平通寶	北宋	976			2.425	1.925	0.1	3.2	
第13図14	PL.7-14	淳化元寶	北宋	990			2.44	1.745	0.12	3.7	
第13図15	PL.7-15	咸平元寶	北宋	998			2.37	1.825	0.12	3.0	
第13図16	PL.7-16	景德元寶	北宋	1004			2.385	1.945	0.11	3.7	
第13図17	PL.7-17	天聖元寶	北宋	1023			2.485	2.02	0.12	3.4	
第13図18	PL.7-18	景祐元寶	北宋	1034			2.525	2.04	0.12	3.6	
第13図19	PL.7-19	皇宋通寶	北宋	1038			2.485	1.92	0.12	3.9	
第13図20	PL.7-20	嘉祐通寶	北宋	1056			2.38	1.925	0.1	2.7	
第13図21	PL.7-21	治平元寶	北宋	1064			2.325	1.93	0.12	3.2	
第13図22	PL.7-22	熙寧元寶	北宋	1068			2.45	1.915	0.1	2.9	
第13図23	PL.7-23	元祐通寶	北宋	1086			2.43	1.985	0.05	3.6	
第13図24	PL.7-24	紹聖元寶	北宋	1094			2.40	1.87	0.15	4.3	
第13図25	PL.7-25	聖宋元寶	北宋	1101			2.37	1.82	0.11	3.7	
第13図26	PL.7-26	大觀通寶	北宋	1107			2.435	2.175	0.15	4.1	
第13図27	PL.7-27	政和通寶	北宋	1111			2.435	2.055	0.12	4.0	
第13図28	PL.7-28	淳熙元寶	南宋	1174			2.365	1.86	0.11	3.4	
第13図29	PL.7-29	洪武通寶	明	1368			2.365	2.0	0.15	3.9	
第13図30	PL.7-30	永樂通寶	明	1408			2.48	2.085	0.13	3.4	

表14 花沢館跡出土銭一覧表

単位：cm

図版番号	PLNO	銭名	国名	初鑄年	地区	層位	外径	内径	厚さ	重さ	備考
第13図9	PL.7-9	至大通寶	元	1310	8I-25	Ⅲ	2.515	2.04	0.14	3.4	
					8I-25	Ⅲ	2.0		0.1	1.1	
第13図8	PL.7-8	政和通寶	北宋	1111	11I-10	Ⅲ	2.385	2.08	0.1	2.8	
第13図3	PL.7-3	景祐元寶	北宋	1034	11I-10	Ⅳ	2.53	1.91	0.11	2.4	
第13図7	PL.7-7	紹聖元寶	北宋	1094	11I-10	Ⅷ	2.485	1.975	0.12	3.4	トレンチ
第13図1	PL.7-1	開元通寶	唐	621	11I-10	Ⅷ	2.46	1.95	0.11	2.7	トレンチ
第13図10	PL.7-10	洪武通寶	明	1368	11I-13	Ⅲ	2.28	1.81	0.135	2.4	
					11I-14	Ⅲ				0.4	破片
第13図2	PL.7-2	咸平元寶	北宋	998	11I-14	Ⅲ	2.4	1.79	0.12	3.0	
第13図4	PL.7-4	熙寧元寶	北宋	1068	11I-14	Ⅲ	2.315	1.885	0.13	3.2	
					11I-14	Ⅲ	2.38	1.73	0.11	2.6	
第13図6	PL.7-6	元祐通寶	北宋	1093	11I-14	Ⅷ	2.385	1.94	0.11	2.3	トレンチ
					11I-14	Ⅷ	2.555	2.03	0.13	2.2	トレンチ
第13図11	PL.7-11	永樂通寶	明	1408	11I-14	土壇1	2.455	2.06	0.12	2.2	
					11I-14	土壇1	2.17		0.13	1.2	
第13図5	PL.7-5	元祐通寶	北宋	1093	11I-14	土壇1	2.455	2.03	0.1	3.3	
					11I-14	土壇1				0.4	破片

17はやや幅広の端面が鋭い長三角形をなす。内面口端部下は幅3cm程の凹部となり、その下に卸目が入る。卸目は磨耗し殆ど見えない。胎土には3mm位の礫含有。口端部は赤みを帯びており、焼成はやや悪い。18は底部角は丸みを帯びる。底部は静止糸切。全体的に焼きが悪く、色調はやや茶色っぽい。22から29は頂上部下、西側平坦部にて過年度表採さ

れたものである。調査により出土したもの比べ、全体に焼きは良く、暗灰色である。全体に口縁部は幅広の端面が鋭い長三角形を呈し、内端面に櫛歯波状文帯を施す。吉岡編年V期に相当する。その他銭が出土している。第13図1～11が調査区内出土遺物、以下が戦後頂上部耕作の際の表採品である。全体として北宋銭が多い。(齊藤邦典)

### Ⅲ 小括

今年度の調査で出土した遺物から15世紀中葉代の時期に花沢館が存続していたことが明らかとなった。遺構については、頂上部平坦面等からⅢ層の中世面にて柱穴、溝等が確認された。しかし包含層が10cm内外と極めて薄く、また海成堆積物の砂利層がⅢ層以下に多量に分布していることにより遺構が見えづらいという点があった。頂上部平坦部では当初調査前考えていた一面に柱穴等が分布するという予想からはずれ、南北に基盤層の隆起帯があり、その上面で

は柱穴等は見られず、隆起帯左右に溝とわずかな柱穴が存在するという調査結果となった。隆起帯左右に小規模な建物が立つのだろうか。この花沢館には他に650㎡の平坦部、1000㎡程の舌状台地があり、次年度調査予定である。これらの地区を調査することにより、頂上部平坦部等それぞれの平坦部の役割等が見えてくるのではないだろうか。本格的な調査に待つところが多い。(齊藤邦典)

# ワシリ遺跡分布調査

## I 調査の概要

### 1. 調査の経緯

ワシリ遺跡は上ノ国町市街地から国道228号線を松前方向に12km、日本海に面した字汐吹地区の海岸段丘、標高44m前後の舌状台地上に位置する。西側は日本海に面し、晴れた日には正面に奥尻、南西には渡島大島を望むことができる。東側は標高430mの撫付山が国道付近まで迫る。

ワシリ遺跡は昭和55年の国道228号線改修工事に伴う遺跡範囲確認調査により確認され、テストピットからは擦文土器片が出土した。当時はチャシ跡と考えられていたが、東北地方で壕を持つ防禦性集落や高地性集落が発見、調査され、道南地方でも松前町原口遺跡や乙部町小茂内遺跡で壕を持つ擦文時代の遺跡が確認された。平成14年度のトレンチ調査の結果、擦文期の遺跡であることが確認された。この為、平成15年春、北海道教育庁文化課に遺跡名変更の届出を提出し、「ワシリチャシ跡」から「ワシリ遺跡」に遺跡名を改称した。過去2年間の発掘調査では擦文期の竪穴状遺構や土壇、溝跡、柱穴、壕などの他、擦文土器、石製品、鍛冶関係品など約6,800点が出土している。

本年度は遺構の北側への広がりを確認するため、昨年度の調査区から沢を挟んで北西側に張り出す舌状台地上、5箇所10m×3mを初めとした調査区を設定した。

### 2. 調査の方法

現場は笹が人の身長ほどの高さで密生し非常に見通しが悪く進行困難だったので、笹伐採後調査を開始した。台地の平坦部に10m×10mのグリットを設定し、長軸方向にアルファベットを短軸方向にローマ数字を割り当て、さらに5m×5mの小グリットで4分割しローマ数字を割り当てた。調査区の名称は調査開始順に台地中央部を第1調査区、道路側を第2調査区、台地西側の周縁部を第3調査区、第2調査区の東側を第4調査区、国道側を第5調査区とした。調査は表土を除去後、トレンチを設定し土層を観察後、土層図を作成し層別に掘り下げた。遺構を検出後、土層図、平面図等を作成、写真撮影し記録した。遺構の覆土に関しては可能な限り採取し、後日フローテーションを行って目視により選別した。

遺物はI層のものはグリット一括で取上げ、II層以下のものは平板測量によって記録し取上げた。

### 3. 調査の経過

6月17日 調査開始。笹刈り、調査区設定  
第1調査区、調査開始。

6月25日 第1調査区、溝確認、調査。

7月20日 第4調査区、調査開始。

7月21日 第4調査区、調査終了。

7月22日 第2調査区、調査開始。

7月23日 第3調査区、調査開始。  
第2調査区、溝確認、調査。

8月4日 第1調査区、集石確認。

8月5日 第3調査区、土壇検出、調査。

8月12日 第3調査区、調査終了。  
第5調査区、調査開始。

8月18日 第5調査区、溝検出、調査。

8月23日 第1調査区、竪穴1確認

8月27日 第5調査区、調査終了。

9月10日 調査終了。

### 4. 基本層序

I層 10YR2/1~2/2 表土層 近現代 細分される。

II層 10YR2/1~2/2 黒~黒褐色 シルト Ko-dが3~20%混入する。

III-1層 10YR1.7/1~3/2 黒~黒褐色 シルト細分される。擦文期。

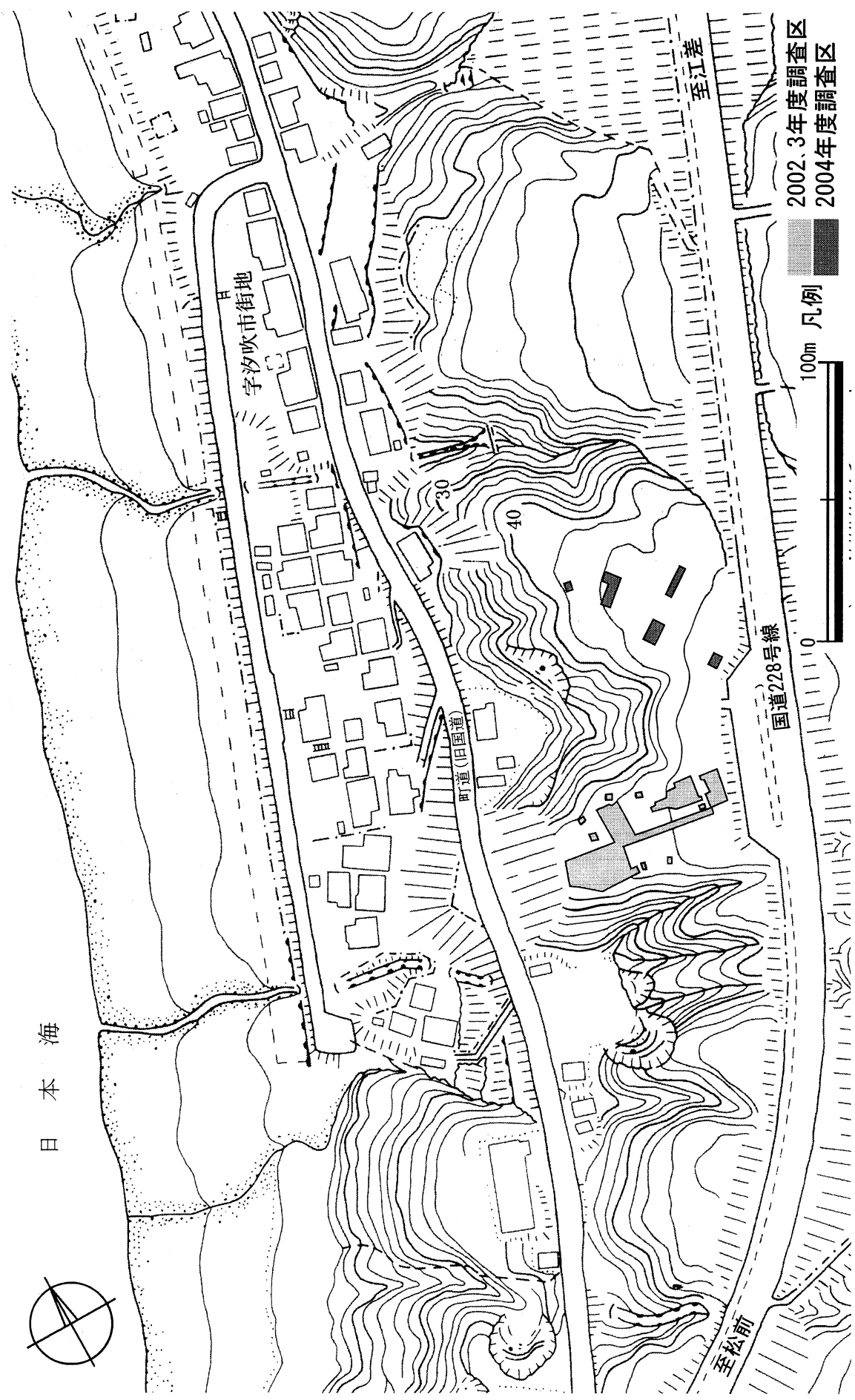
III-2層 10YR2/2~3/4 黒褐~暗褐色 シルト細分される B-Tmを微量含有。擦文期。

IV層 10YR2/3~4/3 黒褐~にぶい黄褐色 シルト礫1~2%含む。

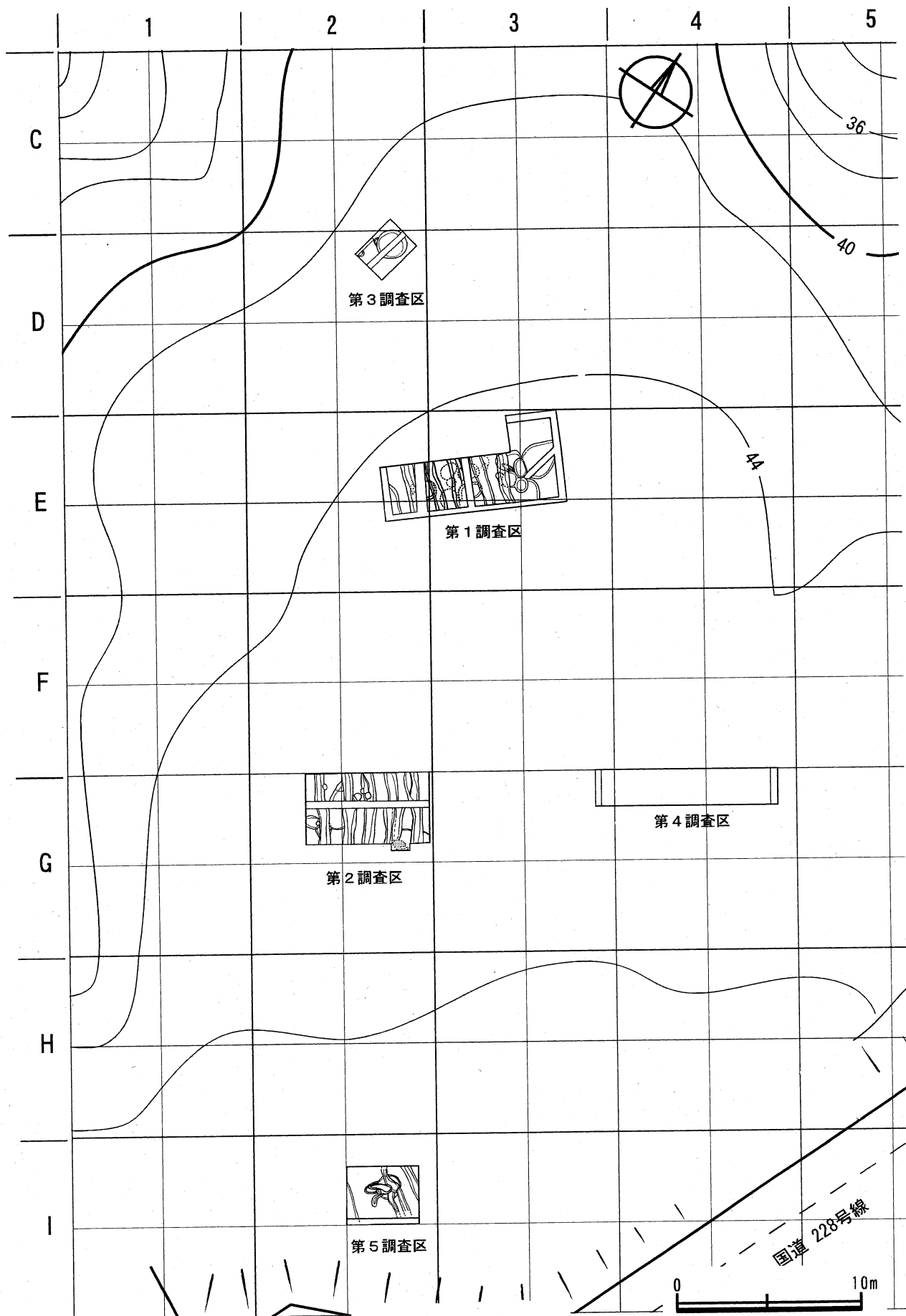
V層 10YR3/3~4/3 暗褐~にぶい黄褐色 ソフトローム。礫が混じる

VI層 10YR4/4~5/6 褐~黄褐色 ハードローム 礫が混じる。

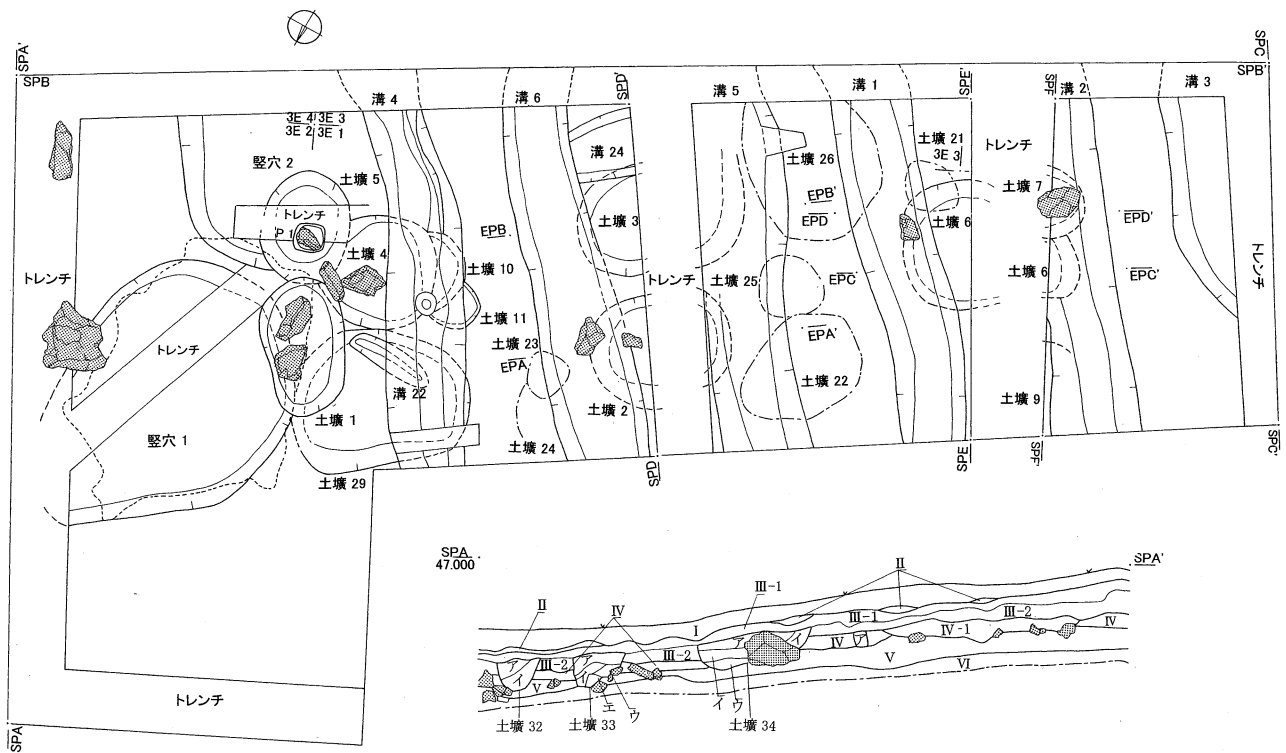
(高橋 昇)



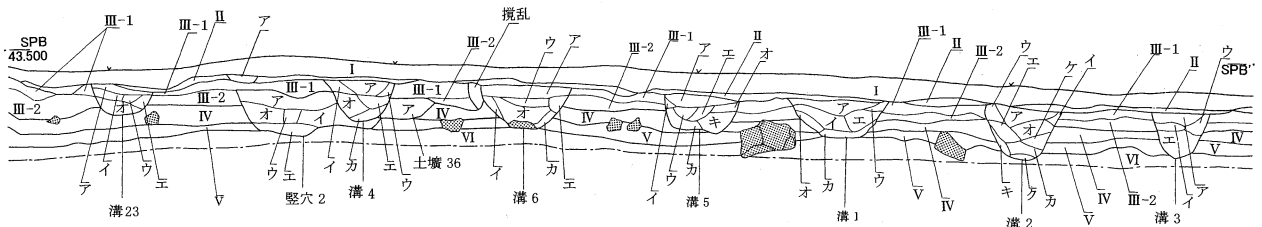
第14図 調査区位置図



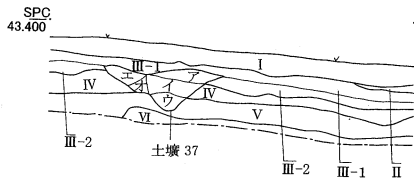
第15図 遺構配置図



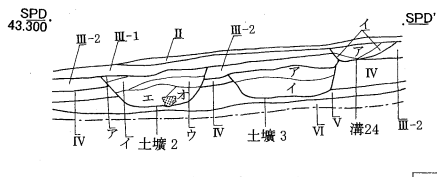
3E 2東北壁土層堆積図



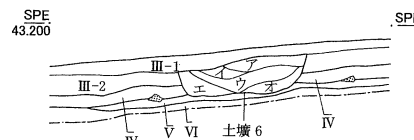
3E 4~2E 4南北東壁土層堆積図



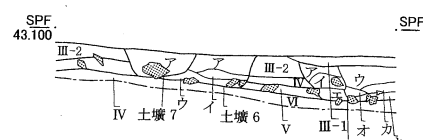
2E 4~2E 2東西南壁土層堆積図



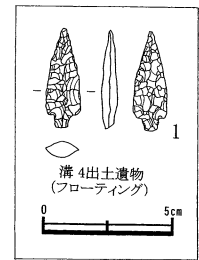
3E 1東北壁土層堆積図



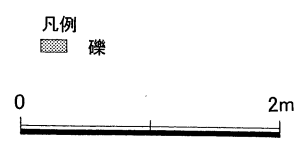
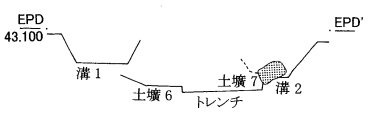
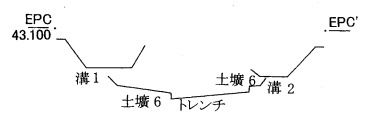
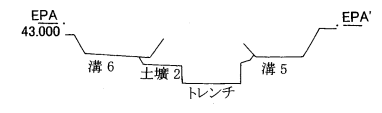
3E 1~3E 3東西北壁土層堆積図



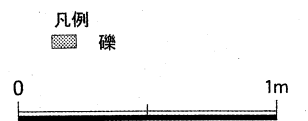
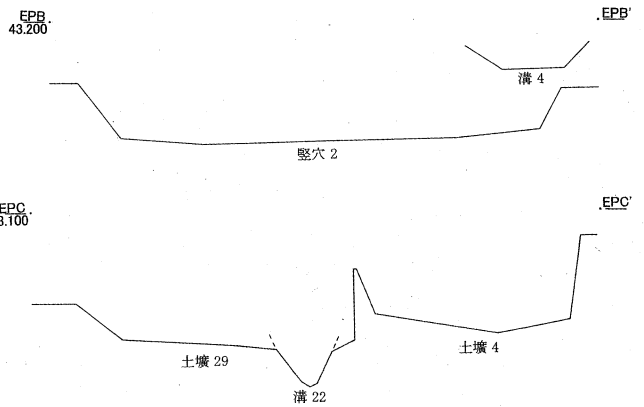
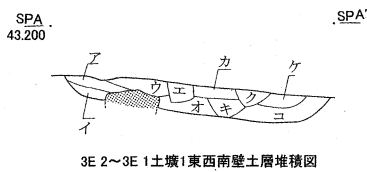
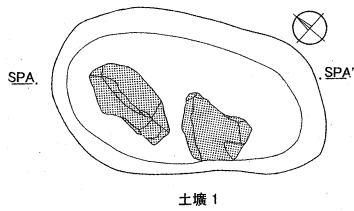
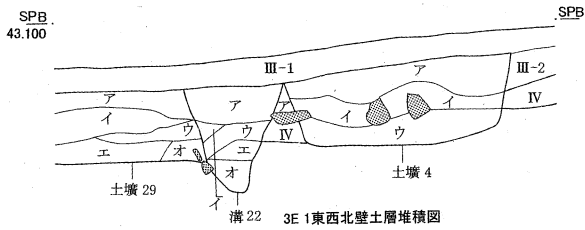
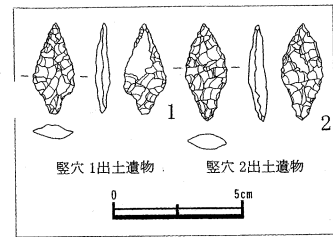
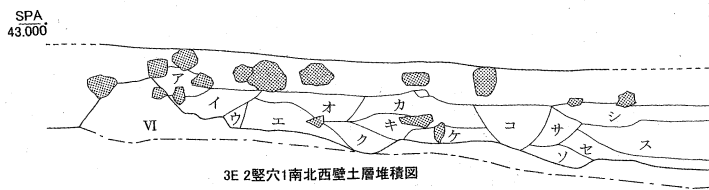
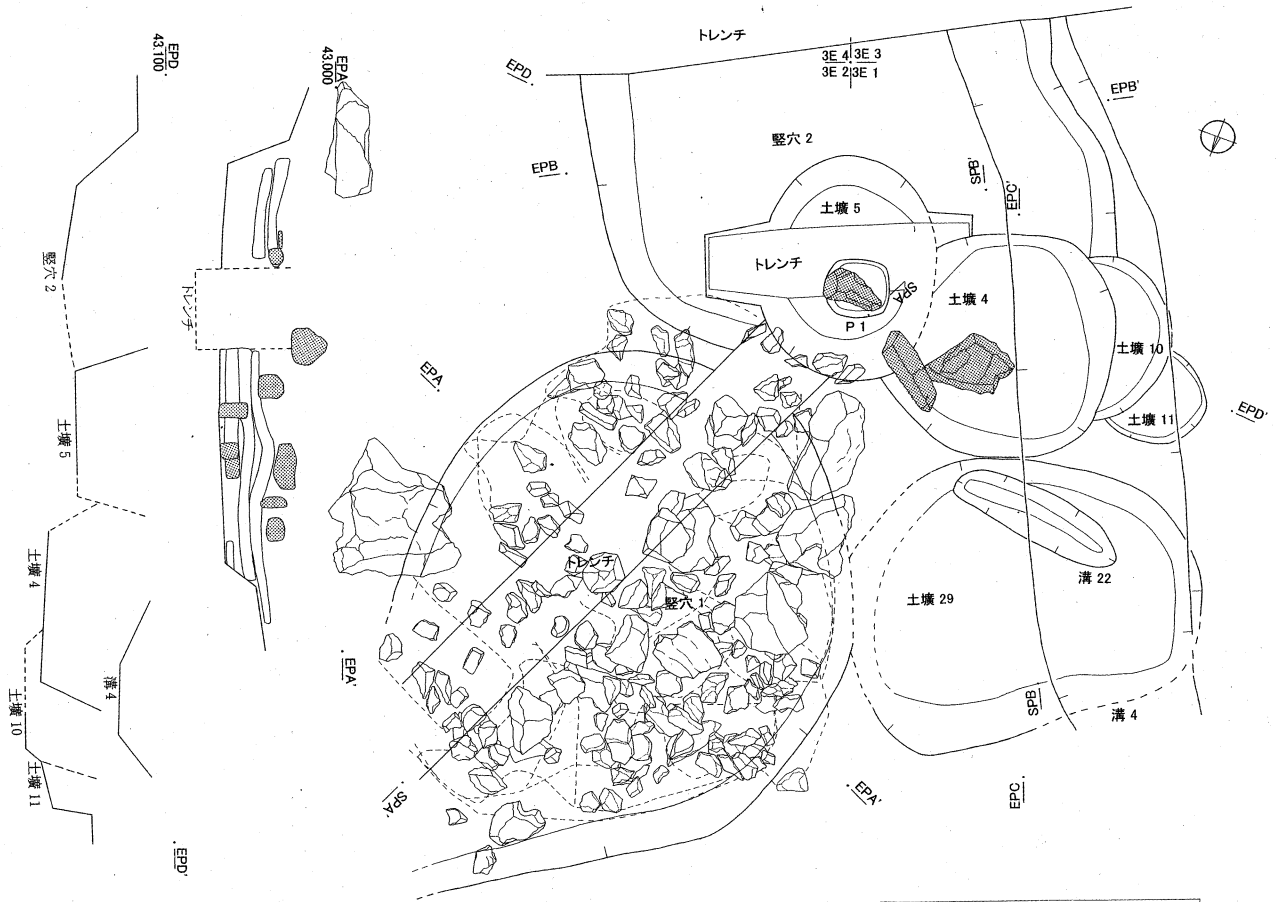
3E 1東西南壁土層堆積図



溝 4出土遺物 (フローティング)

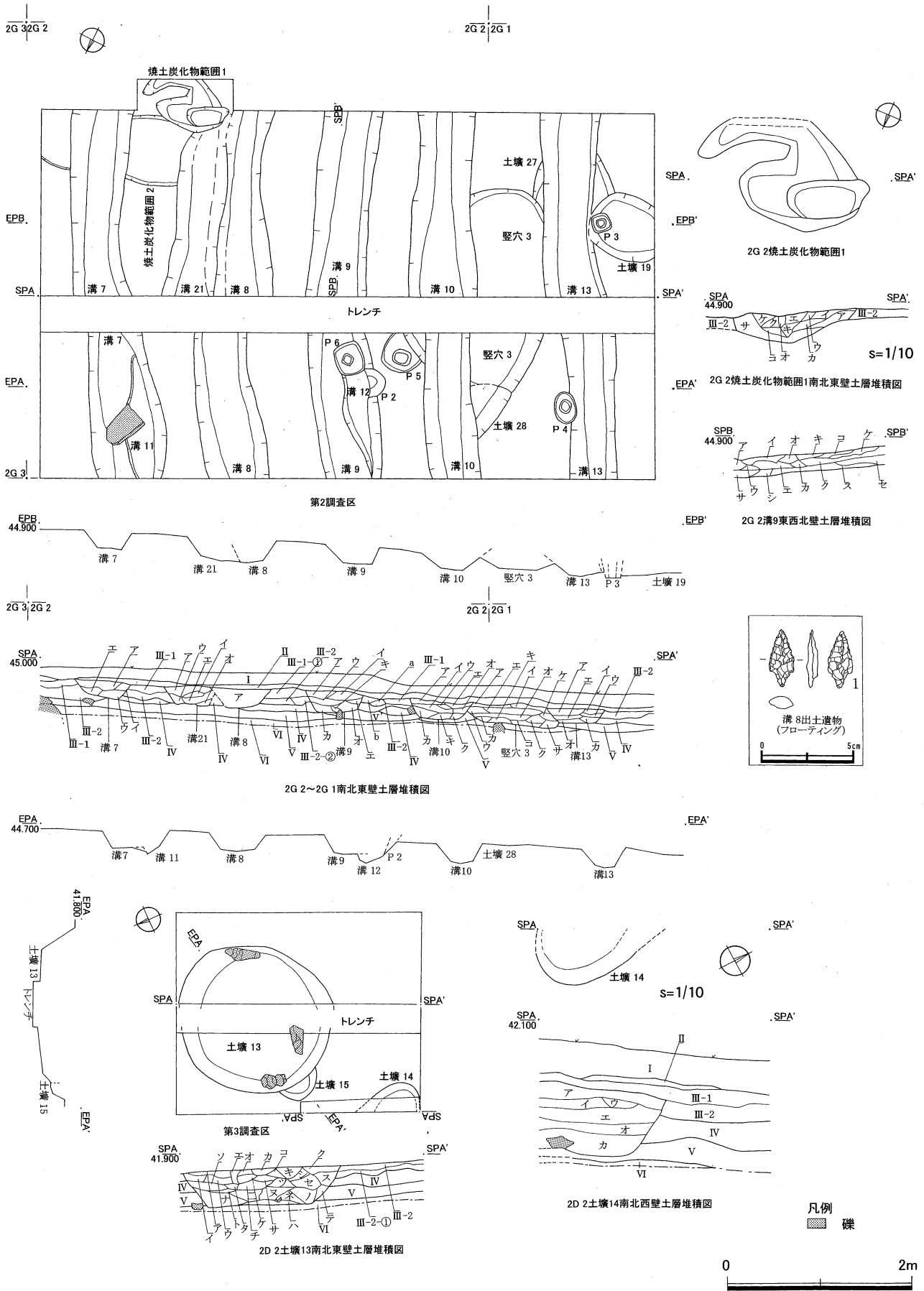


第16図 第1調査区遺構平面図他

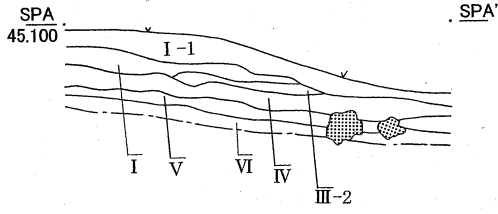


第17図 第1調査区堅穴、土壌平面図

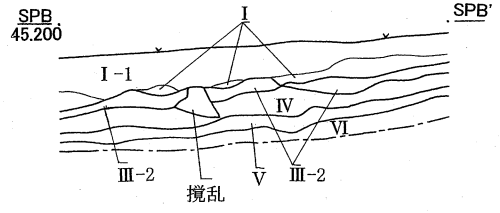




第18図 第2、3調査区遺構平面図他

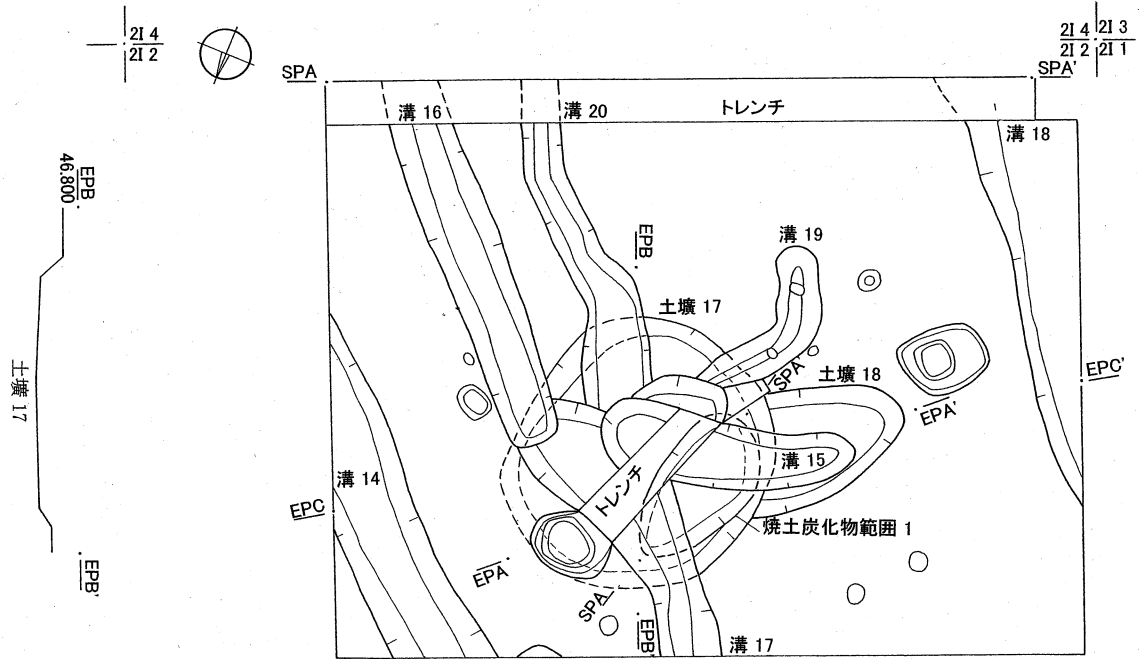


2G2 東西南壁土層堆積図

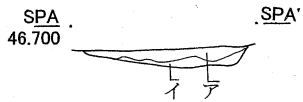


4G2 東西北壁土層堆積図

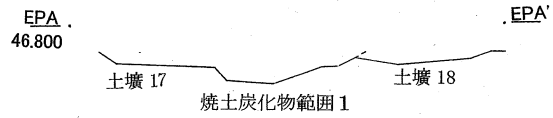
第4調査区 土層堆積



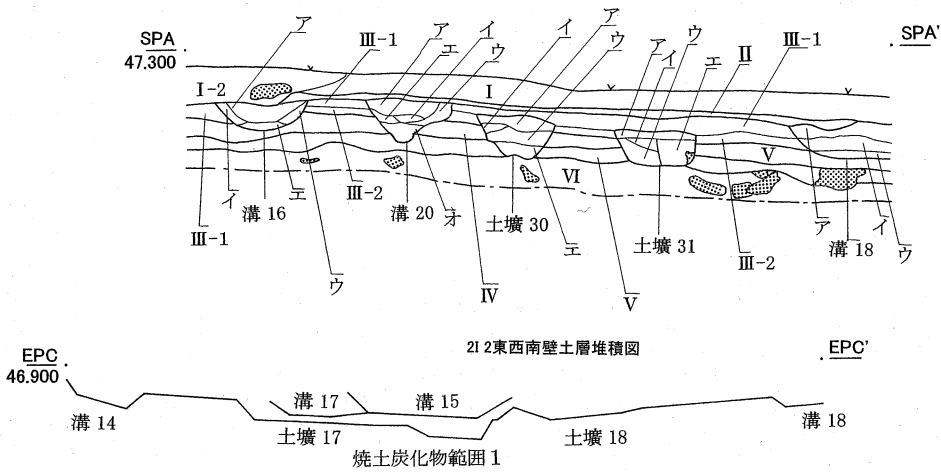
第5調査区 平面図・土層堆積



21.2 土壌17 焼土炭化物範囲 1 土層堆積図



土壌 18 焼土炭化物範囲 1



21.2 東西南壁土層堆積図

第19図 第4、5調査区遺構平面図他

表15 土壇データ表

( )は残存部を計測

土壇 No.	地区名	長軸 (cm)	短軸 (cm)	壁面角度	深さ (cm)	備考 (掲載図等)
土壇 1	3E-1、2	110	54	43°	24	第 16、17 図 竪穴 1、土壇 29 より新
土壇 2	3E-1	110	80	48°	28	第 16 図 溝 5、6 より古い
土壇 3	3E-1	132	96	51°	24	第 16 図 溝 5、6 より古い
土壇 4	3E-1、2	92	(90)	52°	68	第 16、17 図 土壇 10 より新、溝 4 より古い
土壇 5	3E-1、2	(88)	(68)	57°	55	第 16、17 図 竪穴 2、土壇 4 より新
土壇 6	3E-1、3	(100)	(50)	57°	28	第 16 図 溝 1 より古い
土壇 7	2E-2、4	(54)	(20)	54°	22	第 16 図 土壇 8 より新、溝 2 より古い
土壇 9	2E-2	不明	不明	50°	26	第 16 図
土壇 10	3E-1、2	(64)	(20)	48°	(12)	第 16、17 図 土壇 11 より新、土壇 4、溝 4 より古い
土壇 11	3E-1、2	(94)	(90)	56°	40	第 16、17 図 土壇 10、溝 4 より古い
土壇 13	2D-2	170	154	53°	42	第 18 図 土壇 15 より新
土壇 14	2D-2	(42)	(20)	55°	34	第 18 図
土壇 15	2D-2	(46)	(18)	33°	16	第 19 図 土壇 13 より古い
土壇 17	2I-2	(142)	(130)	19°	(6)	第 19 図 土壇 18 より新、溝 15～20 より古い
土壇 18	2I-2	(66)	60	23°	(3)	第 19 図 土壇 17、溝 15 より古い
土壇 19	2G-1	(78)	69	10°	18	第 18 図 土壇 27 より新、溝 13 より古い
土壇 21	3E-1	不明	不明	不明	不明	第 16 図 確認のみ
土壇 22	3E-1	不明	不明	不明	不明	第 16 図 "
土壇 23	3E-1	不明	不明	不明	不明	第 16 図 "
土壇 24	3E-1	不明	不明	不明	不明	第 16 図 "
土壇 25	3E-1	不明	不明	不明	不明	第 16 図 "
土壇 26	3E-1、3	不明	不明	不明	不明	第 16 図 "
土壇 27	2G-1	不明	(88)	40°	(10)	第 18 図 土壇 19、溝 13 より古い
土壇 28	2G-1、2	不明	不明	19°	(13)	第 18 図 溝 10 より古い
土壇 29	3E-1、2	(138)	(108)	34°	26	第 16、17 図 溝 22 より古い。
土壇 30	2I-2	不明	不明	49°	20	第 19 図
土壇 31	2I-2	不明	不明	53°	18	第 19 図
土壇 32	3E-2	不明	不明	70°	25	第 16 図
土壇 33	3E-2	不明	不明	77°	27	第 16 図
土壇 34	3E-2	不明	不明	75°	23	第 16 図
土壇 36	3E-1、2	不明	不明	不明	18	第 16 図
土壇 37	2E-2、4	不明	不明	35°	32	第 16 図

表16 調査区土層観察表

ワシリ遺跡 第1調査区 3E2 東西北壁セクション (SPA ~ SPA') 第16図

I	10YR2/1 黒	シルト 草根多量	粗 ソフト
II	10YR2/2 黒褐 ~ 10YR3/2 黒褐	シルト	粗 ソフト
III-1	10YR2/2 黒褐	シルト B-Tm 1 ~ 3%含有	やや粗 ややソフト
III-2	10YR3/3 暗褐	シルト B-Tm 1 ~ 2%含有	やや粗 ややソフト
IV	10YR3/4 暗褐	シルト 2 ~ 3cm 大の礫 1 ~ 2%含有	やや密 ややハード
V	10YR4/4 褐	ソフトローム 3 ~ 5cm 大の礫 20 ~ 25%含有	やや密 ややハード
VI	10YR5/6 黄褐	ハードローム	密 ハード
土壙 32 ア	10YR3/4 暗褐	シルト B-Tm 10 ~ 15%含有	やや密 ややソフト
土壙 32 イ	10YR3/4 暗褐	シルト	やや密 ややソフト
土壙 33 ア	10YR2/3 黒褐	シルト B-Tm 5 ~ 7%含有	やや密 ややソフト
土壙 33 イ	10YR3/4 暗褐	シルト B-Tm 1 ~ 3%含有	やや密 ややソフト
土壙 33 ウ	10YR3/4 暗褐	シルト	やや密 ややソフト
土壙 33 エ	10YR3/4 暗褐	シルト	密 ややハード
土壙 34 ア	10YR2/3 黒褐	シルト B-Tm, 10YR1.7/1 黒シルト共に微量混入	やや粗 ややソフト
土壙 34 イ	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR1.7/1 黒シルト微量混入	やや密 ややソフト
土壙 34 ウ	10YR2/3 黒褐	シルト	密 ややハード
P1 ア	10YR3/3 暗褐	シルト ソフトローム粒微量	
VI-1	10YR3/4 暗褐	シルト IVより色調が暗い	やや密 ややハード

ワシリ遺跡 第1調査区 3E4 ~ 2E4 南北東壁セクション (SPB ~ SPB') 第16図

I	10YR2/1 黒	シルト 草根多し	
II	10YR2/2 黒褐	シルト 溝覆土のII層には Ko-d 3 ~ 5%、7 ~ 10%も有る 他の所は 1 ~ 2%入る C 微量	粗 ソフト
III-1	10YR3/2 黒褐 : 10YR2/2 黒褐	シルト 70 : 30 Ko-d 3%含有	やや密 ややソフト
III-2	10YR3/4 暗褐	IVに対し粒子細かい Ko-d 1%含有	やや粗 ややソフト
IV	10YR3/3 暗褐 ~ 10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	やや密 ややハード
V	10YR4/4 褐 ~ 10YR4/6 褐	ソフトローム	密 ハード
VI	10YR5/6 黄褐	ハードローム	密 ハード
竪穴 2 ア	10YR3/3 暗褐	シルト Ko-d 微量	密 ややソフト
竪穴 2 イ	10YR2/3 黒褐	シルト	密 ややハード
竪穴 2 ウ	10YR3/2 黒褐	シルト ハードローム 1 ~ 2%含有	密 ややハード
竪穴 2 エ	10YR3/4 暗褐	シルト 5cm 大の礫有り	密 ハード
竪穴 2 オ	10YR3/3 暗褐	シルト	密 ややハード
土壙 36 ア	10YR3/3 暗褐	シルト ハードロームブロック 1 ~ 2%含有	やや密 ややハード
溝 1 ア	10YR2/2 黒褐	シルト Ko-d 1%、B-Tm 1%含有、草根少量含む	やや粗 ややソフト
溝 1 イ	10YR2/2 黒褐	シルト B-Tm 2 ~ 3%含有	やや密 ややソフト
溝 1 ウ	10YR3/3 暗褐	シルト B-Tm 1%、Ko-d 微量	やや密 ややソフト
溝 1 エ	10YR3/4 暗褐	シルト Ko-d 1%含有	密 ややソフト
溝 1 オ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
溝 1 カ	10YR3/3 暗褐	シルト	密 ハード
溝 2 ア	10YR2/1 黒	シルト B-Tm 1 ~ 2%含有、Ko-d 微量	やや粗 ややソフト
溝 2 イ	10YR2/2 黒褐	シルト	粗 ソフト
溝 2 ウ	10YR2/1 黒	シルト Ko-d 2%	粗 ソフト
溝 2 エ	10YR4/4 褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝 2 オ	10YR4/4 褐	シルト Ko-d 1%	やや粗 ややソフト
溝 2 カ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝 2 キ	10YR3/3 暗褐	シルト	やや密 ややハード
溝 2 ク	10YR3/3 暗褐	シルト 粘質有り	密 ハード
溝 2 ケ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝 3 ア	10YR2/1 黒	シルト Ko-d 1 ~ 2%含有	やや密 ややソフト
溝 3 イ	10YR2/3 黒褐	シルト B-Tm 微量	やや粗 ややソフト
溝 3 ウ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝 3 エ	10YR3/4 暗褐	シルト 粘質有り	やや密 ややハード
溝 4 ア	10YR2/2 黒褐	シルト 細砂微量含む	粗 ソフト
溝 4 イ	10YR2/1 黒	シルト Ko-d 1 ~ 2%含有	粗 ソフト
溝 4 ウ	10YR2/2 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝 4 エ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝 4 オ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
溝 4 カ	10YR3/4 暗褐	シルト	やや密 ややハード
溝 5 ア	10YR2/2 黒褐	シルト Ko-d 7%含有	やや粗 ややソフト
溝 5 イ	10YR2/1 黒	シルト	粗 ソフト
溝 5 ウ	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 2%含有	粗 ソフト
溝 5 エ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝 5 オ	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 7%含有	粗 ソフト
溝 5 カ	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 3%含有	やや粗 ややソフト

表17 調査区土層観察表

溝5キ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
溝6ア	10YR1.7/1 黒	シルト Ko-d 2～3%含有、B-Tm 微量	やや粗 ややソフト
溝6イ	10YR2/2 黒褐	シルト	粗 ソフト
溝6ウ	10YR2/2 黒褐	砂：シルト 7：3 B-Tm 2～3%含有	やや粗 ややソフト
溝6エ	10YR2/1 黒	シルト B-Tm 1～2%含有	やや密 ややソフト
溝6オ	10YR3/3 暗褐	シルト	やや密 ややハード
溝6カ	10YR3/4 暗褐	シルト	やや密 ややハード
溝23ア	主体 10YR2/1 黒：10YR2/2 黒褐	シルト 9：1 微量の細砂有り	やや粗 ややソフト
溝23イ	10YR2/3 黒褐	シルト	粗 ソフト
溝23ウ	10YR3/4 暗褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝23エ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
溝23オ	10YR3/4 暗褐	シルト	密 ハード

ワシリ遺跡 第1調査区 2E4～2E2 東西南壁セクション (SPC～SPC') 第16図

I	10YR2/2 黒褐	シルト 草根多し	粗 ソフト
II	10YR2/2 黒褐	シルト Ko-d 3%含有	やや粗 ややソフト
III-1	10YR2/2 黒褐	シルト 上面に Ko-d 1～2%、焼土粒 1%含有、C 微量	粗 ソフト
III-2	10YR3/2 黒褐	シルト B-Tm 微量	やや密 ややソフト
IV	10YR3/3 暗褐	シルト やや粘性有り	やや密 ややハード
V	10YR4/3 にぶい黄褐	6cm～12cm 大の礫多量に含有	やや密 ややハード
VI	10YR5/6 黄褐	6cm～12cm 大の礫多量に含有	密 ハード
土壌 37ア	10YR2/2 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
土壌 37イ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 37ウ	10YR3/3 暗褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 37エ	10YR2/3 黒褐	シルト 1～2% C 微量 10YR3/3 暗褐砂 層上部に、比較的密に入る	やや密 ややソフト
土壌 37オ	10YR3/2 黒褐	シルト 10YR4/3 にぶい黄褐 ソフトロームブロック 5%有り	やや密 ややソフト

ワシリ遺跡 第1調査区 3E1～3E3 東西北壁セクション (SPD～SPD') 第16図

II	10YR2/2 黒褐	シルト 草根多し	粗 ソフト
III-1	10YR3/2 黒褐	シルト Ko-d 1%、B-Tm 2～3%含有 C 微量	やや密 ややソフト
III-2	10YR3/4 暗褐～7.5YR3/1 黒褐	シルト C 微量	やや密 ややソフト
IV	10YR3/3 暗褐	シルト	
V	10YR3/4 暗褐	ソフトローム	
VI	10YR4/6 褐	ハードローム	
土壌 2ア	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 1%含有	やや密 ややソフト
土壌 2イ	10YR3/3 暗褐	シルト B-Tm 2～3%含有	やや密 ややソフト
土壌 2ウ	10YR3/3 暗褐	シルト Ko-d 1%含有	やや密 ややハード
土壌 2エ	10YR3/4 暗褐	シルト ハードブロック含有	密 ややハード
土壌 2オ	10YR3/4 暗褐	シルト	密 ハード
土壌 3ア	10YR4/2 灰黄褐	シルト III-1 に近似する	粗 ソフト
土壌 3イ	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト ソフトロームブロック 5%含有	粗 ソフト
溝 24ア	10YR2/1 黒+10YR2/2 黒褐	シルト B-Tm 3～5%含有	やや密 ソフト
溝 24イ	10YR3/3 暗褐	シルト B-Tm 3%含有	やや密 ソフト

ワシリ遺跡 第1調査区 2E2～2E4 東西北壁セクション (SPE～SPE') 第16図

III-1	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR2/1 黒シルト 5%含有 C 微量	やや密 ややソフト
III-2	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
IV	10YR3/4 暗褐	シルト	密 ハード
V	10YR4/6 褐	シルト	密 ハード
VI	10YR4/6 褐	5～10cm の礫混じり	
土壌 6ア	10YR2/2 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
土壌 6イ	10YR2/2 黒褐	シルト アよりやや暗い	やや密 ややソフト
土壌 6ウ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 6エ	10YR3/3 暗褐	シルト	密 ややハード
土壌 6オ	10YR3/4 暗褐	シルト	密 ハード

ワシリ遺跡 第1調査区 2E4～2E2 東西南壁セクション (SPF～SPF') 第16図

III-1	10YR2/2 黒褐	シルト C 微量	やや密 ソフト
III-2	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 5%含有	やや密 ややハード
IV	10YR3/4 暗褐 (やや暗め)	シルト 10YR4/6 褐 粘土粒状に微量混入	密 ややハード
V	10YR3/4 暗褐	ソフトローム 5～10cm の礫混じり	密 ややハード
VI	10YR4/6 褐	ハードローム 5～10cm の礫混じり	密 ハード
土壌 7ア	10YR2/3 黒褐	シルト 褐色シルトブロックを1%以上含む	やや密 ややハード
土壌 6ア	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR3/4 暗褐シルト粒状に、微量混入	やや密 ややハード
土壌 6イ	10YR3/4 暗褐	シルト	密 ややハード
土壌 6ウ	10YR3/4 暗褐	シルト 5cm の礫混入	密 ハード
土壌 9ア	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR2/1 黒シルト 微量混入	やや密 ややソフト

表18 調査区土層観察表

土壌 9イ	10YR2/2 黒褐	シルト	密 ややハード
土壌 9ウ	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR2/1 黒シルト 1～3%混入	やや密 ややソフト
土壌 9エ	10YR3/4 暗褐	シルト	密 ややハード
土壌 9オ	10YR3/4 暗褐	ソフトローム 黄褐色粘土 2cm 大を含む	密 ややハード
土壌 9カ	10YR2/3 黒褐 (やや明るめ)	シルト	密 ややハード
土壌 9キ	10YR3/4 暗褐	ソフトローム 5～10cm の礫混じり	密 ハード

ワシリ遺跡 第1調査区 3E2 堅穴1 南北西壁セクション (SPA～SPA') 第17図

ア	10YR3/3 暗褐	シルト	やや粗 ややソフト
イ	10YR4/3 にぶい黄褐～10YR4/4 褐	シルト	やや密 ややハード
ウ	10YR4/4 褐	シルト やや強い エより黄色が強い	やや密 ややハード
エ	10YR4/4 褐	V層ベースで、粘性がなくサラサラ	密 ややハード
オ	10YR3/4 暗褐	シルト	やや密 ややハード
カ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト 10YR4/6 褐小礫が微量混入	
キ	10YR4/6 褐 (よりやや暗い)	シルト クとカの間色	やや密 ややハード
ク	10YR10YR4/6 褐 (よりやや暗い)	エよりややソフトロームに近い粘性ない	密 ややハード
ケ	10YR3/4 暗褐 (よりやや明るい)	シルト 粘性なし サラサラ	やや密 ややハード
コ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	やや密 ややハード
サ	10YR3/4 暗褐	シよりやや明るめで、セより暗い	やや密 ややハード
シ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト 10YR4/6 褐小礫が微量混入	やや密 ややハード
ス	10YR3/4 暗褐	シルト	密 ややハード
セ	10YR4/6 褐	シルト 10YR4/6 褐小礫が微量混入	密 ややハード
ソ	10YR4/6 褐 (よりやや暗い)	シルト: 10YR4/6 褐小礫 7:3	密 ハード
VI	10YR4/6 褐	ハードローム 砂が、ブロック状に固まったものが 3～5%混入	極密 極ハード

ワシリ遺跡 第1調査区 3E2～3E1 土壌1 東西南壁セクション (SPA～SPA') 第17図

ア	10YR2/2 黒褐	シルト 10YR2/3 暗褐シルト粒状 3mm 大 5%混入	密 ややソフト
イ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
ウ	10YR2/2 黒褐	シルト 砂粒と 1mm 大の小礫を 10%混入	やや密 ややソフト
エ	10YR2/2 黒褐	シルト Ko-d 1～3%含有	やや密 ややソフト
オ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
カ	10YR2/2 黒褐	シルト	やや粗 ソフト
キ	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 40%含有	やや密 ややソフト
ク	10YR2/2 黒褐 (よりやや暗い)	シルト Ko-d 1～3%含有	
ケ	10YR2/2 黒褐 (よりやや暗い)	シルト	やや密 ややソフト
コ	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 2% 10YR2/2 黒褐シルト 粒状に、1～2mm 大 1～3%混入	やや密 ややソフト

ワシリ遺跡 第1調査区 3E1 東西北壁セクション (SPB～SPB') 第17図

Ⅲ-1	10YR3/2 黒褐	シルト 草根多量	やや密 ややソフト
Ⅲ-2	10YR3/3 暗褐	シルト	やや密 ややソフト
Ⅳ	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 4ア	10YR3/2 黒褐	シルト 草根多量	やや密 ややソフト
土壌 4イ	10YR3/3 暗褐	シルト 粘土ブロック 1～2%含有	やや密 ややソフト
土壌 4ウ	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 29ア	10YR3/3 暗褐	シルト	やや密 ややソフト
土壌 29イ	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 29ウ	10YR4/6 褐	シルト ソフトローム	
土壌 29エ	10YR4/6 褐	シルト ハードローム 10～15cm の礫混じり	
土壌 29オ	10YR4/6 褐	シルト	やや密 ややハード
溝 22ア	10YR3/2 黒褐	シルト 草根多量	やや密 ややソフト
溝 22イ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
溝 22ウ	10YR3/4 暗褐	シルト	
溝 22エ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
溝 22オ	10YR2/3 黒褐: 10YR3/4 暗褐	シルト 70:30	密 ハード

ワシリ遺跡 第2調査区 2G2～2G1 南北東壁セクション (SPA～SPA') 第18図

I	10YR2/2 黒褐	シルト 草根多量	やや粗 ソフト
II	10YR2/2 黒褐 (よりやや暗い)	シルト Ko-d 10～20%混入	やや粗 ややソフト
Ⅲ-1	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
Ⅲ-1 ①	10YR2/3 黒褐 (よりやや暗い)	シルト 砂礫微量混入	やや密 ややソフト
Ⅲ-2	10YR2/3 黒褐 (よりやや明るい)	シルト B-Tm が、土壌と一緒に、攪乱されている	やや密 ややソフト
Ⅲ-2 ②	10YR2/3 黒褐 (よりやや明るい)	シルト	やや密 Ⅲ-2よりややソフト
Ⅳ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	密 ややハード
V	10YR3/3 暗褐～ 10YR4/3 にぶい黄褐	ソフトローム 弱粘性 ハードロームブロック 3～5%含有 3～10mm 大の礫混じる	密 ハード
V'	10YR3/3 暗褐～ 10YR4/3 にぶい黄褐	Vよりも、ハードロームブロックが多い	密 ハード

表19 調査区土層観察表

VI	10YR5/4 にぶい黄褐～ 10YR5/6 黄褐	強粘性 3～10cm 大の礫混じり ハードローム	極密 極ハード
a	10YR3/3 暗褐	シルト 中～上部に砂粒多いⅢ-2 ベース	やや密 ややソフト
b	10YR2/2 黒褐	シルト 砂粒微量 Ⅲ-1 をベース	やや密 ややソフト
竪穴 3ア	10YR1.7/1 黒	シルト 10YR2/3 黒褐シルト粒状に3%混入	やや粗 ややソフト
竪穴 3イ	10YR1.7/1 黒	シルト 10YR2/3 黒褐シルト、B-Tm が共に微量混入	やや粗 ややソフト
竪穴 3ウ	10YR2/3 黒褐	砂粒：シルト 4：6	やや密 ややソフト
竪穴 3エ	10YR2/3 黒褐	シルト 砂粒 20% 10YR1.7/1 黒シルト上部に、5%混入	やや粗 ややソフト
竪穴 3オ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
竪穴 3カ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	密 ややハード
竪穴 3キ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	密 カよりややハード
竪穴 3ク	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 オよりややハード
竪穴 3ケ	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR1.7/1 黒シルトが、上部に微量混入	やや密 ややソフト
竪穴 3コ	10YR3/4 暗褐	シルト 10YR4/6 褐 ソフトローム 2～3%混入	密 ややハード
竪穴 3サ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	やや密 ややハード
溝 7ア	10YR1.7/1 黒	シルト 下部に、10YR2/3 黒褐シルトが微量混入	やや粗 ややソフト
溝 7イ	10YR1.7/1 黒：10YR2/3 黒褐	シルト 5：5	やや粗 ややソフト
溝 7ウ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	やや密 ややハード
溝 7エ	10YR2/3 黒褐：10YR1.7/1 黒	シルト 8：2	やや粗 ややソフト
溝 8ア	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)		
溝 9ア	10YR1.7/1 黒	シルト 10YR3/3 暗褐粘土粒微量混入	やや粗 ややソフト
溝 9イ	10YR1.7/1 黒：10YR2/3 黒褐	シルト 7：3	やや粗 ややソフト
溝 9ウ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
溝 9エ	10YR2/2 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝 9オ	10YR2/3 黒褐	シルト	ウより密 ややソフト
溝 9カ	10YR2/3 黒褐	シルト	密 ややハード
溝 9キ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト ソフトロームブロック 1%	密 ハード
溝 10ア	10YR1.7/1 黒	シルト Ko-d 1～3%混入	やや粗 ややソフト
溝 10イ	10YR2/2 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
溝 10ウ	10YR1.7/1 黒	シルト Ko-d が、粒状に微量混入	やや粗 ややソフト
溝 10エ	10YR1.7/1 黒	シルト 10YR3/4 暗褐シルト粒状に、微量混入	やや粗 ややソフト
溝 10オ	10YR2/3 黒褐	シルト 砂礫微量混入	やや密 ややソフト
溝 10カ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
溝 10キ	10YR3/4 暗褐	シルト ハードロームブロック 1～2%	やや密 ややハード
溝 10ク	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	やや密 ややハード
溝 13ア	10YR1.7/1 黒	シルト 上部に、Ko-d 3～5%混入 10YR2/3 黒褐シルト粒状に微量混入	やや粗 ややソフト
溝 13イ	10YR1.7/1 黒	シルト Ko-d 微量混入	やや粗 ややソフト
溝 13ウ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
溝 13エ	10YR2/3 黒褐 (よりやや明るい)	シルト	やや密 ややソフト
溝 13オ	10YR2/3 黒褐	シルト	エより密 ややハード
溝 13カ	10YR2/3 黒褐	シルト 10YR1.7/1 黒シルトが、上部に微量混入	ウより密 ややソフト
溝 21ア	10YR2/2 黒褐：10YR1.7/1 黒	シルト 6：4	やや粗 ややソフト
溝 21イ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
溝 21ウ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	密 ややハード
溝 21エ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	密 ウよりややソフト
溝 21オ	10YR3/4 暗褐 (よりやや暗い)	シルト	密 ややハード

ワシリ遺跡 第2調査区 2G2 溝9 東西北壁セクション (SPB～SPB) 第18図

ア	10YR2/2 黒褐：10YR2/3 黒褐	シルト 20：80	やや密 ややソフト
イ	10YR2/1 黒	シルト C 微量	やや密 ソフト
ウ	10YR3/4 暗褐	シルト	やや密 ややハード
エ	10YR3/3 暗褐	シルト	やや密 ややハード
オ	10YR2/2 黒褐	シルト ロームブロック 1～2%含有	やや密 ややソフト
カ	10YR3/3 暗褐	シルト	やや密 ややハード
キ	10YR2/1 黒：10YR2/3 黒褐	シルト 80：20	やや密 ややソフト
ク	10YR3/3 暗褐	シルト	密 ややハード
ケ	10YR2/2 黒褐：10YR3/3 暗褐	シルト：砂 60：40	やや密 ソフト
コ	10YR2/3 黒褐：10YR2/2 黒褐	シルト：砂 80：20	やや密 ややソフト
サ	10YR3/2 黒褐	シルト ソフトローム 2～3%	やや密 ややハード
シ	10YR3/3 暗褐	シルト ソフトローム 2%	やや密 ややハード
ス	10YR3/2 黒褐	シルト ソフトローム 1%	やや密 ややハード
セ	19YR3/4 暗褐	シルト	やや密 ややハード

ワシリ遺跡 第2調査区 2G2 焼土炭化物範囲 1 南北東壁セクション (SPA～SPA) 第18図

Ⅲ-2	10YR2/2 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
ア	10YR2/3 黒褐	シルト 黒色炭化物ブロック (ハード) 1cm大含有 焼土 1～2%含有	やや密 ややソフト

表20 調査区土層観察表

イ	10YR3/3 暗褐	シルト 焼土粒 2～3%含有 C 微量 5YR4/6 赤褐焼土ブロック 1cm 大含有	やや密 ややソフト
ウ	10YR2/3 黒褐	シルト 焼土粒 1～2%含有	密 ややソフト
エ	10YR2/2 黒褐	シルト 5YR4/4 にぶい赤褐焼土ブロック 50%含有	やや密 ややハード
オ	10YR2/2 黒褐	シルト 5YR4/3 にぶい赤褐 焼土ブロック含有	密 ややハード
カ	7.5YR3/2 黒褐	黒色炭化物ブロック (ハード) 1cm 大焼土粒 1%含有	密 ややハード
キ	7.5YR3/3 暗褐	5YR4/8 赤褐 1cm 大 5YR4/4 にぶい赤褐 2cm 大の、焼土ブロック含有	密 ハード
ク	10YR3/2 黒褐	シルト 5YR3/2 暗赤褐 0.5cm 大の焼土ブロック含有	やや密 ややソフト
ケ	10YR2/3 黒褐	シルト C、焼土粒微量	やや密 ややソフト
コ	7.5YR3/2 黒褐	シルト 焼土粒 2～3%含有	やや密 ややソフト
サ	10YR4/3 にぶい黄褐	焼土粒 微量	やや密 ややハード

ワシリ遺跡 第3調査区 2D2 土壌 13 南北東壁セクション (SPA～SPA') 第18図

Ⅲ-2	10YR2/3 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
Ⅲ-2-1	10YR2/2 黒褐	シルト Ⅲ-2 よりやや色調濃く、C 微量含む	やや粗 ややソフト
Ⅳ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
Ⅴ	10YR3/3 暗褐	シルト 粘土質有り	密 ハード
Ⅵ	10YR4/4 褐	ハードローム	密 ハード
土壌 13 ア	10YR2/2 黒褐	シルト 草根少量	粗 ソフト
土壌 13 イ	10YR2/3 黒褐	シルト 草根少量	粗 ソフト
土壌 13 ウ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややソフト
土壌 13 エ	10YR2/3 黒褐	シルト 木根有り	粗 ソフト
土壌 13 オ	10YR2/2 黒褐	シルト 草根少量	粗 ソフト
土壌 13 カ	10YR2/3 黒褐	シルト	粗 ソフト
土壌 13 キ	10YR2/2 黒褐	シルト	粗 ソフト
土壌 13 ク	10YR2/3 黒褐	シルト	粗 ソフト
土壌 13 ケ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
土壌 13 コ	10YR2/3 黒褐	シルト	カより やや粗 ややソフト
土壌 13 サ	10YR3/4 暗褐	シルト	やや粗 ややソフト
土壌 13 シ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
土壌 13 ス	10YR3/3 暗褐	シルト	やや粗 ややソフト
土壌 13 セ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 13 ソ	10YR3/2 黒褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 13 タ	10YR3/3 暗褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 13 チ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 13 ツ	10YR2/2 黒褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 13 テ	10YR3/3 暗褐	シルト 粘土質有り	密 ハード
土壌 13 ト	10YR3/3 暗褐	シルト	密 ハード
土壌 13 ナ	10YR3/4 暗褐	粘土質有り	密 ハード
土壌 13 ニ	10YR3/3 暗褐	粘土質有り	密 ハード
土壌 13 ノ	10YR3/4 暗褐	粘土質有り	密 ハード
土壌 13 ハ	10YR4/4 褐	粘土質有り ロームブロックを含む	密 ややハード

ワシリ遺跡 第3調査区 2D2 土壌 14 南北西壁セクション (SPA～SPA') 第18図

I	10YR2/2 黒褐	シルト 草、竹根有り	粗 ソフト
II	10YR2/1 黒	シルト 草根有り	粗 ソフト
Ⅲ-1	10YR1.7/1 黒	シルト Ko-d 3%含有	やや粗 ややソフト
Ⅲ-2	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
Ⅳ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
Ⅴ	10YR3/3 暗褐	シルト 粘土質有り	密 ハード
Ⅵ	10YR4/4 褐	ハードローム	密 ハード
土壌 14 ア	10YR2/2 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
土壌 14 イ	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 1%、C2%含有	やや粗 ややソフト
土壌 14 ウ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや粗 ややソフト
土壌 14 エ	10YR3/3 暗褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 14 オ	10YR2/3 黒褐	シルト	やや密 ややハード
土壌 14 カ	10YR3/3 暗褐	粘土質有り	やや密 ややハード

ワシリ遺跡 第4調査区 2G2 東西南壁セクション (SPA～SPA') 第19図

I	10YR2/1 黒	シルト 草根多量 粘質土 70%含有 Ⅲ-1 に近い色合い	やや密 ややソフト
I-1	10YR3/3 暗褐	シルト 基盤礫混入	やや粗 ややソフト
Ⅲ-2	10YR2/3 黒褐	シルト Ko-d 1%含有	やや密 ややソフト
Ⅳ	10YR3/4 暗褐	シルト Ko-d 2～3%含有	やや密 ややソフト
Ⅴ	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト 3～5cm 大の礫多量に含有	密 ややハード
Ⅵ	10YR5/6 黄褐	ハードローム	密 ハード



表21 調査区土層観察表

ワシリ遺跡 第4調査区 4G2 東西北壁セクション (SPA ~ SPA) 第19図

I	10YR2/1 黒	シルト (攪乱層)	やや密 ややハード
I-1	10YR4/2 灰黄褐 ~ 10YR3/2 黒褐	シルト 粘土ブロック多量含有	やや粗 ソフト
III-2	10YR2/2 黒褐 : 10YR2/3 黒褐	シルト 80 : 20	密 ハード
IV	10YR3/3 暗褐	シルト	密 ハード
V	10YR4/4 褐	シルト ソフトローム 礫多量含有	密 ハード
VI	10YR4/6 褐	シルト	密 ハード

ワシリ遺跡 第5調査区 2I2 南北東壁セクション (SPA ~ SPA) 第19図

I	10YR2/1 黒	砂 : シルト 4 : 6 砂、小石中量 草根多量	やや粗 ソフト
I-2	10YR3/3 暗褐	砂 : シルト 7 : 3 砂、小石多量 盛土 ? ロームブロック 20% 含有	やや粗 ソフト
II	10YR2/1 黒	シルト Ko-d ブロック状に 20% 含有	やや密 ややソフト
III-1	10YR2/1 黒	細砂 : シルト 3 : 7 Ko-d をブロック状に少量、 砂粒を、中量含有	やや密 ややハード
III-2	10YR3/2 黒褐	シルト Ko-d を少ブロック状に微量、 黒色土を、斑状に少量含む	やや密 ややハード
IV	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト 黒色土を斑状に 10% 一部木根状に、Ko-d を含む	密 ハード
V	10YR4/3 にぶい黄褐	粘土 黒色土を斑状に 5%、ロームブロック 5% 含有	密 ハード
VI	10YR5/4 にぶい黄褐	粘土 層下部に礫を多く含む	密 ハード
土壌 30 ア	10YR2/2 黒褐	シルト B-Tm 火山灰を斑状に 10% 含む	やや密 ややハード
土壌 30 イ	10YR3/3 暗褐	シルト 10YR3/4 暗褐を粒状に 3% 含む	やや粗 ややソフト
土壌 30 ウ	10YR3/4 暗褐	シルト (粘土質) 粘性が有る	密 ハード
土壌 30 エ	10YR4/3 にぶい黄褐	細砂 : シルト 1 : 9 ローム粒 1% 含む	密 ハード
土壌 31 ア	10YR3/3 暗褐	シルト 7.5YR4/6 褐の火山灰 ? ブロック状に 10%、 黒色土とロームブロック 5% 含む	やや密 ややソフト
土壌 31 イ	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト 黒褐色土を斑状に 5% 含む	密 ややハード
土壌 31 ウ	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト イよりやや明るく、粘性が有る	密 ハード
土壌 31 エ	10YR4/3 にぶい黄褐	シルト イより粘性が強く、やや粗	やや粗 ややハード
溝 16 ア	10YR2/1 黒	細砂 : シルト 4 : 6 10YR4/3 にぶい黄褐を 2mm のブロック状に 5% 含む	やや密 ややハード
溝 16 イ	10YR3/3 暗褐	シルト 火山灰をブロック状に 40% 含む	密 ややハード
溝 16 ウ	10YR3/3 暗褐	シルト イに近い	密 ややハード
溝 16 エ	7.5YR4/3 褐	シルト 黒色土をブロック状に 5% 含む	やや粗 ややソフト
溝 18 ア	10YR2/1 黒	細砂 : シルト 1 : 9 Ko-d 火山灰ブロック状に 5% 草根、細砂少量	やや密 ややハード
溝 18 イ	10YR3/2 黒褐	シルト 黒褐色土をシミ状に 25% 含む	やや粗 ハード
溝 18 ウ	10YR4/3 にぶい黄褐	細砂 : シルト 1 : 9 (粘土質) IVよりやや暗く、 暗褐色土 2% 含む	やや粗 ハード
溝 20 ア	10YR2/1 黒	細砂 : シルト 4 : 6 Ko-d 火山灰をブロック状に、3% 含む	やや密 ややソフト
溝 20 イ	10YR2/2 黒褐	シルト Ko-d 火山灰をブロック状に 5% 含む	やや密 ややソフト
溝 20 ウ	10YR2/1 黒	シルト Ko-d 火山灰を 5% 含む 10YR3/2 黒褐色土粒状に 2% 含む	やや密 ややソフト
溝 20 エ	10YR2/1 黒	シルト ウとほぼ同じ	やや粗 ややソフト
溝 20 オ	10YR3/3 暗褐	シルト 暗褐色土を粒状に 5% 含む	やや密 ややソフト

ワシリ遺跡 第5調査区 2I2 土壌 17 焼土炭化物範囲 1 南北西壁セクション (SPA ~ SPA) 第19図

ア	10YR3/4 暗褐	シルト (粘土質) 焼土塊 1%、C 7%	密 ハード
イ	10YR3/4 暗褐	シルト (粘土質) 焼土塊 1%、C 3% アより若干明るい	密 ハード

表22 出土遺物観察表 (石器)

図版番号	器種	地区	層位	長さ (cm)	幅 (cm)	厚さ (cm)	重さ (g)	石質	形状	備考
第 20 図 2	石鏃	2A	竪穴 7	4.9	1.4	0.6	2.8	硬質頁岩	柳葉	
第 20 図 1	石鏃	3C	竪穴 2	2.85	1.4	0.65	2.4	硬質頁岩	有茎	
—	石鏃	13F	土壌 36	3.7	1.4	0.7	2.2	硬質頁岩	有茎	
—	石鏃	14F	攪乱	5.05	1.5	0.9	4.9	硬質頁岩	柳葉	
第 18 図 1	石鏃	2G-2	溝 8	3.2	1.3	0.6	2.0	硬質頁岩	有茎	フローティング
第 16 図 1	石鏃	3E-1	溝 4	3.9	1.3	0.6	2.6	硬質頁岩	有茎	フローティング
第 17 図 1	石鏃	3E-2	竪穴 1	3.55	1.55	0.55	1.9	硬質頁岩	有茎	
第 17 図 2	石鏃	3E-2	竪穴 2	3.8	1.6	0.7	2.7	硬質頁岩	柳葉	

## II 調査

### 第2調査区 (第18図、PL8)

6.7m × 4 m の調査区。中央部にトレンチを設定し土層堆積の観察を行った。溝7本、土壙1基、竪穴1基が検出された。SPA～A'によると、溝は全てⅢ-1層からの掘り込みであり、一部重複もある。Ⅱ層下部にはKo-dが含有される。確認面はⅢ-1層上面であり、溝のラインにほぼ沿ってKo-dが斑点状に分布している状態であった。尚溝7よりも古い溝11溝21や溝9よりも古い溝12にはこのような状態は無い。それぞれの覆土はⅢ-1層よりも暗い土色のシルトが入る。溝の規模は上部開口部幅60cm、底部幅約40cm、深さ25～30cm程である。また溝間はほぼ平坦となっており、比較的多く炭化物が上面に混じる。竪穴3は溝10、13に切られている。浅い柱穴も確認されている。また調査区南側では焼土炭化物範囲が確認されている。同様な溝が第1調査区でも確認されており、溝は第1調査区付近まで延びていた。しかし調査区が狭小なため、溝の規模等については不明である。

#### 第2調査区竪穴1、2 (第16、17図)

調査区内ではⅢ-1層掘り込みの溝、Ⅲ-2層掘り込みの土壙の他、竪穴も2基検出されている。竪穴1はⅢ-2を掘り込み面とする。覆土には大小の礫が多量に入り、この竪穴を廃棄する際に礫が多量に投げ込まれたようである。3.4m × 4.5mの不正円形を呈する。壁面立ち上がりは30cm程である。覆土内部から石鏃が出土している。竪穴2は溝4、土壙5に切られている。南東側調査区外へ延びているが、規模等は竪穴1より若干大きいと考えられる。竪穴1と同様覆土内から石鏃が1点出土している。

#### 第4調査区 (第15図、19図)

第2調査区と同様、溝等の遺構検出を目的として調査を行った。その結果Ⅲ-2層中間部まで削平されており、遺構等は確認できなかった。

(斉藤邦典)

#### 第1調査区 (第15図、第16図、第17図、PL8)

調査区のほぼ中央に位置し、南東から北西方向になだらかに傾斜する。トレンチによる土層観察によるとKo-dを含む薄く堆積するⅡ層の下、Ⅲ-1層を掘り込み面とする溝列、Ⅲ-2層を掘り込み面とする土壙がある。Ⅳ層、Ⅴ層は拳大から30cm大の礫を多く含む。本調査区からは竪穴2基、土壙19基、

溝8本を確認した。表土、Ⅱ層を除去した時点で、Ⅲ-1層上面に溝列を検出した。溝列は等高線に対し直行するものが多く、幅50～60cm 深さ30～40cm、間隔40～70cm、断面はU字形や不整U字型となる。底面からは付属する柱穴ピットは確認出来なかった。周辺からはⅢ-2層掘り込みの土壙が溝に切られる形で多く検出された。第16図1は溝4の覆土内出土の石鏃である。

#### 第3調査区 (第15図、第18図、PL8)

舌状台地の西側斜面の周縁部に設定した。本調査区からは土壙3基が検出されている。土壙13は表土を除去後、Ⅲ-2層面を精査中に確認した。平面形はやや楕円形を呈し壁面は緩やかに立ち上がり、断面は碗状になる。長軸170cm、短軸154cm、深さは確認面から21cmと大型である。柱穴は確認されず覆土、底面からも遺物は出土しなかった。土壙14は調査区南西角に黒褐色土のシミを確認、トレンチを入れ土層で断面を確認した。平面は確認部分から楕円形になると推測され、断面形は碗状になると考えられる。土壙15は土壙13を調査中に壁面に黒褐色の覆土を確認した。平面形は残存部から円形になると推測され、断面形は碗状になる。14、15共に遺物は出土していない。

#### 第5調査区 (第15図、第19図、PL8)

国道沿いで最も南西側の位置にあたる。トレンチによる土層観察によると、調査区東側の一部をⅢ-1層上面まで攪乱されている。土壙4基と溝7本を確認した。溝はⅢ-1層が掘り込み面となる。幅35～40cm、深さ15～25cm、間隔は25～55cm、断面形は皿状、不整碗状になる。長軸は北西-南東方向となり、等高線に対し直行する。溝17と溝16、20は長軸方向で切り合っている。溝19の底面からは杭痕と思われる穴が2ヶ所検出された。Ⅲ-2層面掘り込みの土壙17、18は溝に切られており、時期的には溝より古いと考えられる。土壙17の底面からは炭化物、焼土粒を含む暗褐色土の掘り込みが検出された。この地点から遺物は出土していない。

(高橋 昇)

### III 遺構と遺物

#### 1. 土器の分類

ワシリ遺跡を3ヵ年に亘って調査を行ってきたが、一昨年、昨年度に約5,000点の土器が出土した。そのうち図上復元出来たものを中心に土層、遺構との関係、形状、文様、胎土等を中心として可能な限り分類を試みた。基本的に擦文遺構、遺物層はKo-dを含むⅡ層下のⅢ-1、Ⅲ-2層からの検出である。I群(第22図1、2、4~11、20、附図、PL9-1、2、4~11、PL10-20、折込表)

出土層位はⅢ-2層、竪穴3、4、10、12、14覆土や床面等である。

大型甕(第22図1、2、4、20)

形態は口径が大きく、胴部のふくらみがやや強い。口唇部は尖り、頸部は括れが強く「て」の字状に口縁部は大きく外反する。外反角度はI~Ⅳ群中最も大きい。全ての土器に黒色処理が施される。

口唇部は嘴状となる。これは口縁最上部外側口唇近くにやや細めの沈線が施されるため、口唇部は尖り、その内側には幅2mm~3mm程の肥厚帯を持つため、口縁最上部がやや内屈する形となることからである。2は口唇部にも沈線が入る。口縁部文様体は横走沈線が口縁上部に3~5条入る。さらに口縁下部にも入り刺突文は2条目と3条目の間、さらに4条目にもその上から刺突文が入る。

20も横走沈線が上下に分離されるが、その間に鋸歯文が入る。いずれも3~4本を1単位として刻線の重複関係から見ると左から右に順次施文されていくようである。

高坏(第22図6~11、付図、PL9-6~11)

形態はいずれも比較的低平であり、緩やかに内湾しながら、口縁部文様帯最下部から内屈する。段差はつかない。口唇部は6は内削ぎ気味となる。

7は2条目の深めの横走沈線直下から内屈し、やや段を持つ形でそれより上は急に器厚は薄くなる。

8は底部外周部は外へ若干折り返し気味となる。底部は上げ底気味。底部内部見込み部分は中央部に凹部を作らない。

Ⅱ群(第22図13~19、付図、PL9-13~15、PL10-16~19、折込表)

出土層位はⅢ-2、竪穴3覆土、竪穴12床等である。

中、小型甕第22図13~18、付図、PL13~18)

13~18の小型甕は口径と胴径の差が小さく、頸部もあまり強く括れない。胴部膨らみは弱い。口縁部は外湾状に外反。外反度少ない。口縁部文様帯は横走沈線のみでいずれも上部に施文される。

14はやや深めの沈線であるが、15~18は極めて浅い。18は胎土は砂粒が少量含まれるが、焼成は極めて良く、薄手で硬質である。13も胎土は砂粒を含むが、薄手で、比較的焼成は良好である。内面に多量の煤が付着している。

坏(第22図19、付図、PL10-19)

内側はヨコナデ、ヨコハケであり、その上に波打つ雑な横走沈線1本有り。口縁部は折り返し口縁になっており、口唇部は肥厚しているが厚さにムラがあり、雑な作りである。

Ⅲ群(第22図21~26、付図、PL10-21~26、折込表)

出土層位は主にⅢ-1層である。

大型甕(第22図3、21~22、付図、PL9-3、PL10-21~22)

口径が大きく胴部が膨らむ。口縁部の外反はⅢ群よりも大きい。I群よりも外反度が小さい。口縁部が長く、全体に占める比率が高いようである。21、22は口唇先端部は尖るが、丸みを持つ。I群のように内屈して嘴状とならない。口縁先端部内側にはI群と同様幅3mm程の肥厚帯を持つ。口縁部文様体は横走沈線が上下に分離される。21はその間に鋸歯文が入る。I群の20と同様左から右へ施文されている。

小型甕(第22図23、付図、PL10-23)

形態的には大型甕の縮小版であるが、口縁下部から頸部にかけて大きく幅広の凹部分を作り出している。口唇部は丸みを持つ。Ⅱ群の小型甕と比べると、形態的には頸部の括れがやや大きい。胎土は多量に砂粒を含むが、比較的焼成は良好である。

高坏(第22図24~27、付図、PL10-24~27)

I群よりもやや深めであり、緩やかに内湾しながら口縁部文様帯最下部から内屈する。内屈度はI群に比しやや強い。胎土には砂粒が含有される。

26の胎土は砂粒というよりも砂礫粒が含有されている。26、27の底部内側見込み部分は大きく円形に凹部分を作り出している。いずれも煤が付着する。

Ⅳ群(第22図28~43、付図、PL10-28、PL11-29~39、PL12-40~43)

出土層位はⅢ-1、竪穴5上一括、竪穴4、6、9覆土や床面等である。

大型甕（第22図28～31、付図、PL10-28、PL11-29～31）

口径が大きく、胴部は中央部が最大径となり、球形となり、一気に底部へかけてすぼまっていく。全体的に寸詰まりである。口縁部の全体に占める比率がⅠ、Ⅱ、Ⅲ群に比し一層高くなる。口縁部は緩く内湾しながら外反する。胴部には斜め、タテハケメが施される。28、29、31は竪穴5上一括である。28は口縁最上部付近でやや内側に屈曲し、口唇はやや尖り気味になるが、嘴状にはならず、丸みを帯びる。胴部のハケメは一部にやや強めの部分もあるが、総じて通常範囲内のハケメであり、ケズりに近いハケメではない。29は口縁部文様は上部、下部の横走沈線の上に鋸歯文が入る。鋸歯文は3条1単位で上部は上部横走沈線3本目へぶつける。深めでやや細い明瞭な刻線である。左から右へ施文されている。全体にやや砂質であるが、焼成良い。内面黒色処理なし。30は水平の口唇部に幅1.8mm程の横走沈線が1条入る。従って口唇部はやや角張り、水平となる。口縁部文様帯は上下に2条の横走沈線、その間に2条1単位の鋸歯文が入る。しかし図上に見られる箇所のみ施文されているだけであり、周回しない。施文順は横走沈線→鋸歯文である。胎土には砂粒が含有される。内面黒色処理なし。31は口縁部は下部横走沈線直下からやや内屈する形となる。口縁部文様帯は上下の横走沈線の上に鋸歯文が入る。3条1単位で、30の鋸歯文と同様やや曲線的となる。施文順は横走沈線→鋸歯文となる。胎土は砂粒を多く含む。内面黒色処理なし。32は口縁部のみである。31と同様下部横走沈線直下から屈曲する形となる。口唇部には幅1～1.5程のやや浅い沈線が入る。口唇部はほぼ水平となる。全体に焼成は良好で砂粒は含有しない。内面黒色処理あり。

小型甕（第22図33、34、付図、PL11-33、34）

形態的には大型甕の縮小版である。33は口唇部は丸みを帯び、口縁部文様帯には横走沈線が3条入るが極めて浅く、ヨコハケメの凹帯のような感じである。頸部には胴部との境に若干の段差あり。胎土は砂粒を多量に含むが、焼成は良好である。34も基本的に33と同様に口縁部には浅い沈線、頸部は胴部との境に段差を持つ。胎土も砂粒を多量に含む。しかし、口縁上部付近の若干の肥厚化、内面黒色処理が

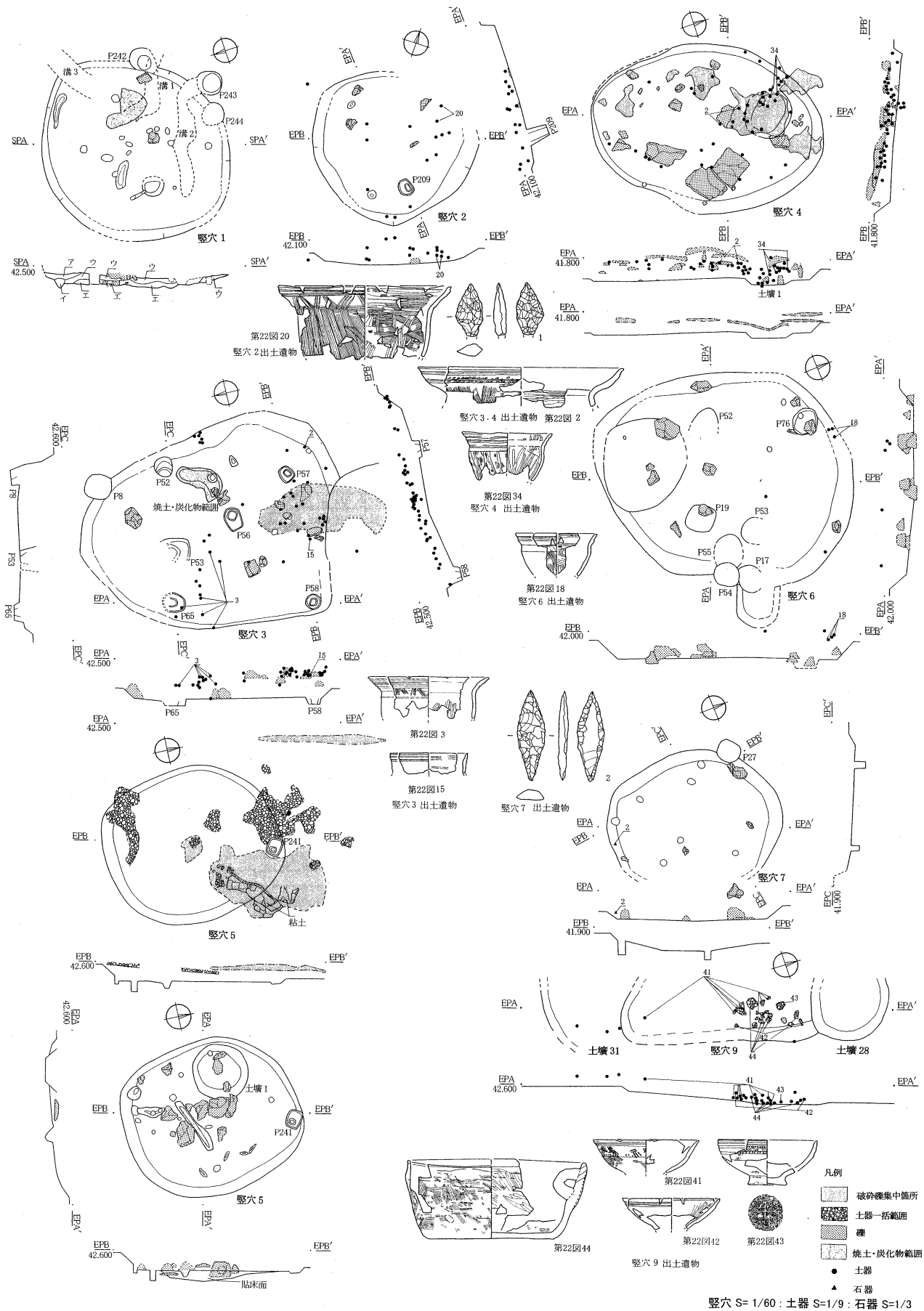
ある。

高坏（第22図35～43、付図、PL11-35～39、PL12-40～43）

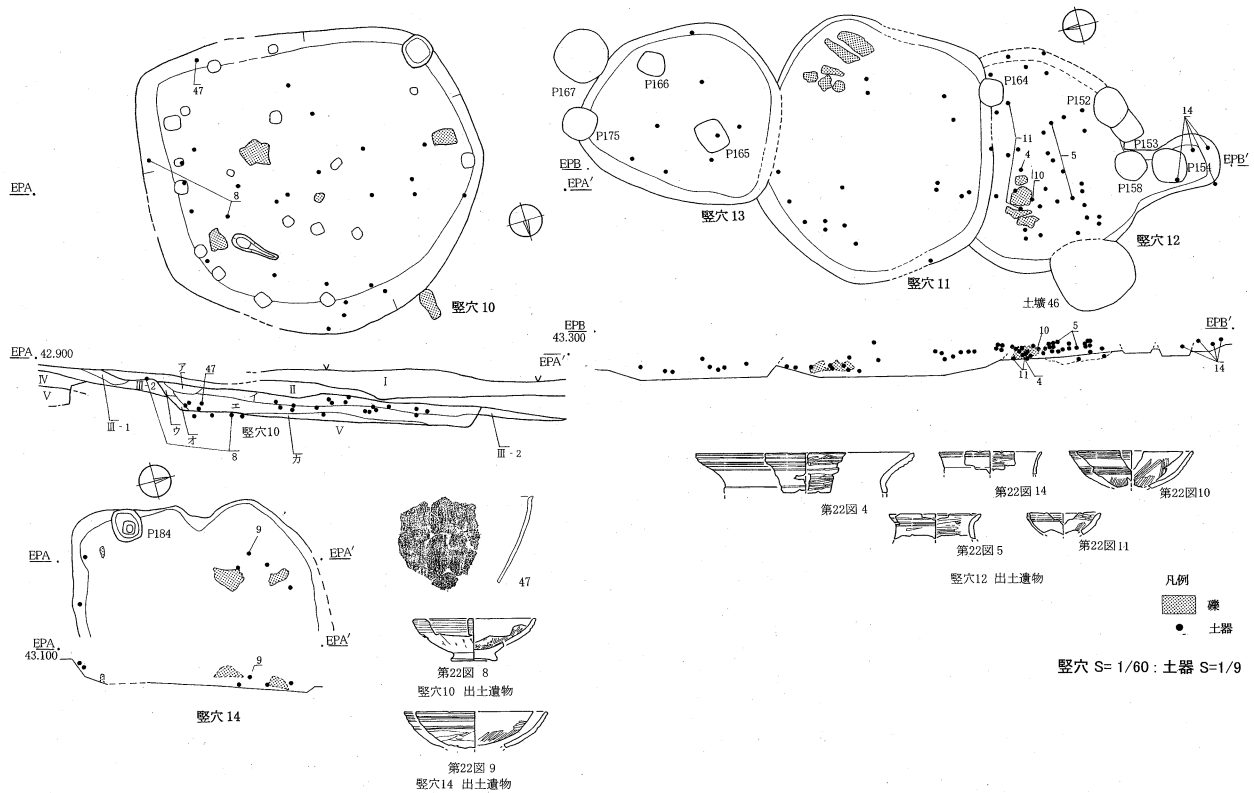
口縁部文様帯直下で明瞭な段状の変換点を作り、やや内屈気味に直線的に外反する1群と明瞭な段を持たず底部から平均的に内湾していく1群がある。内屈気味に直線的に外反する1群は35、37以外である。35、37はⅢ群の高坏に形態に近いが37は28、29、31の大型甕と同様の面からの出土であり、あえてⅣ群とした。36は内屈する最下部横走沈線から上は急激に器厚は極めて薄くなる。38は外反度が強い。口縁部文様帯である横走沈線極めて浅く口縁上半部にあり、最下部沈線直下にてわずかに内屈する。40は口唇部は厚く、口縁部文様帯は明瞭な横走沈線を持たず、凹帯となる。41は器厚は全体に極めて薄い。口縁部文様帯は上から横走沈線3条+交叉状文+刺突文である。交叉状文は2～4条1単位で入り、左右の施文順は一定していないが、左からが多いようである。刺突文は長さ3mm程の爪型文状に縦に入る。43は口縁部は段を持たず、内屈する。口縁部文様帯は3条の横走沈線のうち中央部、下部2本にさらに刺突文が入る。中央部横走沈線内の刺突は左斜め上がり、下部横走沈線内の刺突は右上がりである。施文順はいずれも横走沈線→刺突文である。44は口唇部は部位により、嘴状、丸みをもち肥厚、水平でやや方形、尖ったりと一定でない。調整は外面はヨコナデ、ヨコハケ、ナナメハケ、ユビオサエであり、ケズりに近くない普通のハケメである。46は口唇部はやや内傾し、口縁先端部裏部分がやや肥厚し隆帯を持つ。口縁部は無文であるが、先端部が内屈する。胎土には砂粒を含有する。焼成は良好である。内面、外面、底部とも煤が多量に付着する。45は口唇部は丸みを帯びる。口唇を中心として口縁先端外面、内面に錆色付着物あり。酸化により錆色になった可能性が高い。もとは赤色か？表面には凹凸も見られないことから、液体状のものが付着したと考えられる。口縁部には極めて浅い1条の横走沈線+刺突文あり。刺突文と横走沈線の間部から内屈する。

これらⅣ群大型甕、小型甕、高坏の出土層位は28、29、31、37は竪穴5上一括、30は竪穴上一括である。34は竪穴4覆土、35は竪穴6覆土上からの出土。また41、42、43、44は竪穴9床、覆土面からの出土である。他はⅢ-1層である。

遺構との関係で見ると、Ⅰ群は竪穴12床面、竪穴



第20图 竖穴 遺物水平垂直分布图



第21図 竪穴 遺物水平垂直分布図

10床、竪穴14覆土、竪穴3、4覆土、Ⅲ-2層からの出土、Ⅱ群は竪穴12床、竪穴3覆土、竪穴6覆土、Ⅲ-2層、Ⅲ-1層、Ⅲ群はⅢ-1層、Ⅳ群は竪穴5上一括、竪穴9床、覆土Ⅲ-1等である。これらのことから遺構と遺物の関係を見ると、竪穴12、竪穴10からはⅠ群土器が出土しており、古い時期の遺構である。一方竪穴9床面、覆土からはⅣ群土器が

複数出土しており、一番新しい時期と考えられる。各遺構からの床面一括出土、また各遺構の掘り込みが10~20cmと浅いため、主に掘り込み面であるⅢ-1の新しい時期とⅢ-2の古い時期の遺構が判明した範囲では、竪穴では竪穴1~竪穴6、竪穴10、11がⅢ-2層、竪穴14、15がⅢ-1層からの掘り込み面である。  
(斉藤邦典)

## IV 小括

今年度調査区は昨年度、一昨年度隣接する台地にて擦文期の遺構、遺物が多量に検出されたことにより、この台地上にもこの遺跡が延びていることを確認する目的で、調査を行った。その結果、竪穴、土塙、溝、柱穴等が確認された。掘り込み面が擦文期のⅢ-1、Ⅲ-2層からこれらの遺構が確認されたことにより、この台地にもこの遺跡が延びていることが確認された。遺物は石鏃のみで、土器等は確認されなかったが、昨年度壕東側の外部分でも柱穴、溝等が確認されたのみで、遺物が皆無であったことを考え合わせると、問題は無いと思われる。溝については畑、畝等と考えられるが、規模等が不明なため、明確な判断は出来なかった。昨年、一昨年出土した土器を見ると、Ⅰ群からⅣ群にいくに従い胎土

に砂粒が比較的多く含まれるものや底部外面にも砂粒の多量に附着するものも見られ、内面に黒色処理を施さないものも見られるようになる。器形的には甕は時期的には大きく分けると、竪穴覆土、床面出土のもの、竪穴5覆土上一括土器に分けられるが、竪穴の中でもⅢ-1層掘り込みとⅢ-2のものもあり、竪穴の時期、それ以後の時期の2つと一概に言えない状態である。基本的には竪穴5覆土上一括土器群がその出土状態、器形的にみて最も新しい。これらの中には甕のほかに高坏も含まれており、甕とセット関係になると見られる。この遺跡の存続期間についてはこの遺跡から五所川原産の須恵器等が検出されていないこと、擦文器包含層のⅢ-1、Ⅲ-2層の内、基本的にⅢ-2層は非常に薄く、B-Tm

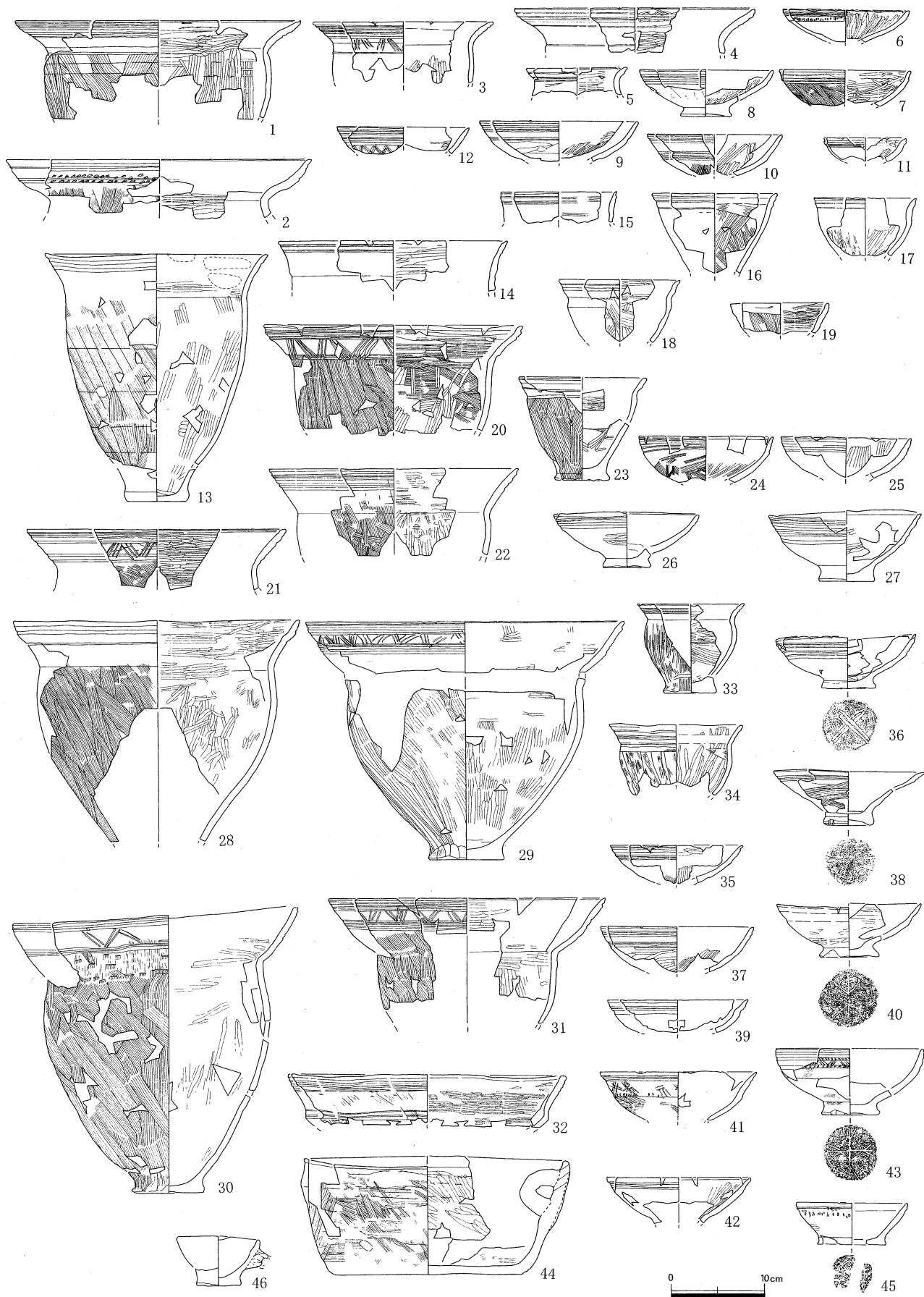
表23 2002、2003年ワシリ遺跡出土土器観察表

図版No.	出土層位	器種	群	口唇	口縁部形態	口縁部文様詳細	頸部	胴部	脚部	底部	胎土	備考
第22図1	Ⅲ-2一括	大型甕	I	嘴状	外反強い。先端部で内屈 内側に幅2mm位の凹帯あり	横走沈線5条…幅1mm、2mm、0.5mm	大きく屈曲				焼成良 やや砂粒含有	黒色処理
第22図2	竪穴4覆土	大型甕	I	嘴状 横走沈線1条 幅1.2	外反強い。 刺突文直下で内屈	横走沈線4条+刺突文 上部横走沈線2条…幅4mm、2mm。深い 下部横走沈線2条…幅2mm、2mm。やや深い 刺突文…幅1.5mm、長さ6mmの右上がり	大きく屈曲				焼成良 硬質	内面黒色処理
第22図3	竪穴3覆土 上面	中型甕	Ⅲ	丸み	外反	横走沈線4条…幅2mm、2mm、1mm、1mm	鋸歯文+横走 沈線 鋸歯文…3条1束 沈線…幅1.5mm 極浅い	やや膨ら みを持つ			焼成やや良 砂粒多量含有	
第22図4	竪穴12床、 Ⅲ-2、 土壇43覆土	中型甕	I	嘴状	外反強い。先端部で内屈 内側に幅2mm位の凹帯あり	横走沈線5条…幅0.5、1.8、1.6、1.5mm	胴部との境に 段を持つ				焼成良 やや硬質	内面黒色処理？
第22図5	竪穴12覆土	壺	I	嘴状 横走沈線1条 幅0.6mm	屈曲して外反	横走沈線3条…幅0.5mm～1.5mm					焼成良 やや硬質 砂粒含有	内面黒色処理 外面も黒色
第22図6	Ⅲ-2	高坏	I	尖る	内湾 刺突文直下にて内屈	横走沈線3条+刺突文 横走沈線…幅0.8mm、1mm、1.5mm。極浅 刺突文…右斜め上がり、幅0.7mm、長さ4mm					焼成良 硬質 砂粒含有無し	内面黒色処理
第22図7	Ⅲ-2	高坏	I	尖る	内湾 最下部沈線直下にて内屈	横走沈線4条…幅2mm、2mm、0.6mm、0.6mm 3、4条目は浅め					焼成良 極めて硬質 砂粒含有無し	内面黒色処理
第22図8	竪穴10床	高坏	I	丸み (方形気味)	内湾 最下部沈線直下にて内屈	横走沈線4条…幅1mm、2mm、2mm、2mm 極浅い		上げ底			焼成良 極めて硬質 砂粒含有無し	内面黒色処理
第22図9	竪穴14覆土	高坏	I	丸み	最下部沈線にてやや段状 内屈	上部横走沈線3条…幅2mm、1mm、1mm 最上部沈線極めて浅い 下部横走沈線…幅2mm。深い					若干砂粒含有 焼成良	内面黒色処理
第22図10	竪穴12床、 覆土、Ⅲ-2	高坏	I	尖る	最下部沈線にてやや段状 内屈	上部横走沈線…幅1.2mm、2.5mm、1mm 下部横走沈線…幅1mm、2.5mm、1.2mm 上部、下部とも2条目が幅広。1条目は極浅					焼成良	内面黒色処理
第22図11	竪穴12床、 Ⅲ-2	高坏	I	尖る	内湾	横走沈線3条…幅各約1.5mm。やや浅め					砂粒含有 焼成良	内面黒色処理
第22図12	Ⅲ-1	高坏	Ⅳ	尖る	内湾	横走沈線5条+鋸歯文 横走沈線5条…幅各約2mm全体に極浅 鋸歯文…2条1単位。極浅					焼成良。硬質	
第22図13	Ⅲ-2一括	中型甕	Ⅱ	丸み	外反	横走沈線3条…各幅4mm。深め	括れ有り	やや膨ら みを持つ			砂質 焼成やや良 やや砂質。焼成良 硬質	黒色処理 内側多量の煤 黒色処理
第22図14	竪穴12床、 Ⅲ-2	小型甕	Ⅱ	尖る	外反	横走沈線2条…幅1.5～2mm					やや砂質。焼成良 硬質	黒色処理
第22図15	竪穴3覆土 破碎礫面	小型甕	Ⅱ	尖る	わずかに外反	横走沈線3条…各幅4mm。極めて浅い					やや砂質。焼成良 硬質	外面煤付着
第22図16	竪穴3覆土	小型甕	Ⅱ	丸み	最上部やや外反	横走沈線3条…幅2mm。線状、 極めて浅い	括れ殆ど無し	ほぼ直線的			焼成良 硬質	外面煤多量付着
第22図17	Ⅲ-1 Ⅲ-2	小型甕	Ⅱ	尖る	最上部やや外反	横走沈線3条…幅1mm、1mm、3mm・極浅	括れ殆ど無し	若干丸み を帯びる			砂粒含有 焼成やや良	
第22図18	Ⅲ-1、竪穴6 壁面、覆土	小型甕	Ⅱ	やや丸み	わずかに外反	横走沈線3条…各幅2mm。極めて浅い。	括れわずかに 有り	若干丸み を帯びる			砂粒少量含有 焼成良 薄手硬質	
第22図19	Ⅱ-1、 Ⅲ-2	坏	Ⅱ	丸み (厚め)	折り返し口縁	内側に雑な横走沈線1条					砂粒含有 焼成良	
第22図20	竪穴2床、 覆土	大型甕	I	嘴状	外反。先端部内屈 内側先端部やや肥厚	横走沈線+鋸歯文+横走沈線 上部横走沈線3条…幅各4mm 中央部鋸歯文…幅1mm。3～4条1単位 下部横走沈線2条…幅各2mm	括れ弱い					黒色処理
第22図21	Ⅲ-1	大型甕	Ⅲ	尖る (やや丸み)	直線的に外反 先端部やや内屈。内側 先端部やや肥厚	横走沈線+鋸歯文+横走沈線 上部横走沈線3条…幅各2mm 中央部鋸歯文…幅0.8～1mm。3～4条1単位 下部横走沈線2条…幅3mm、2mm 内側上部横走沈線1条…幅1.5mm					焼成良	黒色処理
第22図22	Ⅲ-1	大型甕	Ⅲ	尖る (やや丸み)	直線的に外反 先端部やや内屈。内側 先端部やや肥厚	横走沈線上3条、下2条 横走沈線上3条…幅2.5mm、1.5mm、2.5mm 横走沈線下2条…幅1.5mm、1.5mm。浅い	括れ弱い				焼成良	黒色処理？
第22図23	Ⅲ-1	小型甕	Ⅲ	丸み	直線的に外反	中央部が幅1mmの隆帯。沈線なし。 ヨコナデ	括れ弱い	丸みを 帯びる			砂粒多い。砂質 焼成良	黒色処理
第22図24	Ⅲ-1 Ⅲ-2	高坏	Ⅲ	丸み 薄い	内湾。最下部沈線付近か ら内屈	横走沈線5条…幅1mm、0.5mm、1.5mm、 0.5mm、2.5mm。やや浅い					焼成良 やや砂質	黒色処理
第22図25	Ⅲ-1	高坏	Ⅲ	やや尖る	内湾。最下部沈線付近で やや内屈	横走沈線3条…幅2mm、2.5mm、4mm 幅広極浅。ヨコナデ状					砂粒 焼成良	黒色処理
第22図26	Ⅲ-1	高坏	Ⅲ	尖る	内湾。下部沈線付近で やや内屈	横走沈線2条…各幅4mm 極浅幅広。ヨコナデ状		上げ底			砂粒多い。砂質 焼成良	
第22図27	Ⅲ-1、 Ⅲ-2	高坏	Ⅲ	丸み	内湾 最下部沈線下でやや屈曲	横走沈線上3条…幅各2mm 横走沈線下2条…幅3mm、4mm 全体に浅い。					焼成やや良	胴部に赤色付 着物あり。
第22図28	竪穴5上一括	大型甕	Ⅳ	尖る	外反。上部でやや屈曲	横走沈線3条 上部横走沈線2条…幅3mm、2.5mm 下部横走沈線1条…幅2.5mm		球形			焼成良	内面黒色処理 器厚は薄い

表24 2002、2003年ワシリ遺跡出土土器観察表

図版No	出土層位	器種	群	口唇	口縁部形態	口縁部文様詳細	頸部	胴部	脚部	底部	胎土	備考
第22図29	堅穴5上一括	大型甕	IV	丸み	内湾しながら外反	横走沈線+鋸歯文+横走沈線 上部横走沈線…幅1mm、1mm、1.5mm、深め 中央部鋸歯文3条…各幅0.4mm 3条1単位 下部横走沈線…幅1mm、0.5mm、2.5mm、浅め	括れ有り	球形	へら状道具で1cm幅に縦に面取り	外周砂粒多量	砂粒多量含有 焼成やや良	
第22図30	Ⅲ-1一括	大型甕	IV	水平 (やや角張る) 横走沈線1条 幅1.8mm	内湾しながら外反	横走沈線+鋸歯文+横走沈線 上部横走沈線…幅1～1.5mm 中央部鋸歯文…0.6mm幅2条1単位 下部横走沈線…各幅2.5mm	括れ強い	球形			砂粒含有 焼成良	
第22図31	堅穴5上一括	大型甕	IV	尖る やや丸みあり	やや内湾しながら外反	横走沈線+鋸歯文+横走沈線 上部横走沈線3条…幅1.5mm、2mm、1.5mm 中央部鋸歯文…幅0.6mm、2条1単位 下部横走沈線…1mm～1.5mm	括れ強い 胴部との境で 段あり	やや球形			砂粒含有 焼成良	
第22図32	Ⅲ-1	大型甕	IV	やや丸み 横走沈線1条 幅1.5～2mm	外反	横走沈線4条…幅1.5mm、1mm、2.5mm、 1.5mm。深め。上部にあり	胴部との境で 段を持つ				砂粒なし 焼成良	口縁部表裏煤 付着
第22図33	Ⅲ-1	小型甕	IV	丸み	外反	横走沈線3条…各幅1.5mm～2mm 極浅	括れ有り 胴部との境 で微妙に段あり	球形		砂、微少 砂礫含有	砂粒、微少砂礫 含有。焼成良	
第22図34	堅穴4覆土	小型甕	IV	丸み	直線的に外反	横走沈線2条…幅0.5mm、2mm 極浅	括れ有り。 胴部との境で 段を作る	球形			砂粒含有 焼成良	内面黒色処理 全体に器厚は 薄い
第22図35	堅穴6覆土上 Ⅲ-1	高坏	IV	尖る	外湾	横走沈線5条…幅1mm前後。極浅					砂粒含有 焼成やや良	内面黒色処理
第22図36	Ⅱ、Ⅲ-1	高坏	IV	尖る (極薄)	最下部沈線直下で段を持ち 内屈する。	段状幅広横走沈線 横走沈線上部2条…幅各1.8mm 横走沈線下部2条…幅各3.5mm			ハケ状工 具で調整	微妙に上 げ底	砂粒含有 焼成良	器厚が極めて薄い 内面黒色処理 外面も黒い
第22図37	堅穴5上一括	高坏	IV	やや尖る	内湾。最下部沈線直下で 微妙に内屈	横走沈線上部3条…幅0.5、1.7、2mm 横走沈線下部2条…幅各3.5mm。極浅					砂粒含有 焼成良	
第22図38	Ⅲ-1	高坏	IV	やや尖る	内湾。最下部沈線直下で やや段となり、内屈する。	横走沈線2条…幅1.5mm、1mm。極浅				上げ底 刻印有り	多量の砂粒含有。 焼成良	内面黒色処理?
第22図39	堅穴5上一括	高坏	IV	丸み	下部凹直下で、段状に内屈	横走沈線3条…幅4mm、1mm、2.8mm					砂粒含有	
第22図40	Ⅲ-1	高坏	IV	やや尖る	凹部直下で段を持つ	横走沈線1条…極浅。ナヲ様				砂礫含有	砂粒含有	内面黒色処理
第22図41	堅穴9覆土 ・床、Ⅲ-1	高坏	IV	尖る	内湾 交叉状文付近で段状、 内屈。先端はやや外湾	横走沈線3条…幅2mm、0.5mm、2mm。極浅 交叉状文…2～4条1単位。極浅 刺突文…縦点列様。極浅					砂粒含有	器面極薄。内 面黒色処理 外面も黒い
第22図42	堅穴9床、 覆土	高坏	IV	丸み	内湾。最下部沈線直下で やや肥厚し内屈する。	横走沈線2条…各幅1mm。極浅					砂粒多量	内面黒色処理
第22図43	堅穴9床 Ⅲ-1	高坏	IV	丸み	内湾。最下部沈線1cm程 下で段状、内屈する	横走沈線3条…幅1.5mm、2mm、2mm 刺突文…左上がり、右上がり 鋸歯文…4条単位				やや上げ底	砂粒多い 焼成やや良	
第22図44	堅穴9床、 Ⅲ-1、Ⅲ-2	鍋		丸み 水平(やや方形)、 嘴状	口縁部付近でやや外反 直線的立ち上がり						粘土紐接合痕	
第22図45	Ⅲ-1	高坏	IV		直線的な立ち上がり 口縁部沈線付近で内屈	ヨコナヲ様極浅沈線 幅2mm位			ヨコハケ 整形	ほぼ水平 刻印有り	砂粒含む 焼成良	口唇、口縁に 錆色付着物
第22図46	Ⅲ-1	把手付 土器		やや内傾	口縁部近く先端部に凹部 あり。 やや屈曲する。					砂粒付着	砂粒含有 焼成やや良	内面黒色処理 煤多量付着





第22図 2002、2003年度出土遺物

との時間差の判断を非常に困難にしているところであるが、Ⅲ-2層中間部ではシルトとB-Tmの同比率での攪反が見られるがⅢ-2層最下部ではB-Tmを主体とし、シルト比率が非常に少ない。また壕の土層堆積ではB-Tm純層の上に堀上土により土塁が築かれていること等から、上限はB-Tm降下以降であり、10世紀末か11世紀代初頭の可能性が強い。下限については町内洲崎館跡や上ノ国遺跡等で12世紀末代の珠洲I期の甕等が検出されており、近年石崎地区でも珠洲IV期14世紀代の播鉢が発見されており、今後町内で、どの程度まで時代が下がった陶磁器が検出されるかが、一つのキーポイントとなるのでは

ないだろうか。今年度は遺構と遺物との関係を詳細に検討するまでには至らなかったが、今後、再検討する予定である。来年度は町内遺跡の過年度表採遺物や、未報告遺物の整理作業を行うこととなった。町内擦文期資料等も対象遺物に含まれており、これらとの比較検討を行うことにより、道南上ノ国エリアの土器様相が見えてくるのではないだろうか。

(斉藤邦典)

# 圖 版

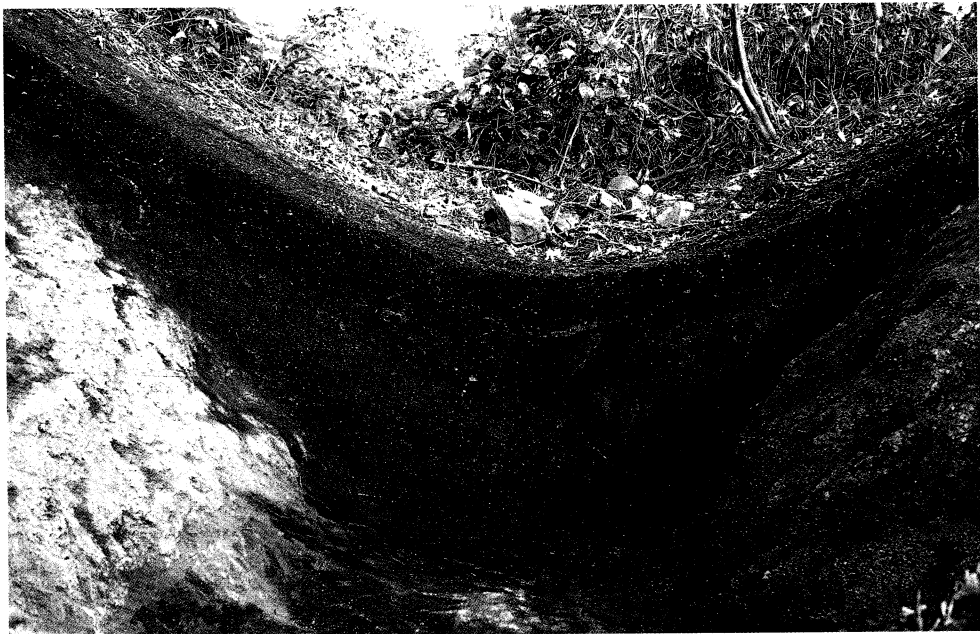




史跡上之国花沢館跡遠景（東から）



空壕平面（南西から）



空壕土層堆積（西から）



ワシリ遺跡 調査区近景（南西から）



第1調査区 竪穴1（南東から）



第2調査区 調査終了（北東から）



調査区全景（東から）



作業風景（南西から）



TP 3 東西南壁土層堆積



TP 9 東西南壁土層堆積



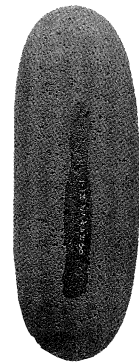
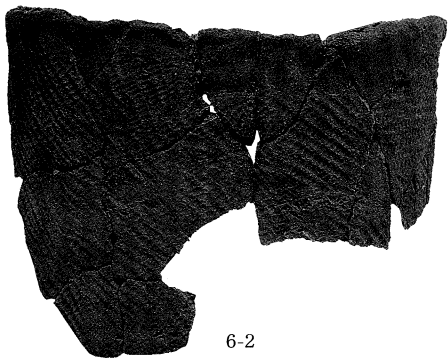
TP 9 土器出土状況



TP 13 東西南壁土層堆積



TP 6 土器出土状況







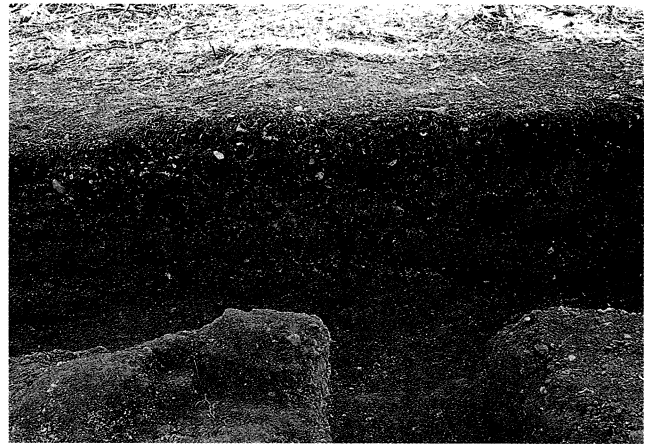
頂上平坦面 A 調査終了 (南西から)



頂上平坦面 A 溝1、2(南から)



11 I -9、10 東西南壁土層堆積



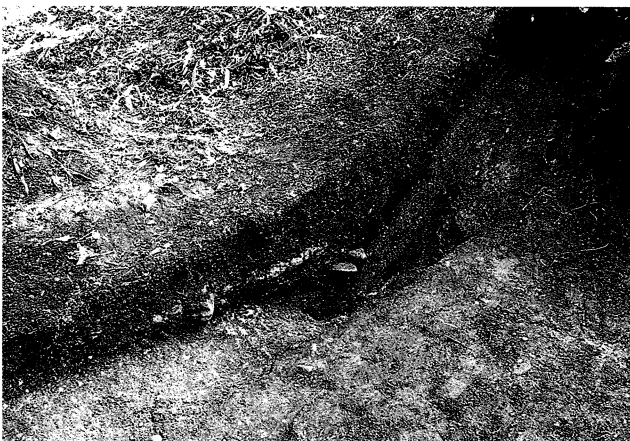
11 I -10 南北東壁土層堆積



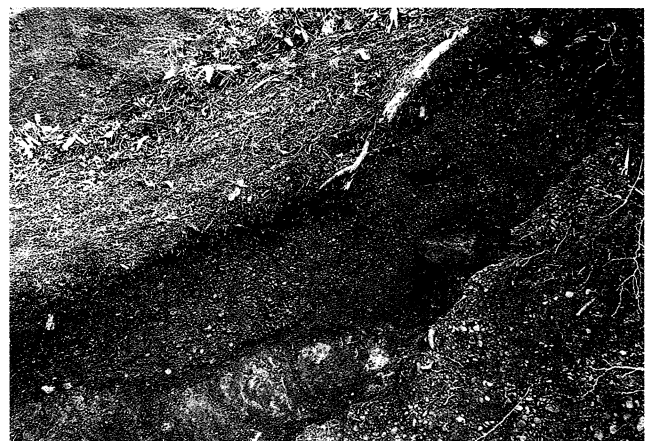
8 I -25 珠洲播鉢・青磁碗出土状況



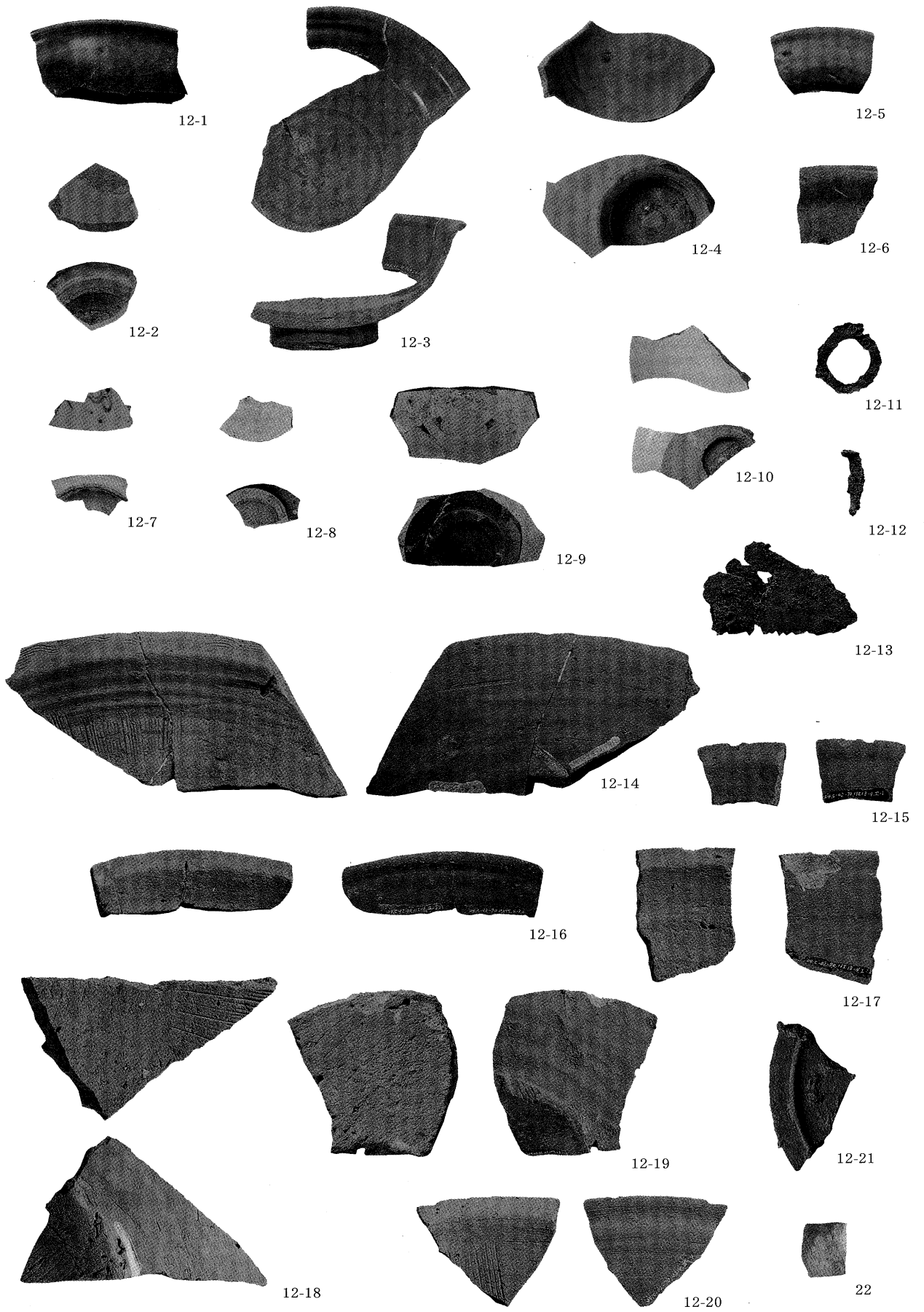
8 I -25 白磁皿出土状況

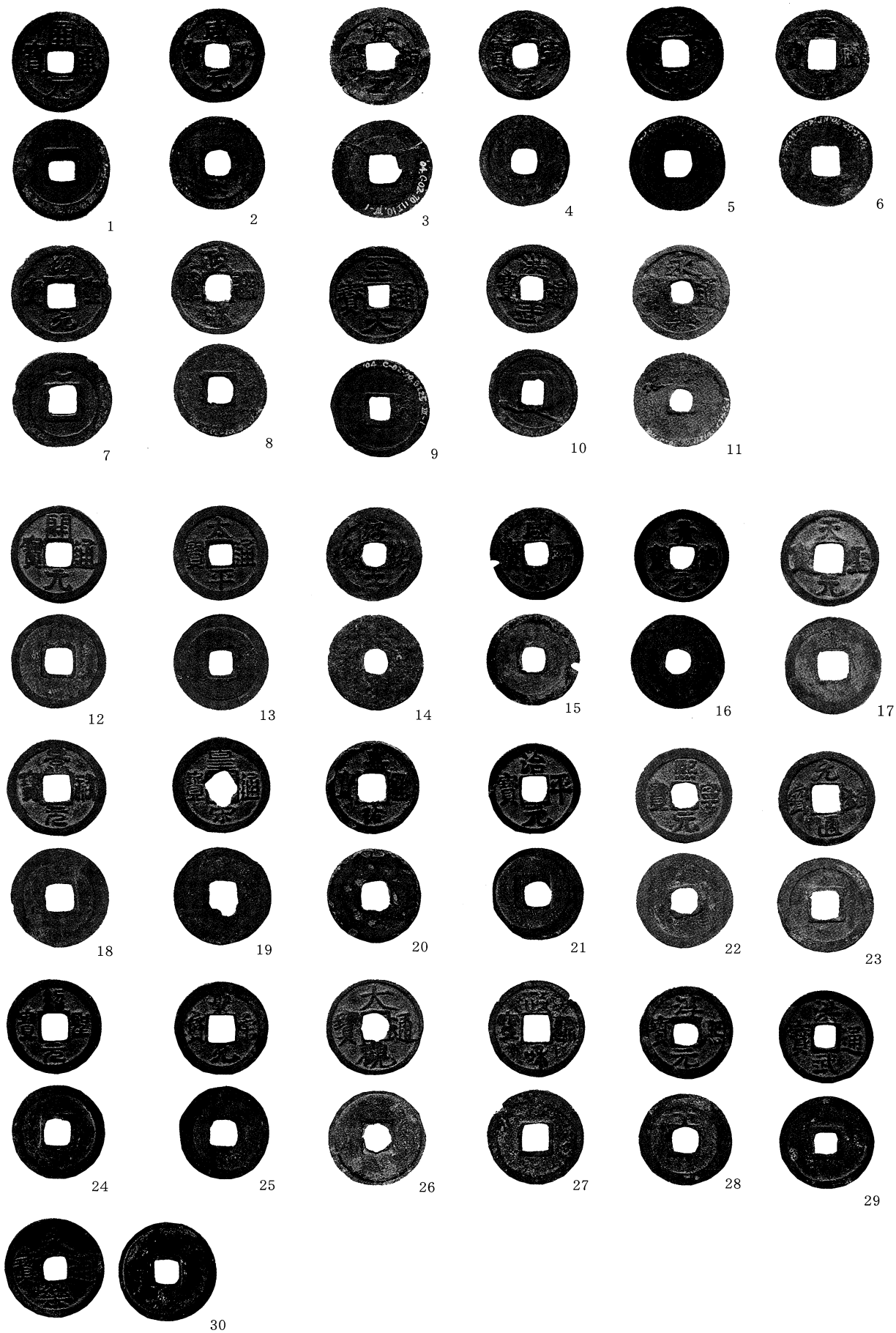


第2平坦面 A 溝6 土層堆積



第2平坦面 B 溝8 土層堆積

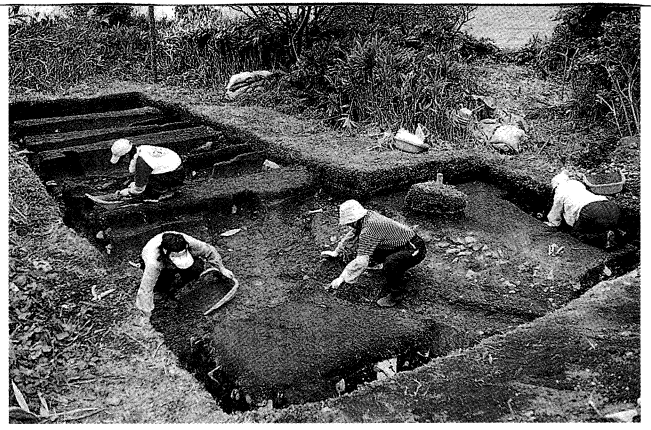




(第17図1、2・16図1・18図1)



調査区全景 (南東から)



第1調査区 調査風景 (東から)



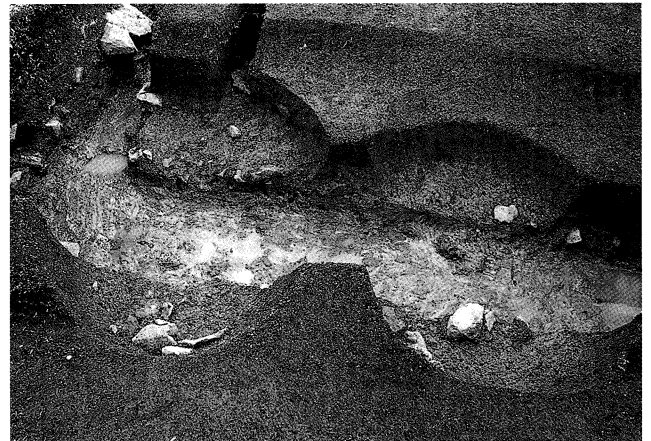
第1調査区 竪穴1集石検出状況 (東から)



第1調査区 溝 完掘状況 (東から)



第2調査区 作業風景 (東から)



第1調査区 土壌2,3完掘 (北から)

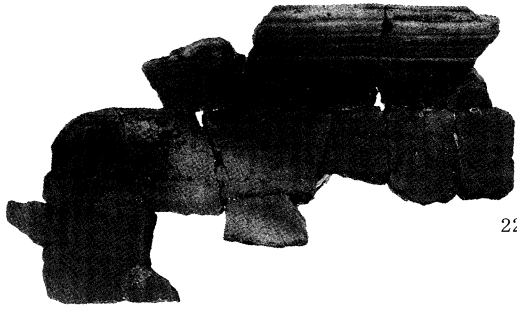


第3調査区 土壌13完掘 (東から)

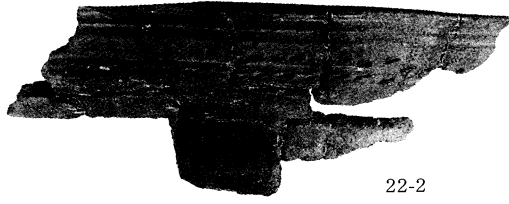


第5調査区 完掘全景 (北西から)

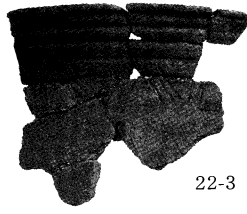




22-1



22-2



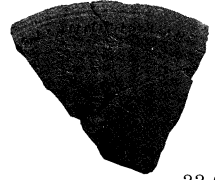
22-3



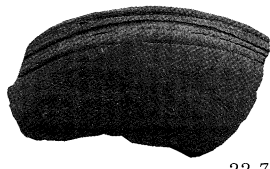
22-4



22-5



22-6



22-7



22-10



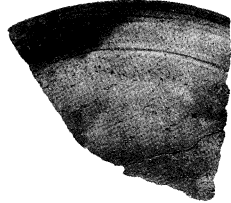
22-8



22-11



22-12



22-9



22-14



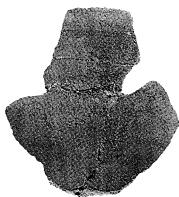
22-13



22-15



22-16



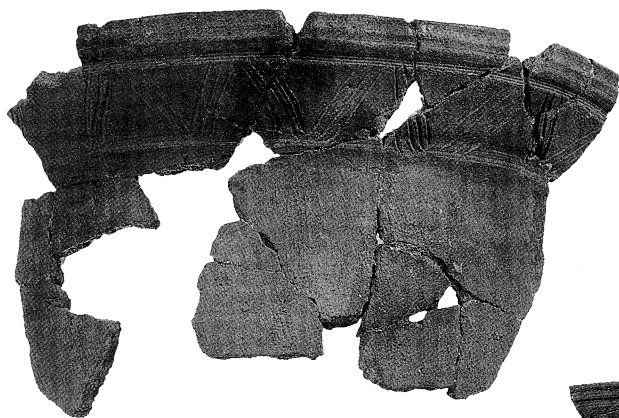
22-17



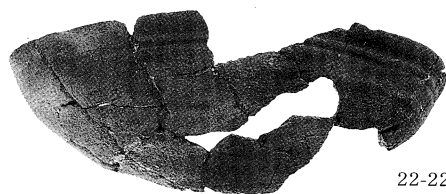
22-18



22-19



22-20



22-22



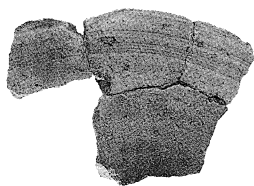
22-23



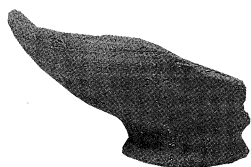
22-24



22-21



22-25



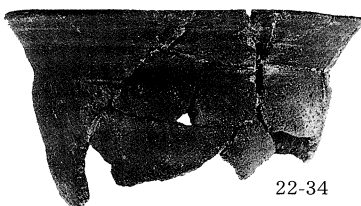
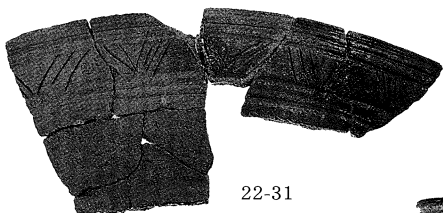
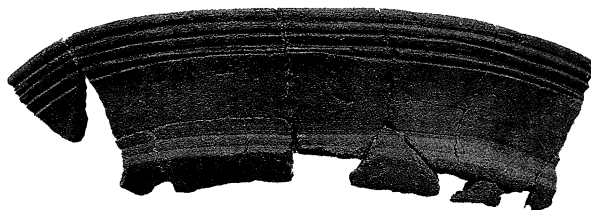
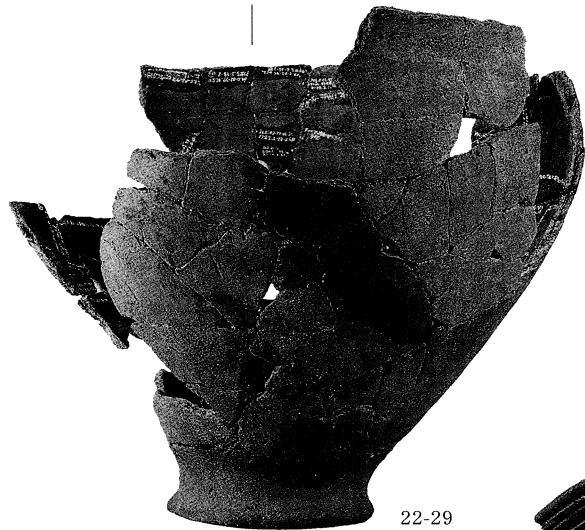
22-26



22-27



22-28



22-29

22-30

22-32

22-31

22-34

22-35

22-33

22-37

22-38

22-36

22-39



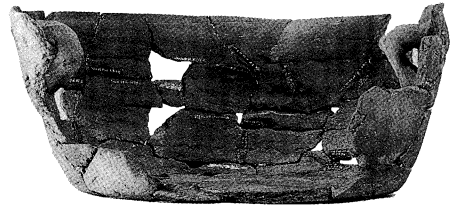
22-40



22-41



22-42



22-44



22-43



22-45



22-46



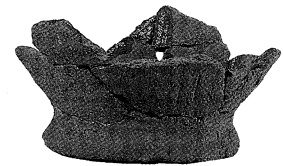
47



48



49



50



51



52



53



54



55



56



57



58



## 報 告 書 抄 録

ふ り が な	ちょうないせきはつくつちょうさじぎょうほうくこしょ							
書 名	町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅷ							
副 書 名	上之国洲崎館跡 史跡上之国花沢館跡 ワシリ遺跡							
巻 次	7							
シ リ ー ズ 名	町内遺跡発掘調査事業							
シ リ ー ズ 番 号	8							
編 著 者 名	斉藤邦典 高橋 昇							
編 集 機 関	上ノ国町教育委員会							
所 在 地	〒049-0611 北海道檜山郡上ノ国町字大留100 TEL. 01395-5-2230							
発 行 年 月 日	2005年3月31日							
ふ り が な 所 収 遺 跡 名	ふ り が な 所 在 地	コード		北 緯	東 経	調 査 期 間	調 査 面 積	調 査 原 因
		市 町 村	遺 跡 番 号					
かみのくにすぎきたてあと 上之国洲崎館跡	かみのくにちょうあざきたむら 上ノ国町字北村 148、149-2	013625	C-02-25			平成16年5月19日 ┌ 平成16年6月17日	57㎡	町内遺跡 発掘調査 等 事 業
し せき 史 跡 かみのくにはなざわたてあと 上之国花沢館跡	かみのくにちょうあざかつやま 上ノ国町字勝山 172-1 他	013625	C-02-70			平成16年9月14日 ┌ 平成16年11月5日	97㎡	町内遺跡 発掘調査 等 事 業
ワ シ リ 遺 跡	かみのくにちょうあざしおふき 上ノ国町字汐吹 173-1	013625	C-02-77			平成16年6月17日 ┌ 平成16年9月10日	96㎡	町内遺跡 発掘調査 等 事 業
所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
上之国洲崎館跡	遺物包含地	縄文・続 縄文	土壌・柱穴		土器・石器			
史 跡 上之国花沢館跡	遺物包含地	中世	空壕 溝 柱穴		陶磁器 青磁・白磁・染付 珠洲 鉄製品 釘			
ワ シ リ 遺 跡	遺物包含地	擦文	竪穴 土壌 溝		石器			

---

## 町内遺跡発掘調査事業報告書Ⅷ

上之国洲崎館跡分布調査  
史跡 上之国花沢館跡分布調査  
ワシリ遺跡分布調査

発行：上ノ国町教育委員会  
北海道松山郡上ノ国町字大留100  
印刷：平成17年3月31日  
発行：平成17年3月31日  
印刷所：(有)三和印刷

---

